愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XVIII

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

―― 2006年度 ――

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００８

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

―― 2006年度 ――

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００８

序　　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及び、本部事務局と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地には鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地には桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡が分布している。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を行い、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした発掘調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、愛媛大学の場合、出土品の多さと頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を打開するため、2000年に調査室の体制を再整備し、報告書刊行に向けての整理作業を前進させる一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と全面調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。本書は、その2006年度に実施した埋蔵文化財調査等をまとめた年報である。

本書をまとめるにあたっては、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

平成20年３月１日

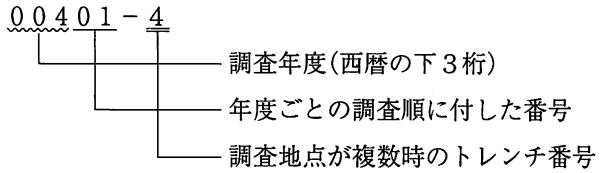
愛媛大学埋蔵文化財調査室

室長　下　條　信　行

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2006年度に実施した事業、とくに大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果と全面調査の概要を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅧにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、全面調査と構内遺跡確認調査について遺跡ごとに調査次数を付していると同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。複数の地点（トレンチ）を調査した場合、調査番号に加えて－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SX の記号を用いて遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成し浄写を行った。

7．本書に使用した遺物図は、吉田が作成し、浄写を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、濱田美加の協力を得るとともに、下條信行の指導のもと、田崎が編集を行った。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会……1
2　2006年度の埋蔵文化財調査室事業……1
（1）発掘調査と整理作業
（2）発掘調査報告書・埋蔵文化財調査年報の刊行
（3）広報、資料等の利活用

Ⅱ　2006年度実施の発掘調査

00601　（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査……10
00602　（樽味団地）農学部上水道水漏れ修繕工事に伴う調査……16
00603　（樽味団地）農学部敷地内電柱立て替え工事に伴う調査……17
00604　（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査（持田団地構内遺跡１次調査）……17
00605　（畑寺団地）農学部附属農業高等学校果実収納庫新営工事に伴う調査……25
00606　（畑寺団地）2006年度確認調査……27
00607　（重信団地）医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事に伴う調査……29
00608　（樽味団地）総合研究棟改修工事に伴う調査（樽味遺跡８次調査）……34
00609　（樽味団地）農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事に伴う調査……42
00610　（城北団地）教育学部４号館耐震補強工事に伴う調査……44
00611　（城北団地）宮前川架橋取設他工事に伴う調査（文京遺跡30次調査）……47
00612　（城北団地）法文学部２号館非常階段取設工事に伴う調査（文京遺跡31次調査）……54
00613　（城北団地）屋外施設等取設工事に伴う調査……64
00614　（樽味団地）総合研究棟改修機械設備工事に伴う調査……64
00615　（城北団地）理学部総合研究棟等改修（Ⅱ期）電気設備工事に伴う調査……69

挿図目次

図１　愛媛大学主要団地位置図（縮尺1/200,000）……4
図２　城北団地における2006年度調査地点
（縮尺1/3,500）……5
図３　持田団地における2006年度調査地点
（縮尺1/2,000）……6
図４　樽味団地における2006年度調査地点
（縮尺1/2,500）……7
図５　重信団地における2006年度調査地点
（縮尺1/3,000）……8
図６　00601・00604（持田団地構内遺跡１次）調査
地点位置および南北地形断面図
（縮尺1/1,200、1/120）……10－11
図７　持田団地構内遺跡における基本層序と00601
調査各トレンチ土層との関係……11
図８　00601調査１～９トレンチ土層断面図
（縮尺1/50）……12－13
図９　00602・00608・00614調査地点位置図
（縮尺1/750）……18
図10　00603調査地点位置および１・２トレンチ土
層柱状図（縮尺1/1,000、1/50）……19
図11　00604調査Ⅰ区西壁土層断面図（縮尺1/50）‥21
図12　00604調査Ⅰ区実測図（縮尺1/100、1/40）
……22－23
図13　00604調査Ⅱ区実測図（縮尺1/100）……23
図14　00605調査地点配置および１・２トレンチ実
測図（縮尺1/2,500、1/300）……25
図15　畑寺団地周辺地形および遺跡分布
（縮尺1/3,000）……28
図16　00607調査１～６トレンチ配置および土層柱
状図（縮尺1/1,500、1/50）……29
図17　00607調査７トレンチ配置および土層柱状図
（縮尺1/1,500、1/50）……30
図18　99211・99301・00607調査区地形断面図
（縮尺1/1,000、1/50）……33
図19　00608（樽味遺跡８次）調査１区実測図
（縮尺1/50）……35
図20　00608（樽味遺跡８次）調査３・４区実測図
（縮尺1/50）……38
図21　00608（樽味遺跡８次）調査５区実測図
（縮尺1/50）……41
図22　00609調査地点位置図（縮尺1/1,000）……42
図23　00609調査実測図（縮尺1/50）……43
図24　00610調査地点位置図（縮尺1/1,000）……44
図25　00610調査実測図（縮尺1/50）……45
図26　00611（文京遺跡30次）調査地点位置図
（縮尺1/500）……49
図27　00611（文京遺跡30次）調査１区実測図
（縮尺1/50）……50
図28　00611（文京遺跡30次）調査１区Ⅳ層中遺物
出土状況（縮尺1/10）……52
図29　00611（文京遺跡30次）調査２区実測図
（縮尺1/50）……53
図30　00611（文京遺跡30次）調査区周辺土層図
（縮尺1/700、1/50）……54
図31　00612（文京遺跡31次）調査地点位置図
（縮尺1/500）……56
図32　00612（文京遺跡31次）調査１区実測図
（縮尺1/50）……58－59
図33　00612（文京遺跡31次）調査遺構実測図
（縮尺1/50）……60
図34　00613調査地点位置図（縮尺1/500）……62
図35　00613調査１・２トレンチ土層断面実測図
（縮尺1/50）……63
図36　00614調査１・２トレンチ実測図（縮尺1/50）‥65
図37　00614調査３トレンチ実測図（縮尺1/50）……67
図38　00614調査出土遺物実測図（縮尺1/3）……68
図39　00615調査位置および１・２トレンチ土層柱
状図（縮尺1/500、1/50）……70
図40　城北団地（文京遺跡）における既往調査地点
……78－79
図41　樽味団地（樽味遺跡）における既往調査地点
……79
図42　持田団地（持田団地構内遺跡）における既往
調査地点……80
図43　重信団地における既往調査地点
……巻末

写真目次

写真１　00601調査１～３トレンチ遠景（西から）‥13
写真２　00601調査１トレンチ西壁土層……13
写真３　00601調査２トレンチ西壁土層……13
写真４　00601調査３トレンチ全景および西壁土層（北東から）……13
写真５　00601調査４トレンチ全景（北東から）……13
写真６　00601調査４トレンチ西壁土層……13
写真７　00601調査５トレンチ全景（南から）……13
写真８　00601調査５トレンチ西壁北端部土層……14
写真９　00601調査５トレンチ西壁中央部土層……14
写真10　00601調査５トレンチ西壁南端部土層……14
写真11　00601調査６トレンチ全景および西壁土層（南東から）……14
写真12　00601調査７トレンチ全景（南東から）……14
写真13　00601調査８トレンチ西壁土層（南東から）……14
写真14　00601調査９トレンチ全景および東壁土層（北西から）……14
写真15　00602調査風景（西から）……17
写真16　00602調査漏水管確認状況……17
写真17　00603調査地全景（北から）……19
写真18　00603調査１トレンチ完掘状況（北から）‥19
写真19　00603調査２トレンチ完掘状況（南から）‥19
写真20　00604調査Ⅰ区の表土層除去作業……22
写真21　00604調査Ⅰ区南壁土層……22
写真22　00604調査Ⅰ区中層水田床土層上面での犂跡検出状況……22
写真23　00604調査Ⅰ区中層水田床土層上面で出土した犂跡……22
写真24　00604調査Ⅰ区下層水田面のSD-１と犂跡（西から）……22
写真25　00604調査Ⅰ区SD-１の土層断面……22
写真26　00604調査Ⅰ区下層水田層の床土層上面で出土した足跡……22
写真27　00604調査Ⅱ区表土層除去状況（東から）‥24
写真28　00604調査Ⅱ区南壁土層（北東から）……24
写真29　00604調査Ⅱ区完掘状況（北から）……24
写真30　00605調査１トレンチ遠景（西から）……26
写真31　00605調査１トレンチ完掘状況（南から）‥26
写真32　00605調査１トレンチ北端部の完掘状況（南から）……26
写真33　00605調査１トレンチ北端の攪乱壙（東から）……26
写真34　00605調査２トレンチ遠景（北から）……26
写真35　00605調査２トレンチ遠景（南から）……26
写真36　00605調査２トレンチ完掘状況（北から）‥26
写真37　00606調査畑寺団地全景（西から）……27
写真38　00606調査畑寺団地頂部から西を望む……27
写真39　00607調査１トレンチ遠景（南西から）……31
写真40　00607調査１トレンチ北壁土層……31
写真41　00607調査２トレンチ遠景（南東から）……31
写真42　00607調査２トレンチ西壁土層……31
写真43　00607調査３トレンチ遠景（北から）……31
写真44　00607調査３トレンチ南壁土層……31
写真45　00607調査４トレンチ遠景（南から）……31
写真46　00607調査４トレンチ南壁土層……31
写真47　00607調査５トレンチ遠景（南東から）……32
写真48　00607調査５トレンチ北壁土層……32
写真49　00607調査６トレンチ遠景（東から）……32
写真50　00607調査６トレンチ北壁土層……32
写真51　00607調査７トレンチ遠景（西から）……32
写真52　00607調査７トレンチ西壁土層……32
写真53　00608調査１・２区遠景（北東から）……36
写真54　00608調査１区全景（南から）……36
写真55　00608調査２区全景（北から）……36
写真56　00608調査３・４区遠景（北東から）……36
写真57　00608調査３区遺構検出状況（西から）……36
写真58　00608調査３区完掘状況（西から）……36
写真59　00608調査４区遺構検出状況（西から）……36
写真60　00608調査４区完掘状況（東から）……36
写真61　00608調査５区遠景（北東から）……42
写真62　00608調査５区全景（南から）……42
写真63　00609調査地点近景（南西から）……43
写真64　00609調査区完掘状況（北から）……43
写真65　00610調査１トレンチ遠景（南東から）……47
写真66　00610調査１トレンチ（西から）……47
写真67　00610調査２・３トレンチ遠景（北東から）47
写真68　00610調査２トレンチ（南から）……47

写真69　00610調査２トレンチ（西から）……47
写真70　00610調査３トレンチ（西から）……47
写真71　00611調査区遠景（南から）……51
写真72　00611調査１区上層水田面（東から）……51
写真73　00611調査１区西壁水田関連土層（東から）……51
写真74　00611調査１区Ⅳ層上面遺構完掘状況（東から）……51
写真75　00611調査１区SX-１（南東から）……51
写真76　00611調査１区東半部のⅣ層上面の検出遺構（西から）……51
写真77　00611調査１区Ⅳ層中の縄文土器出土状況（南西から）……51
写真78　00611調査２区完掘状況（南から）……53
写真79　00612調査１区移植作業……59
写真80　00612調査１区全景（西から）……59
写真81　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構検出状況……59
写真82　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況１……59
写真83　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況２……59
写真84　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況３……59
写真85　00612調査１区SK-２遺物出土状況（南東から）……59
写真86　00612調査１区SP-26土層断面……59
写真87　00612調査１区Ⅳ-３b層上面の遺構完掘状況１……61
写真88　00612調査１区SK-101遺物出土状況……61
写真89　00612調査１区SP-108遺物出土状況……61
写真90　00612調査１区SK-114土層断面……61
写真91　00612調査１区Ⅳ-３b層上面の遺構完掘状況２……61
写真92　00612調査１区西壁土層断面……61
写真93　00612調査２区遠景（南西から）……61
写真94　00612調査２区南壁土層断面……61
写真95　00613調査区遠景（北東から）……63
写真96　00613調査１トレンチ全景（南から）……63
写真97　00613調査２トレンチ全景（北から）……63
写真98　00614調査１・２トレンチ遠景（南から）……66
写真99　00614調査１トレンチ（北東から）……66
写真100　00614調査２トレンチ（北東から）……66
写真101　00614調査２トレンチ西壁土層（北東から）……66
写真102　00614調査３トレンチ全景（東から）……66
写真103　00614調査３トレンチ西半部（東から）……66
写真104　00614調査３トレンチ東半部（西から）……66
写真105　00614調査３トレンチ東端部のⅢ層出土状況（東から）……66
写真106　00615調査１トレンチ遠景（南から）……71
写真107　00615調査１トレンチ西壁土層……71
写真108　00615調査２トレンチ近景（南西から）……71
写真109　00615調査２トレンチ東壁土層……71

表　目　次

表１　2006年度の埋蔵文化財調査室の体制……2
表２　2006年度埋蔵文化財調査依頼一覧……3
表３　2006年度発掘調査一覧……4
表４　2006年度調査室・調査室資料利用一覧……9
表５　00608（樽味遺跡８次）調査出土遺構一覧……37
表６　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧（2007年12月現在）……72～77

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

2006年度の埋蔵文化財調査委員会は、2006年７月25日（第１回）と2007年２月27日（第２回）に開催された。

第１回埋蔵文化財調査委員会では、施設企画課長から埋蔵文化財調査委員会規程の一部改正とその経緯、新委員の紹介があった後、施設基盤部長から林和男副学長（広報・環境・情報担当）が委員長に決定された旨の説明があった。埋蔵文化財調査委員会の体制は以下の通りである。

委員長　林　　和男（副学長､広報･環境･情報担当）
委　員　亀井　　崇（副学長、総務・施設担当）
委　員　森　　孝明（法文学部長）
委　員　下條　信行（法文学部・教授）
委　員　松原　弘宣（法文学部・教授）
委　員　曲田　清維（教育学部長）
委　員　川岡　　勉（教育学部・教授）
委　員　野倉　嗣紀（理学部長）
委　員　橋本　公二（医学部長）
委　員　高松　雄三（工学部長）
委　員　山之内恵一（本部・経営企画部長）
委　員　八木　修一（本部・財務部長）
委　員　山地　久司（本部・施設基盤部長）

委員長の挨拶の後、2005年度事業報告、2006年度事業計画、その他の議題が報告・審議された。2005年度の実施事業については、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の刊行と発送、広報・資料の利活用状況、そして愛媛大学保管・所蔵資料に関する各事業内容が下條埋蔵文化財室長から報告された。印刷物について、委員長からWeb利用などの可能性が質問され、調査報告書はデータ容量が大きいことから紙媒体で行っていること、調査報告書の簡易版をWebで一部公開していることが説明された。2005年度会計報告では、『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査－』の刊行できなかった理由と今後の見通しが説明され、その予算額を2006年度に繰り越したことが報告された。以上の審議が行われ、2005年度の実施事業・会計報告は了承された。つづいて､2006年度実施計画事業については､発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の印刷・刊行、発送、広報・資料の利活用の各計画、2006年度予算案について説明が行われ、審議の後、2006年度の事業計画・予算は了承された。その他、埋蔵文化財室長から、埋蔵文化財調査室に保管されている資料の利用がとくに多くなっていること、松山市文化財専門委員会から文京遺跡出土資料の公開要望が出されていることを再確認した上で、資料公開のあり方と埋蔵文化財調査室の利用規程について検討したい旨の提案があり､了承された。

第２回埋蔵文化財調査委員会では、2007年度事業計画について審議された。埋蔵文化財室長から、大学ミュージアム計画の進行に伴い、埋蔵文化財調査室の業務を、①発掘調査、整理作業（遺物整理と遺物実測）、報告書・年報作成に関わる業務と、②展示・普及活動（大学ミュージアム計画に対応する業務、公開講座）に関わる業務に再構築することが提起され、事業計画の内容が説明された。とくに、発掘調査については、耐震補強に伴う改修工事が複数計画されていることが説明され、これに対応する発掘計画の策定が確認された上で、事業計画は了承された。その後、2007年度予算案について資料に基づき説明が行われ、原案通り了承された。　（吉田）

2　2006年度の埋蔵文化財調査室事業

（1）発掘調査と整理作業

埋蔵文化財調査室では、毎年度当初、各部局に計画されている掘削を伴う工事について施設基盤部を通じて問い合わせを行い、各工事について埋蔵文化財への影響を判断し、調査あるいは工法変更等の協議を行うこととしている。この中で、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度で埋蔵文化財に影響がないと判断されたものについては、発掘調査は必要ないことを回答

するとともに、慎重工事を依頼している。一方、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した場合は、工事の規模・埋蔵文化財への影響度を勘案して調査を行うこととなる。

2006年度には、39件の調査依頼あるいは照会を受け（表２）、15件について調査を実施した（表３）。年度後半から調査依頼と調査件数が大幅に増えたため、年度末の業務をかなり圧迫する状況であった。団地別では、城北団地で５件、樽味団地で５件、持田団地で２件、重信団地で１件、畑寺団地で２件である（図１～５）。調査種別では、試掘調査が２件、立会調査９件、本格調査３件、確認調査１件である。本格調査は、持田構内遺跡１次調査（調査番号：00604）、樽味遺跡８次調査（調査番号：00608）、文京遺跡30次調査（調査番号：00611）である。また、00612調査は、調査面積が狭いために立会調査形式で着手したが、弥生時代の遺構・遺物に加えて、より下層で縄文時代後期の遺構と遺物が出土し、調査期間も長くなったことから、31次調査として調査次数を付与した。確認調査は、畑寺団地で00606調査として実施した。

発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業として、理学部総合研究棟改修工事に伴う文京遺跡28次調査出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を行った。また、城北団地工学部校舎新営Ⅰ期工事に伴う文京遺跡12次調査で水洗した土壌から微細遺物の選別作業を進めた。出土遺物の実測・製図作業は、情報教育棟新営工事に伴う文京遺跡25次調査出土遺物と、旧愛媛大学歴史学研究会保管資料について実施した。年度当初に計画していた農学部２号館改修工事に伴う樽味遺跡７次調査出土遺物については、2007年度に持ち越すこととなった。（吉田）

表１　2006年度の埋蔵文化財調査室の体制

室　　長	下條　信行	法文学部教授
調　査　員	田崎　博之	法文学部教授
	吉田　　広	法文学部助教授
	三吉　秀充	法文学部助手
専　門　員	松原　弘宣	法文学部教授
	村上　恭通	法文学部教授
	川岡　　勉	教育学部教授
教務補佐員	宮崎　直栄	施設基盤部施設企画課
事務補佐員	渡邉かおる	
技術補佐員	濱田　美加	
技能補佐員	井手野文江	
	門田　　都	

（２）発掘調査報告書・埋蔵文化財調査室年報の刊行

2006年度には、城北団地で1998年度に実施した総合情報処理センター新営工事に伴う文京遺跡18次調査の正式調査報告書である『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査－』と、2002年度に実施した情報教育棟新営工事に伴う文京遺跡25次調査の正式調査報告書である『文京遺跡Ⅵ－文京遺跡25次調査－』、そして2005年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2005年度－』を刊行する計画であった。しかし、2006年度に対応すべき発掘調査が多く、いずれも年度内に刊行することができなかった。（吉田）

（３）広報、資料等の利活用

構内遺跡調査の累積により、埋蔵文化財調査室が保管する出土遺物及び資料は膨大な量に達するようになった。もちろん、それらの調査成果の速やかな公開が促されている一方で、学内外から資料の公開や利用の要望が少なからず寄せられてきた。埋蔵文化財調査室では、このような要望に応えるべく、調査成果や埋蔵文化財調査室に関する広報活動を積極的に進めているところである。

１）埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

前年度に引き続き、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼が多い。教材資料としての利用・借用依頼、学生・研究者の研究資料としての調査依頼、博物館等からの出展依頼等である。学内外から78件の出土品・調査記録の利用を依頼された（表４）。その内訳は、学外から56件、学内から22件である。学外からは、県内21件と中四国地区の20件を中心として関東にまで及ぶ。大学教員・学生や埋蔵文化財調査機関の調査研究員や担当者による研究目的での資料調査依頼が多く、計46件を数える。以外に、特別展示への貸し出し依頼が、松山市考古館と伊予市教育委員会から各２件あり、出版社からの資料掲載許可の依頼も１件あった。学内からは、教員による実物教育の教材としての利用等が17件、学生・大学院生から研究資料としての利用が５件である。こうした依頼に対しては、それぞれ調整を図りながら、個別に対応している。

２）広報パンフレットの配付

1997年度に作成し２回目の改訂を2005年度に行った広報パンフレット『発掘愛媛大学』を、各機会に配付した。2006年度の新入学生に対しては、各学部に依頼

表２　2006年度埋蔵文化財調査依頼一覧

依頼			対応
日付	発	工事名	
３月27日	施設基盤部施設整備課長	（城北団地）教育学部附属中学校校舎新営工事計画	試掘調査として00601調査を実施。
４月３日	農学部長	（樽味団地）農学部上水道水漏れ修繕工事	立会調査として00602調査を実施。
６月16日	施設基盤部長（財務部長発）	（重信団地）医学部および附属病院敷地内の電柱建て替え工事	周辺の既往調査の成果から、６ヶ所で埋蔵文化財に影響があり、９ヶ所は影響がないと判断。調査必要な６ヶ所について、具体的計画の協議を依頼。
６月20日	施設基盤部施設整備課長	（樽味団地）総合研究棟改修工事	本格調査として00608調査を実施。
６月22日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）弓道場雨水配管修繕工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
７月４日	教育学部附属中学校長	（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営工事	本格調査として00604調査を実施。
７月４日	施設基盤部長（財務部長発）	（重信団地）医学部および附属病院敷地内の電柱建て替え工事	立会調査として00607調査を実施。
７月７日	施設基盤部施設整備課長	（樽味団地）総合研究棟改修工事	本格調査として00608調査を実施。
７月18日	施設基盤部長（農学部長発）	（樽味団地）農学部空調機アース棒埋設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削範囲は既設建物建設に伴う余掘り範囲に収まると判断し、調査せず慎重工事を依頼。
７月19日	施設基盤部長（財務部長発）	（樽味団地）農学部敷地内の電柱建て替え工事	立会調査として00603調査を実施。
８月１日	施設基盤部長（財務部長発）	（城北団地）敷地内の電柱建て替え工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
８月22日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）課外活動第２共用施設東側給水バルブ修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
８月22日	施設基盤部施設整備課長	（城北団地）工学部駐輪場舗装工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
９月25日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）第１体育館屋外井水管等修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
９月27日	施設基盤部施設整備課長	（畑寺団地）附属農業高等学校果実収納庫新営工事	立会調査として00605調査を実施。
10月２日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）東門周辺植栽工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月３日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）教育学部本館１階消火管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月13日	法文学部長	（城北団地）法文学部敷地内環境整備	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月13日	法文学部長	（城北団地）法文学部２号館非常階段設置工事	立会調査として00612調査を実施。
10月20日	施設基盤部施設整備課長	（城北団地）本部他アスベスト対策電気設備改修工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月20日	施設基盤部施設整備課長	（畑寺団地）附属農業高等学校果実収納庫新営電気設備工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
10月23日	施設基盤部施設整備課長	（城北団地）農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事	立会調査として00609調査を実施。
10月27日	施設基盤部長（財務部長発）	（重信団地）団地敷地内支線増設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
11月13日	施設基盤部長（工学部長発）	（城北団地）分子線結晶成長高精度システム設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
11月13日	施設基盤部安全衛生管理室長（教育学生支援部教務課長発）	（山越団地）植栽（クスノキ）工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
12月１日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）工学部３号館屋外汚水管修繕工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
12月７日	施設基盤部長	（城北団地）第一体育館等改修工事	本格調査として00611調査を実施。
12月７日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部４号館耐震補強工事	立会調査として00610調査を実施。
１月25日	施設基盤部安全衛生管理室長	（城北団地）情報処理メディアセンター周辺植栽工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
１月29日	施設基盤部長	（城北団地）交通規制遮断機設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
１月29日	施設基盤部長	（城北団地）駐車場アスファルト舗装工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
１月29日	施設基盤部長	（城北団地）架橋取設工事	本格調査として00611調査を実施。
１月29日	施設基盤部長	（城北団地）西側門塀取設工事	立会調査として00613調査を実施。
２月２日	施設基盤部長（財務部長発）	（重信地区）敷地内の電柱建替工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
２月16日	施設基盤部安全衛生管理室長	（東長戸団地）東長戸職員宿舎カーブミラー取設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。
２月21日	施設基盤部長	（城北団地）理学部総合研究棟（Ⅱ期）等改修機械設備工事	工事地点の１ヶ所は既掘範囲の再掘削、１ヶ所は周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。残り１ヶ所は、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響があり、調査必要と判断。
２月21日	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟改修機械設備工事	10ヶ所の工事地点の中で３ヶ所については、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響があり、調査必要と判断し、立会調査として00614調査を実施。他は、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。
２月21日	施設基盤部長	（城北団地）理学部総合研究棟（Ⅱ期）等改修電気設備工事	４ヶ所の工事地点の中で１ヶ所については、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響があり、調査必要と判断し、立会調査として00615調査を実施。他は、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。
２月28日	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟改修機械設備工事	既掘範囲の再掘削であり、埋蔵文化財に影響がないと判断し、調査せず慎重工事を依頼。

表３　2006年度発掘調査一覧

調査番号	調査種別	団　地	遺　跡	工　事　名	調査担当	調査期間	調査面積
00601	試掘調査	持田	持田	教育学部附属中学校校舎新営工事	田崎・三吉	2006.4.3～4.7	46.5㎡
00602	立会調査	樽味	樽味	農学部上水道水漏れ修繕工事	田崎	2006.5.13	0.5㎡
00603	立会調査	樽味	樽味	農学部敷地内電柱立て替え工事	田崎・三吉	2006.8.21	0.7㎡
00604	本格調査	持田	持田（MCD-1）	教育学部附属中学校校舎新営工事	田崎・三吉	2006.8.23～9.29	292㎡
00605	試掘調査	畑寺		農学部附属農業高等学校果実収納庫新営工事	田崎・三吉	2006.9.29	35㎡
00606	確認調査	畑寺		2006年度確認調査	田崎・三吉	2006.9.29	2,750㎡
00607	立会調査	重信		医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事	田崎・三吉	2006.11.9～11.10	18㎡
00608	本格調査	樽味	樽味（TRM-8）	総合研究棟改修工事	田崎・三吉	2006.12.4～2007.1.26	42㎡
00609	立会調査	樽味	樽味	農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事	吉田	2006.12.21	2.9㎡
00610	立会調査	城北	文京	教育学部４号館耐震補強工事	吉田	2007.1.26	12㎡
00611	本格調査	城北	文京（BNK-30）	宮前川架橋取設他工事	吉田	2007.2.5～2.8	17.7㎡
00612	立会調査	城北	文京（BNK-31）	法文学部２号館非常階段取設工事	田崎・三吉	2007.2.8～2.26	25㎡
00613	立会調査	城北	文京	屋外施設等取設工事	田崎・三吉	2007.2.19～2.20	8㎡
00614	立会調査	樽味	樽味	総合研究棟改修機械設備工事	吉田	2007.2.26～3.2	21.6㎡
00615	立会調査	城北	文京	理学部総合研究棟等改修（Ⅱ期）電気設備工事	田崎・三吉	2007.3.7	5.4㎡

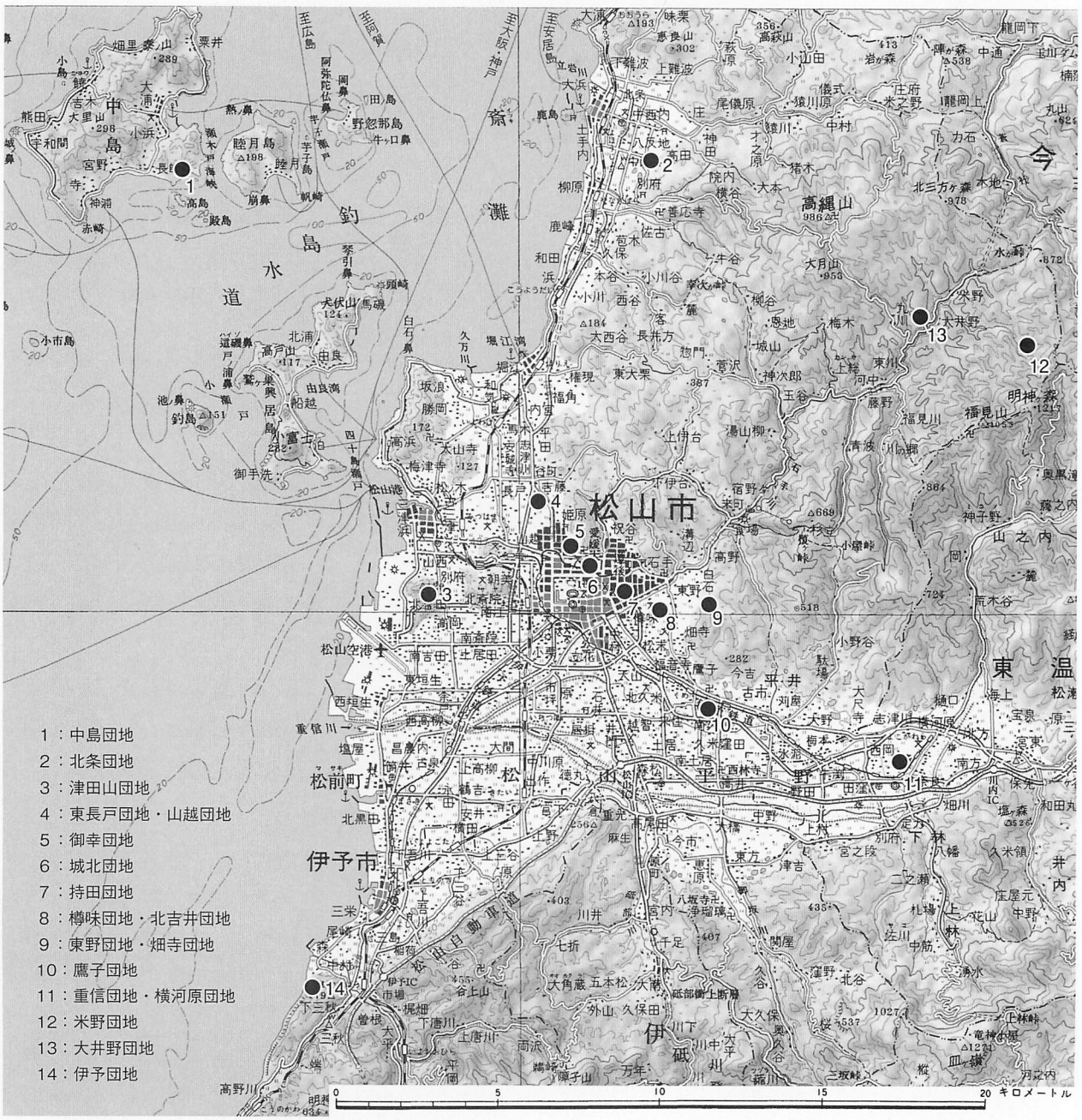


図１　愛媛大学主要団地位置図（縮尺 1/200,000）（平成17年４月１日国土地理院発行1：200,000松山を加工）

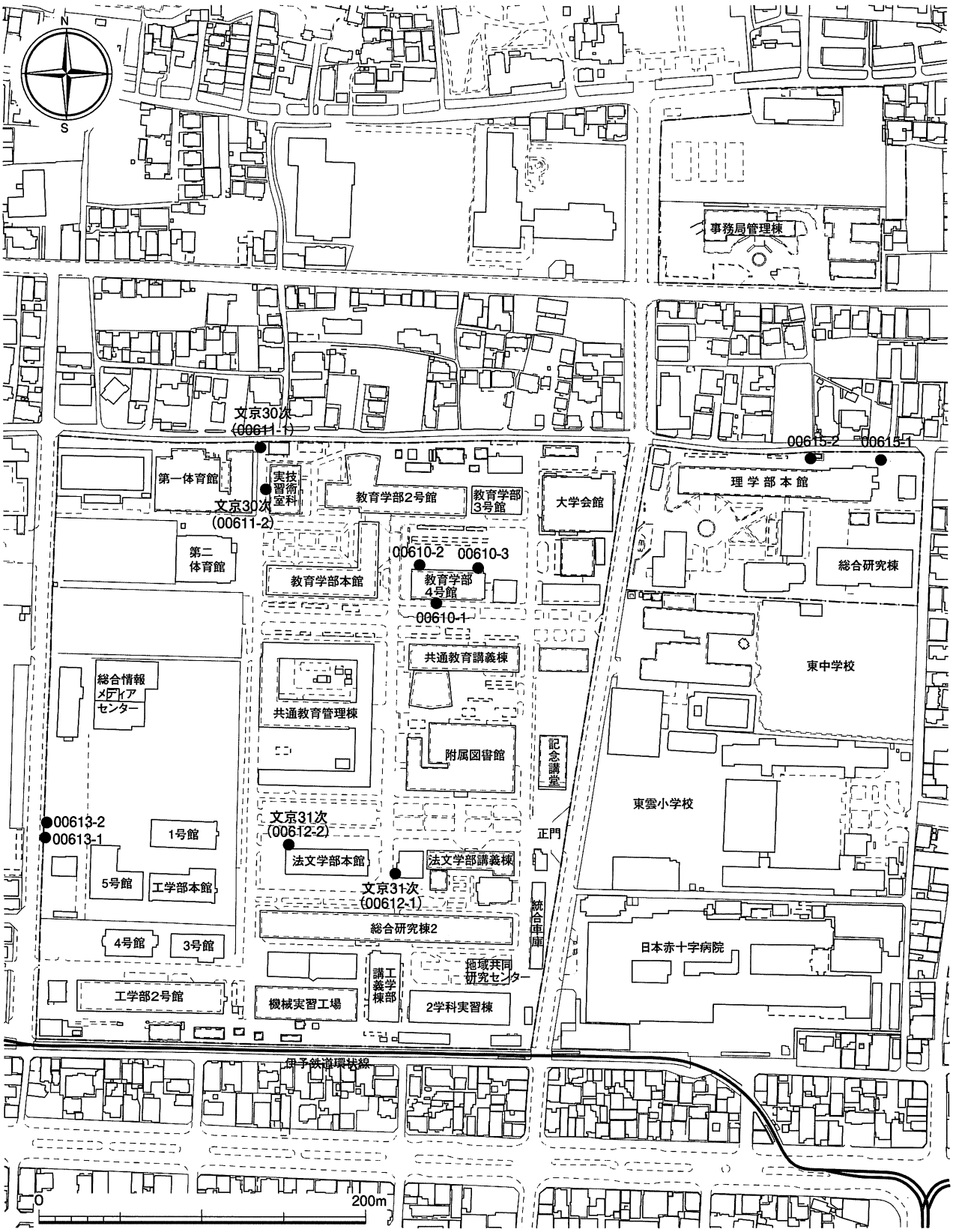


図２　城北団地における2006年度調査地点（縮尺 1/3,500）

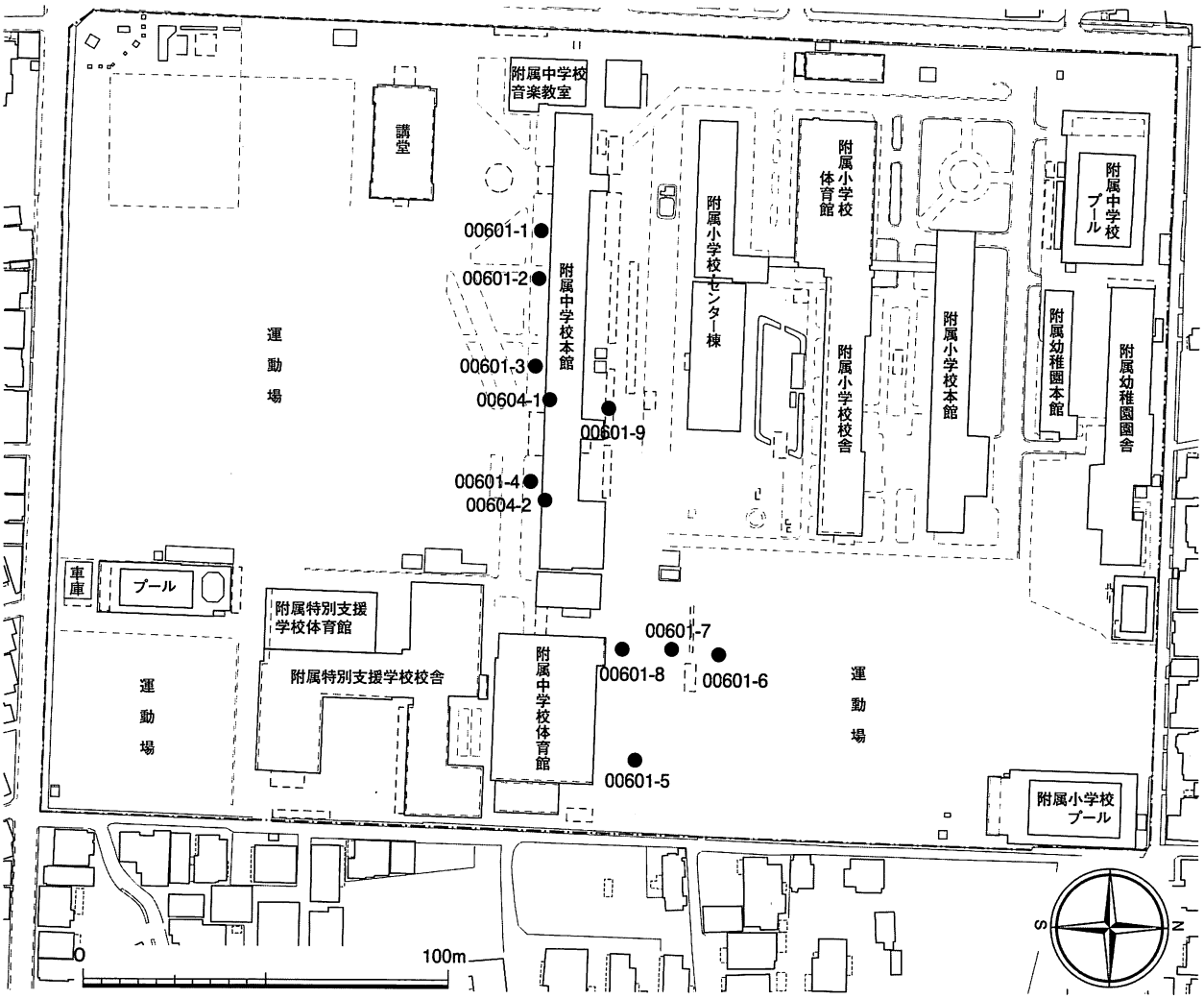


図3　持田団地における2006年度調査地点（縮尺 1/2,000）

して入学式に配付資料に同封してもらっている。また、新任教職員については、人事課を通じて研修時に配付している。また、インフォメーションセンターや各学部窓口等にも配置している。　（吉田）

3）Web を利用した広報活動

埋蔵文化財調査室ホームページを通じて、公開講座『文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラの生活』関連情報や、2006年度に実施した大学構内遺跡の発掘調査情報を随時公開し、調査室の調査・研究活動の情報発信に努めている。また、文京遺跡31次調査で３次元カメラを用いて発掘調査の撮影を行うなど、文京遺跡をはじめとした大学構内遺跡の利活用に関わるコンテンツ作成を進めている。　（三吉）

4）公開講座の開催

前年度に引き続いて、2006年度も法文学部において文京遺跡を中心とした公開講座を開催した。内容は以下の通りである。

11月18日（土）
　田崎博之「分銅形土製品－顔を写した呪術具」
11月25日（土）
　吉田　広「青い小玉と緑の管玉－身を装う」
12月２日（土）
　三吉秀充「紡錘車－暮らしの中の糸づくり・布づくり」
12月９日（土）
　下條信行　「鏡－装いと威信」
12月16日（土）
　田崎・吉田・三吉「討論－弥生人の装いと呪術」

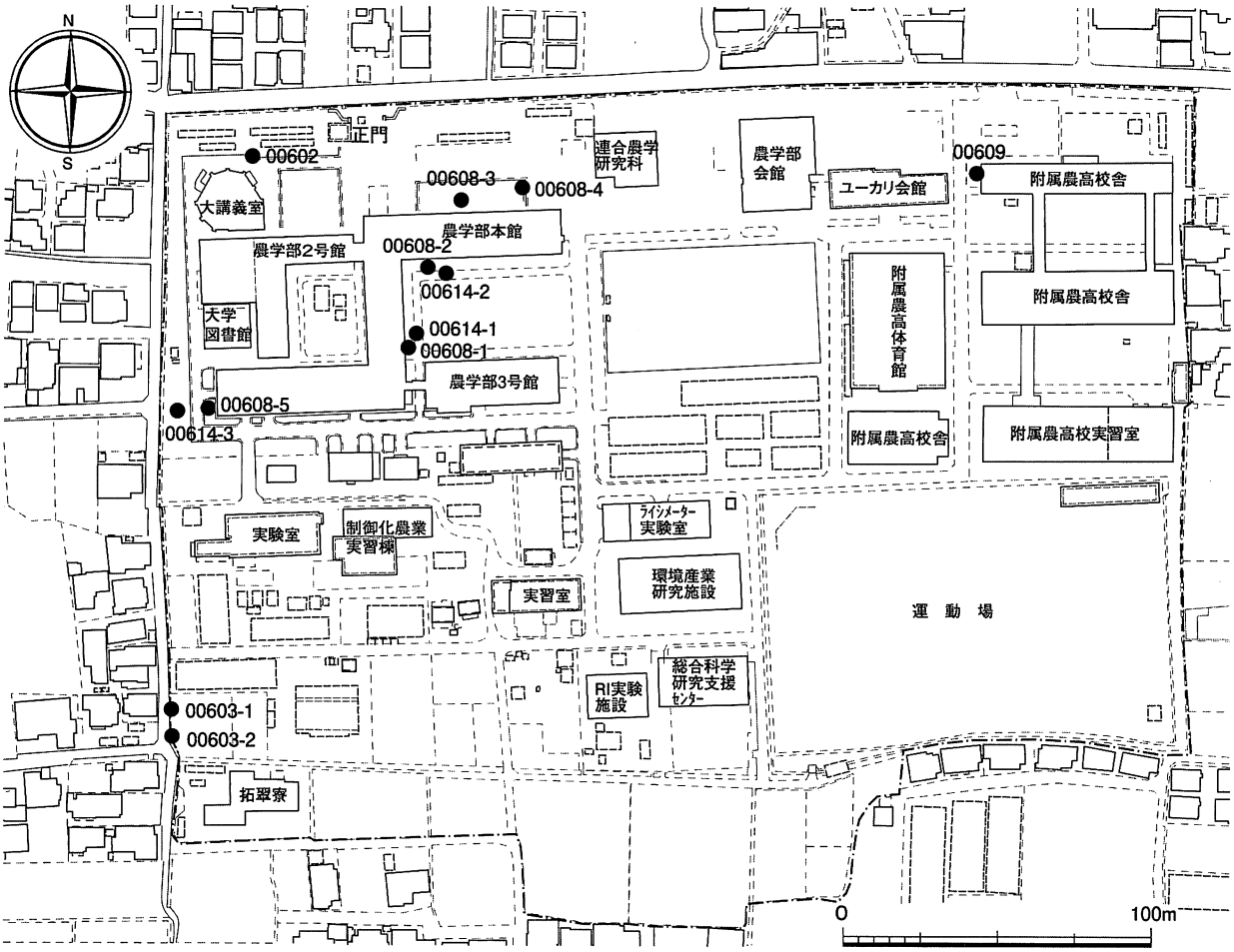


図４　樽味団地における2006年度調査地点（縮尺 1/2,500）

参加者は必ずしも多くはないが、各回とも実物資料を持ち込んでの、内容的にも充実した講座を提供できたと自負している。公開講座終了後のアンケート結果も好評で、公開講座の継続的な実施が要望されている。年度末には、公開講座の内容やアンケートの結果、寄せられた質問への回答をまとめ、記録集『愛媛大学公開講座　文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラ』を刊行した。（吉田）

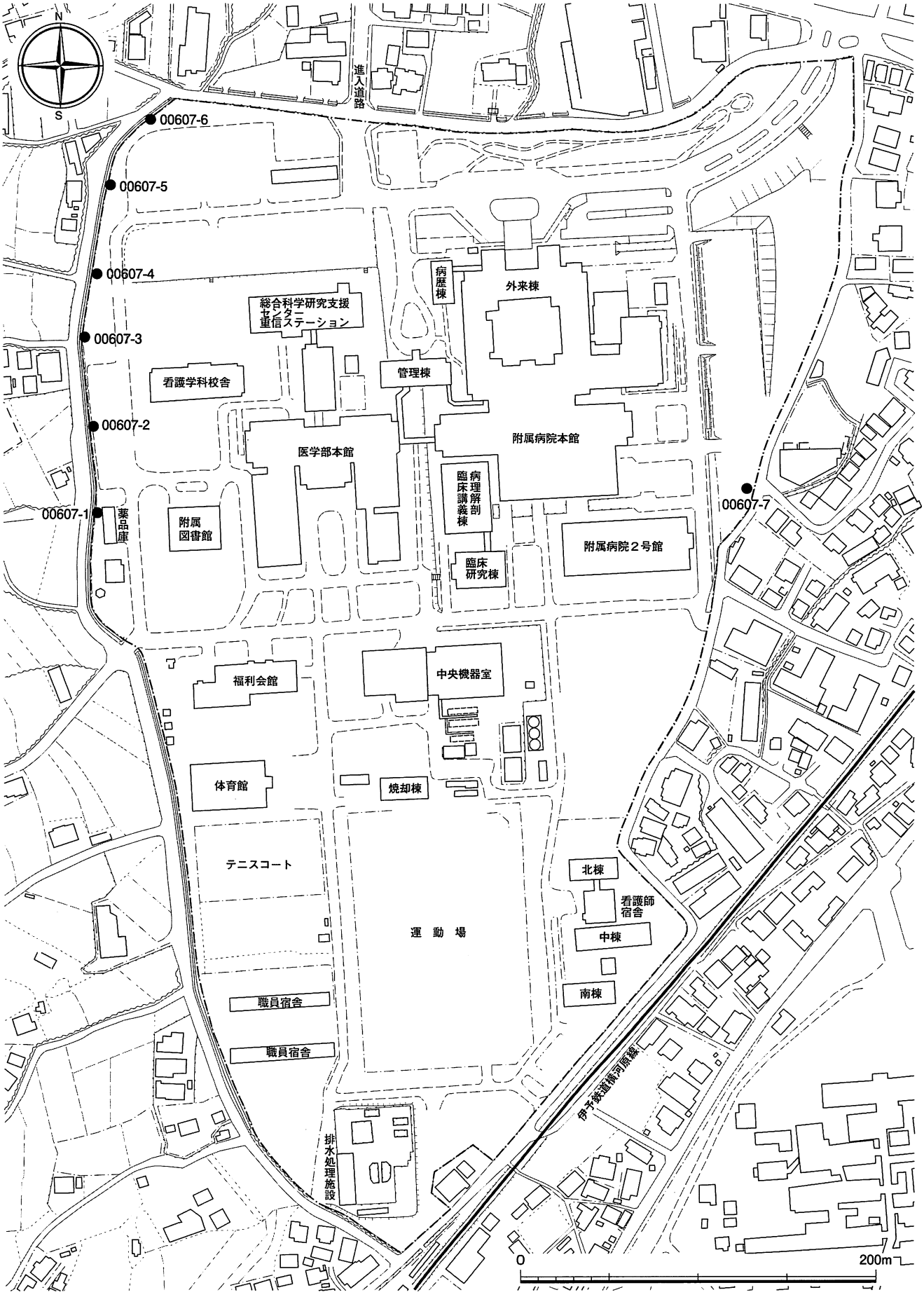


図５　重信団地における2006年度調査地点（縮尺 1/3,000）

表４　2006年度調査室・調査室資料利用一覧

申請年月日		利　用　者	利　用　資　料	目　的	利　用　内　容
2006年	４月１日	愛媛大学法文学部・教員	鷹子遺跡・樽味遺跡出土資料	教　育	借用
	４月13日	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	熟覧
	４月13日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次調査出土資料	教　育	借用
	４月13日	愛媛大学教育学部・教員	文京遺跡出土資料	教　育	借用
	４月13日	松山市在住個人（２名）			施設見学
	４月14日	愛媛大学法文学研究科・修了生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	借用
	４月19日	愛媛大学法文学研究科・修了生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	借用
	４月19日	伊予市教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献閲覧
	４月19日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次調査14次調査出土資料	教　育	借用
	４月20日	香川県埋蔵文化財センター・職員			施設見学
	４月25日	徳島大学埋蔵文化財調査室・教員	文京遺跡体験発掘関連資料	研　究	資料送付
	４月26日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次調査14次調査出土資料	教　育	借用
	５月２日	愛媛大学附属中学校・教員	附属中学校内試掘記録	教　育	資料送付
	５月10日	愛媛県埋蔵文化財センター・職員			施設見学
	５月24日	大阪大谷大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	資料送付
	５月26日	宮内庁書陵部・職員	文京遺跡関連刊行物	研　究	送付
	５月27日	上郡町教育委員会・職員	弥生時代文京遺跡の文献	研　究	資料送付
	５月27日	横浜市歴史博物館・学芸員	文京遺跡の関連文献	研　究	送付
	５月27日	北九州市芸術文化振興財団・職員	文京遺跡関連刊行物	研　究	資料送付
	５月28日	長野市教育委員会・職員	文京遺跡に関する文献	研　究	資料送付
	５月31日	奈良県立橿原考古学研究所・職員	文京遺跡関連文献	研　究	資料送付
	５月31日	愛媛大学法文学部・教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献複写
	６月５日	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献複写
	６月７日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡出土弥生土器	教　育	借用
	６月14日	愛媛大学法文学部・教員	旧歴史学研究会保管資料須恵器	教　育	借用
	６月20日	出雲市教育委員会・職員	文京遺跡資料	研　究	資料送付
	６月20日	今治市教育委員会・職員	文京遺跡文献	研　究	資料送付
	６月23日	鳥取県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡文献	研　究	資料送付
	６月24日	八幡浜市在住個人	文京遺跡関連文献	研　究	資料送付
	６月24日	福山市教育委員会・職員	文京遺跡文献	研　究	資料送付
	６月30日	出版社（青木書店）	文京遺跡14次分銅形土製品・実測図	出　版	掲載
	７月７日	松山市埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡29次調査資料	研　究	資料利用
	７月22日	徳島県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土石器	研　究	熟覧・写真撮影
	７月22日	山口大学埋蔵文化財資料館・教員	文京遺跡出土石器	研　究	熟覧
	７月22日	香川県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土石器	研　究	熟覧・写真撮影
	７月22日	山口大学人文学部・教員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	７月22日	広島県教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	７月23日	広島県教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	７月24日	愛媛大学法文学研究科・修了生	文京遺跡出土資料	教　育	資料利用
	７月28日	四国中央市教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	資料利用
	８月４日	香川県教育委員会・職員	文京遺跡出土石錘・土錘	研　究	熟覧・写真撮影
	８月７日	香川県大川広域行政組合・職員	文京遺跡出土資料	研　究	資料利用
	８月９日	伊予市教育委員会・職員	文京遺跡10次調査出土資料	展示・印刷物	掲載
	８月10日	愛媛県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡関連文献	研　究	資料利用
	８月16日	山口県立博物館・学芸員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献複写
	９月11日	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡13次調査出土須恵器	研　究	借用
	９月19日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡出土資料	研　究	写真撮影
	９月25日	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	資料送付
	９月29日	松山市考古館・学芸員	文京遺跡24次調査出土鏡片	展　示	借用
	10月３日	愛媛県歴史文化博物館・学芸員	旧歴史学研究会保管資料	研　究	熟覧
	10月４日	伊予市教育委員会・職員	文京遺跡10次調査出土弥生土器	展　示	借用
	10月５日	愛媛大学法文学研究科・修了生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	借用
	10月13日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡出土石器	研　究	借用
	11月４日	松山市役所・職員	文京遺跡調査記録	調査研究	測量
	11月６日	東京都埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	11月18日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡出土分銅型土製品	教　育	借用
	11月22日	愛媛大学法文学部・教員	文京14次出土資料	教　育	借用
	11月25日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡出土指輪・管玉・ガラス小玉	教　育	借用
	12月２日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡13次調査出土弥生土器	教　育	借用
	12月５日	徳島県城ノ内高校・教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	図書閲覧
	12月６日	徳島大学埋蔵文化財調査室・教員			施設見学
	12月８日	岡山県古代吉備文化財センター・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	熟覧
	12月９日	愛媛大学法文学部・教員	文京遺跡10次調査出土鏡	教　育	借用
	12月11日	愛媛大学教務課・職員	文京遺跡18次調査出土資料	印刷物	掲載
	12月18日	皇學館大学・教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	
	12月18日	宮崎大学・教員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	
	12月25日	愛媛大学法文学部・学生	文京遺跡10・13・20次調査出土石鏃	研　究	熟覧・実測・写真撮影
2007年	１月６日	愛媛県埋文センター・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	１月６日	四国中央市教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	１月６日	香川県埋蔵文化財センター・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	１月６日	香川県教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	１月６日	徳島大学埋蔵文化財調査室・教員	文京遺跡出土資料	研　究	熟覧
	１月12日	松山市考古館・学芸員	文京遺跡12次調査出土炭化米	特別展示	借用
	１月27日	今治市教育委員会・職員	文京遺跡出土資料	研　究	情報提供
	１月28日	松野町教育委員会・職員	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	熟覧
	３月15日	愛媛大学法文学部・学生	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	研　究	熟覧
	３月22日	愛媛大学法文学研究科・大学院生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献希望
	３月22日	愛媛大学法文学部・学生	埋蔵文化財調査室所蔵図書	研　究	文献希望

Ⅱ　2006年度実施の発掘調査

2006年度には、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した14件の発掘調査を実施した。また、畑寺団地で確認調査を実施した。団地ごとには、城北団地５件、樽味団地５件、重信団地１件、持田団地２件、畑寺団地２件（うち１件は確認調査）である。この中で、本格調査は３件、試掘調査２件、立会調査９件、確認調査１件である。本格調査は、持田構内遺跡１次調査(調査番号:00604)、樽味遺跡８次調査(調査番号:00608)、文京遺跡30次調査（調査番号:00611）に加え、前述したように00612調査については文京遺跡31次調査とした。（田崎）

00601　（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市持田町１丁目５番22号
　　愛媛大学持田団地
調 査 面 積　46.5㎡
調 査 期 間　2006年４月３日～４月７日
調査の種別　試掘調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成18年３月27日付）

１　調査にいたる経緯

2006年３月24日、施設基盤部施設整備課長から、教育学部附属中学校校舎の改築計画について報告があった。耐震工事の内容、校舎改築に伴って南側にオープン廊下を拡張すること、代替教室とするプレハブ校舎を建設することなどの改築計画が説明され、これに対応して現地に赴き位置や範囲を確認し、調査予算・日程などの協議を進めた。その結果、

①耐震補強工事のため校舎建物余掘り範囲を把握すること
②校舎拡張部分における埋蔵文化財の有無を確認すること
③代替教室とするプレハブ校舎建設敷地における埋蔵文化財の有無を確認すること

を目的として、試掘調査を早急に実施することを確認した。

２　調査の記録

（１）調査地点の位置と基本層序

今回の調査地点は９ヶ所である。校舎の南側４ヶ所と北側１ヶ所に、建物余掘り範囲の把握と建て直しに伴う拡張部分における埋蔵文化財の有無の確認を行うため１～４・９トレンチを設定した。体育館北側の小学校運動場のプレハブ校舎の建設予定地には５～８トレンチを設定した（図３・６）。

さて、これまで附属小学校・中学校・特別支援学校がある持田団地では、10数回の試掘・確認調査を実施してきた。しかし、調査範囲は狭く、団地全体にわたる基本層序を設定するにいたっていなかった。今回、既往の調査成果と、団地東側で実施された松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査の成果をあわせて、

Ⅰ層：表土・造成土層
Ⅱ層：水田・畠に利用された耕作土層と母材土壌の自然堆積層（洪水層）から構成される土層群
Ⅲ層：石手川の埋没中州にあたる砂礫層

の基本層序を設定することとした。

今回の報告は、この基本層序に沿って行う。また、Ⅱ層部分では、各トレンチで最上層に持田団地造成直前の水田層を確認できた。さらに、９トレンチを除いて、１ないし３層の水田･畠に利用された耕作土層と、その母材土壌である自然堆積層（洪水層）を検出できた。最上層の持田団地造成直前の水田層をⅡ-１層とし、以下Ⅱ-２・Ⅱ-３層とした。また、水田・畠に利用された耕作土層にはａ、その母材土壌である自然堆積層（洪水層）にはｂの略号を追加している。さらに、Ⅱ-１～３層を細分できる調査トレンチもあり、上部から①・②・③・・・・・の層名を与えている。これはⅠ・Ⅲ層でも同様である。以上、今回調査の１～９トレンチでの各層位と基本層序の関係は、図７の

図６　00601・00604（持田団地構内遺跡１次）調査地点位置および南北地形断面図（縮尺 1/1,200、1/120）

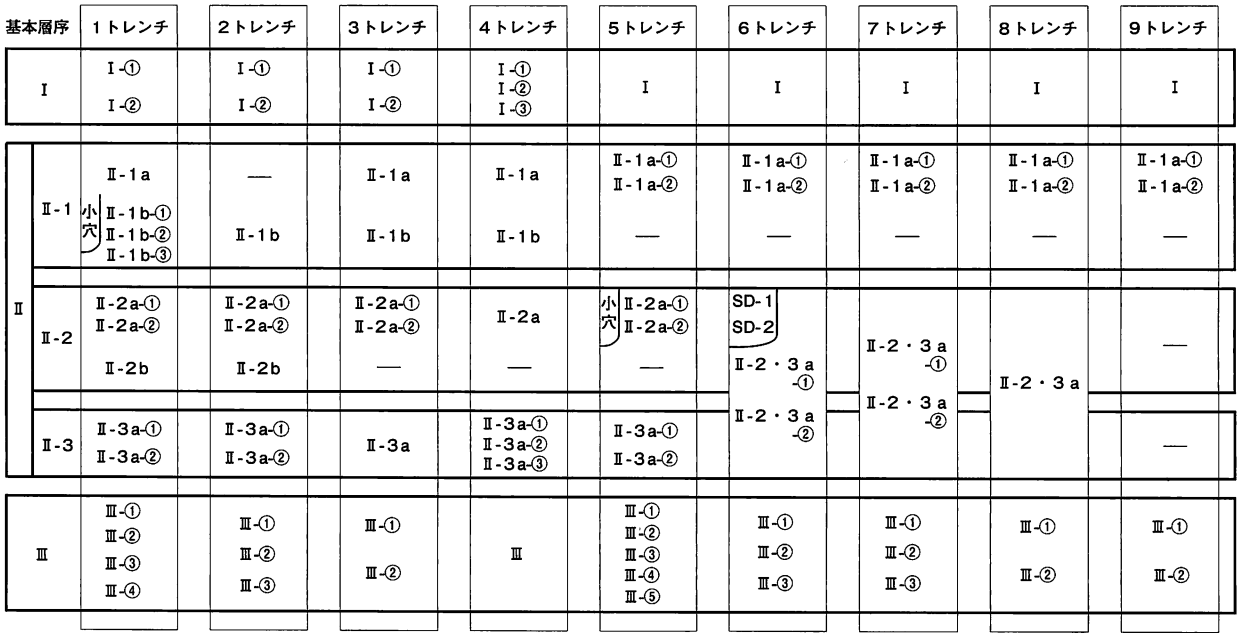


図７　持田団地構内遺跡における基本層序と00601調査各トレンチ土層との関係

ように整理できる。

（2）各トレンチの調査記録

［1トレンチ］（図８－１、写真１・２）

中学校校舎建物余掘り範囲を把握するため、建物南側４ヶ所に調査トレンチを設定した。１トレンチは、その中でもっとも西側に位置する。基本層序のⅠ～Ⅲ層を確認できた。Ⅰ層の表土・造成土層は、下半部は下層のⅡ－１ａ層が一部小さな塊として巻き込まれている。Ⅰ-②層とした。

Ⅱ層では、Ⅱ-１～Ⅱ－３層を確認できた。Ⅱ－１層は、水田層のⅡ－１ａ層と、その母材土壌である自然堆積層のⅡ－１ｂ層に細分できる。Ⅱ－１ａ層は、暗青灰色砂質シルトで、粗砂や小礫が多く混じる。Ⅱ－１ｂ層は、砂礫が非常に多く混じり、ラミナが部分的に観察される自然堆積層で、暗青灰色砂質シルトのⅡ－１ｂ-①層、青灰色砂質シルトのⅡ－１ｂ-②層、にぶい黄色砂質シルトのⅡ－１ｂ-③層から構成される。トレンチ西壁断面では、Ⅱ－１ｂ層を切って掘り込まれた小穴を確認できた。近世～近代の陶器片が出土している。以上、Ⅱ－１層は団地造成直前の近代の水田層である。

Ⅱ－２層は、水田・畠に利用されたと考えられるⅡ－２ａ層と、母材土壌である自然堆積層（洪水層）のⅡ－２ｂ層に分層できる。Ⅱ－２ａ層は、攪拌を受けて土壌化が進む砂礫混じりの暗灰白色砂質シルト質土のⅡ－２ａ-①層と、砂礫混じりの灰黄色砂質シルト質土で部分的にやや粘性をおびるⅡ－２ａ-②層に分層できる。Ⅱ－２ａ-②層が黄色みをおびるのはマンガンが沈着しているためで、Ⅱ－２ａ-①層は水田耕作土、Ⅱ－２ａ-②層は床土部分と考える。Ⅱ－２ｂ層はトレンチ北半部にみられる小礫混じりの灰白色砂質シルト層で、ラミナ層が確認できた。

Ⅱ－３層は、水田・畠に利用されたと考えられるⅡ－３ａ層だけで構成される。上部のⅡ－３ａ-①層は、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、攪拌が著しく土壌化が進む水田層である。Ⅱ－３ａ-②層はトレンチ南端で確認され、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、やはり土壌化が進む。Ⅱ－３ａ-①層と比べて黄色みがやや弱い。水田層の一部と考えた。

Ⅲ層は、Ⅲ-①～Ⅲ-④層から構成される。Ⅲ-①層は上層のⅡ－３ａ層の影響を受けてにぶい黄色を呈する細砂層、Ⅲ-②層は灰色細砂層で、部分的ににぶい黄色細砂のレンズ状ブロックが縞状にみられる。Ⅲ-①・②層は全体として水平に堆積する。Ⅲ-③層は径５～10cmの砂岩や花崗岩の扁平な円礫を主体として灰白色粗細砂が混じる礫層、Ⅲ-④層は灰白色の細砂・粗砂と径５cmほどの扁平な砂岩や花崗岩の円礫が水平

に堆積する。

［２トレンチ］（図８－２、写真１・３）

１トレンチから東へ12m離れた位置に２トレンチを設定した。１トレンチと同様に、基本層序のⅠ～Ⅲ層を確認できた。Ⅰ層下部には、下層のⅡ－１層の小塊をまき込んだⅠ-②層がみられる。

Ⅱ層はⅡ－１～Ⅱ－３層から構成される。２トレンチのⅡ－１層では、水田層にあたるⅡ－１ａ層はみられず、灰黄色粗砂が多く混じる自然堆積層であるⅡ－１ｂ層だけが確認できた。本来、水田耕作土層が堆積していたと考えられるが、削平されたものと考える。

Ⅱ－２層は、砂礫混じりのシルト質土であるⅡ－２ａ層と、小礫混じりの灰白色砂質シルトのⅡ－２ｂ層に分層できる。Ⅱ－２ａ層は、砂礫混じりの灰白色砂質シルト質土であるⅡ－２ａ-①層と、砂礫混じりの黄色砂質シルト質土のⅡ－２ａ-②層から構成される。土壌化が進み攪拌を受けた水田耕作土層である。Ⅱ－２ａ-②層は、砂礫は少なく粘性をややおびる。マンガンが沈着しているため黄色みをおびた土色であるが、Ⅱ－２ａ-①層とほぼ同質の土層で、床土層と判断した。Ⅱ－２ｂ層は土壌化がほとんどみられず、ラミナ層が部分的に確認できる。Ⅱ－２ａ層の母材土壌である自然堆積層（洪水層）である。

Ⅲ層はⅢ-①～Ⅲ-③層から構成される。Ⅲ-①層は灰黄色細砂で、径５cmほどの円礫が混じる。１トレンチのⅢ-①層に対応する堆積物である。Ⅲ-②層は灰白色の粗砂層、Ⅲ-③層は径10～15cmの扁平な円礫を主体として灰白色の粗砂が混じる礫層である。

［３トレンチ］（図８－３、写真１・４）

中学校校舎南側のほぼ中央に設定したトレンチである。２トレンチの東側23mに位置する。基本層序のⅠ～Ⅲ層を確認できた。Ⅰ層下部には、Ⅱ－１ａ層の小塊をまき込んだⅠ-②層がみられる。

Ⅱ層はⅡ－１～Ⅱ－３層から構成される。Ⅱ－１層は、Ⅱ－１ａ層とⅡ－１ｂ層に分層できる。Ⅱ－１ａ層は、暗青灰色砂質シルト質土で、粗砂や小礫が非常に多く混じる。土壌化が進む持田団地造成直前の旧水田層である。Ⅱ－１ｂ層は、Ⅱ－１ａ層の影響を受けて暗青灰色を呈する砂質シルトである。１・２トレンチで確認できたⅡ－２ｂ層はみられない。Ⅱ－２層は、砂礫混じりの砂質シルト質土層で、土壌化が進み攪拌を受けた暗灰白色の水田耕作土層であるⅡ－２ａ-①層と、マンガンが沈着して灰黄色を呈する床土層にあたるⅡ－２ａ-②層に細分できる。Ⅱ－３ａ層は、砂礫が多く混じる灰黄色砂質シルト質土で、土壌化が進む水田層である。

Ⅲ層はⅢ-①層とⅢ-②層から構成される。Ⅲ-①層はにぶい黄色細砂層で、Ⅲ-②層は灰色ないし灰白色の粗砂や細砂が混じる径５cmほどの扁平な砂岩・花崗岩円礫の砂礫層である。

［４トレンチ］（図８－４、写真５・６）

中学校校舎南側に設定したトレンチでもっとも東側に位置する。基本層序のⅠ層～Ⅲ層を確認できた。Ⅰ層は、真砂と瓦礫のⅠ-①層、掘り返しを受けたⅠ-②層、下部のⅡ－１層が掘り返され攪乱されたⅠ-③層からなる。

Ⅱ層は、１～３トレンチと同じく、Ⅱ－１層～Ⅱ－３層に分層できる。Ⅱ－１層は、水田層であるⅡ－１ａ層、その母材土壌である自然堆積層のⅡ－１ｂ層から構成される。Ⅱ－１ａ層・Ⅱ－１ｂ層ともに、土質・土色は１～３トレンチと同様である。Ⅱ－２層では水田耕作土層にあたるⅡ－２ａ層だけを確認できた。砂礫混じりの黄褐色砂質シルト質土層である。Ⅱ－３層は、Ⅱ－３ａ-①～Ⅱ－３ａ-③層から構成される。Ⅱ－３ａ-①層は部分的にしかみられないが、砂礫が少量混じる黄褐色砂質シルト質土、Ⅱ－３ａ-②層は砂礫混じりの暗灰黄色シルト質土、Ⅱ－３ａ-③層は砂礫混じりの黄褐色シルト質土である。

４トレンチのⅢ層は、細砂に径１～15cmの円礫が混じる砂礫層である。上部のⅡ－３層の影響を受けて灰黄色を呈する。

［５トレンチ］（図８－５、写真７～10）

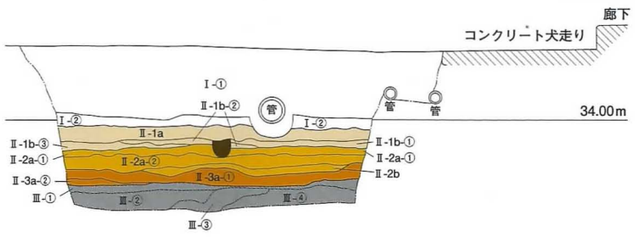
体育館北側の小学校運動場に計画されている代替教室プレハブ建設予定地に設定した南北18.2mのトレンチである。南端部はゴミ穴で攪乱されていた（写真10）が、基本層序のⅠ層～Ⅲ層を確認できた。

Ⅰ層は運動場に盛られた真砂土と腐植土層である。

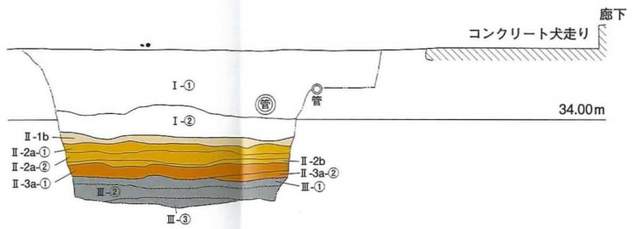
Ⅱ層はⅡ－１層～Ⅱ－３層から構成される。Ⅱ－１層は、水田耕作土にあたる砂礫が多く混じる緑灰色砂質シルト質土のⅡ－１ａ-①層と、床土層にあたる灰色みがやや強いにぶい黄橙色砂質シルト質土のⅡ－１ａ-②層からなる。

Ⅱ－２層も、水田耕作土にあたるⅡ－２ａ-①層と、床土層であるⅡ－２ａ-②層に細分できる。ともに砂礫が多く混じり、Ⅱ－２ａ-①層は黄灰色シルト質土、Ⅱ－２ａ-②層はマンガンが沈着したにぶい黄色を呈

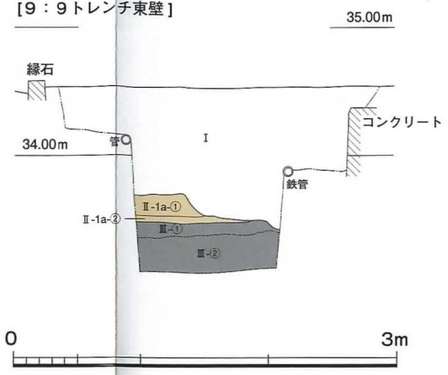
[1：1トレンチ西壁]



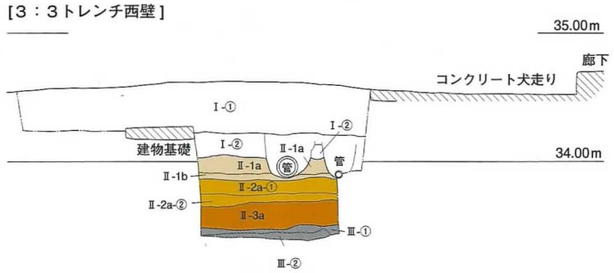
[2：2トレンチ西壁]



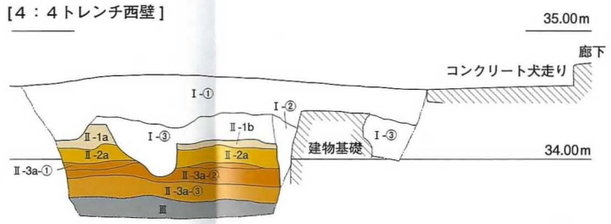
[9：9トレンチ東壁]



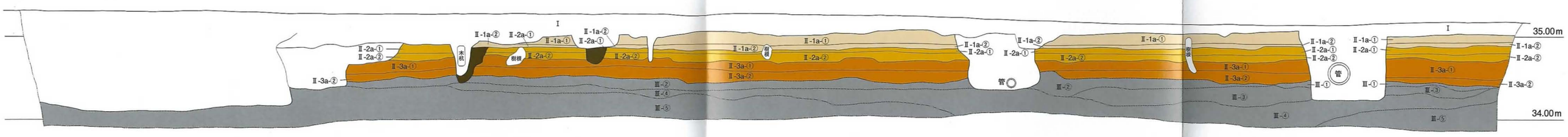
[3：3トレンチ西壁]



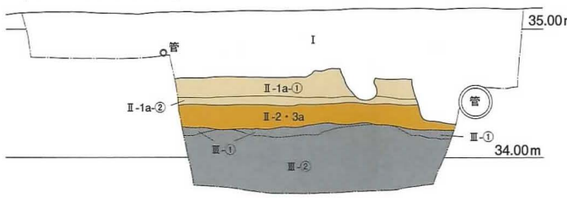
[4：4トレンチ西壁]



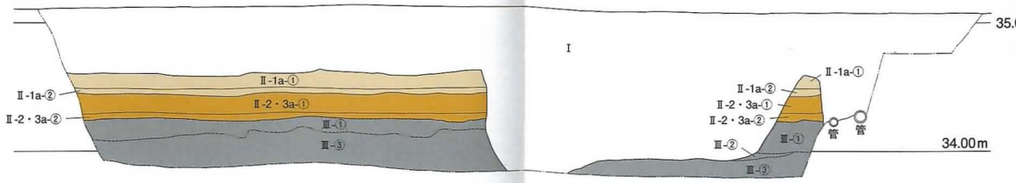
[5：5トレンチ西壁]



[8：8トレンチ西壁]



[7：7トレンチ西壁]



[6：6トレンチ西壁]

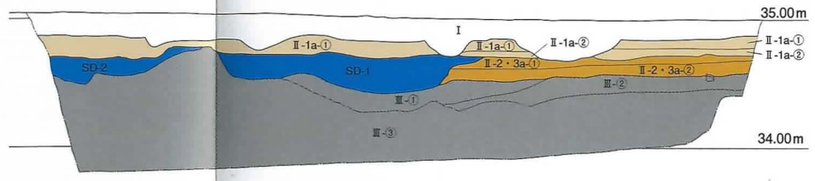


図8　00601調査1～9トレンチ土層断面図（縮尺 1/50）

写真１　00601調査１～３トレンチ遠景（西から）

写真２　00601調査１トレンチ西壁土層

写真３　00601調査２トレンチ西壁土層

写真４　00601調査３トレンチ全景および西壁土層（北東から）

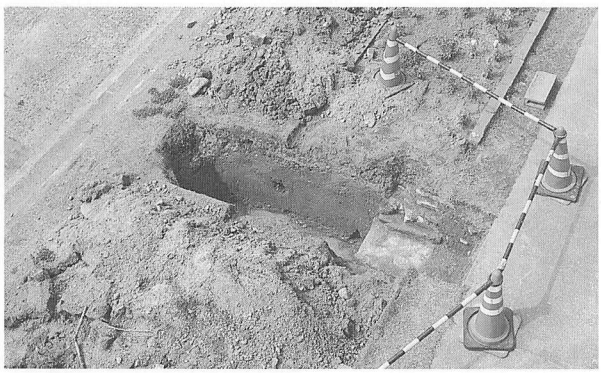


写真５　00601調査４トレンチ全景（北東から）

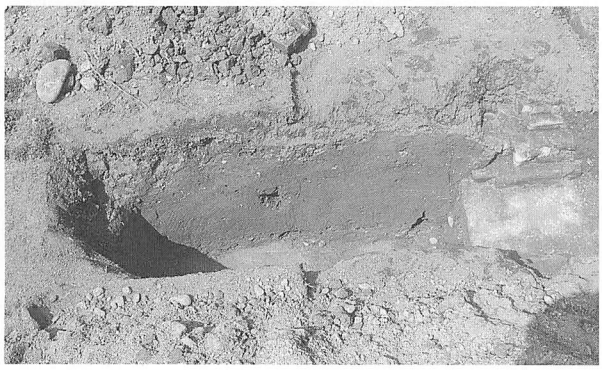


写真６　00601調査４トレンチ西壁土層

写真７　00601調査５トレンチ全景（南から）

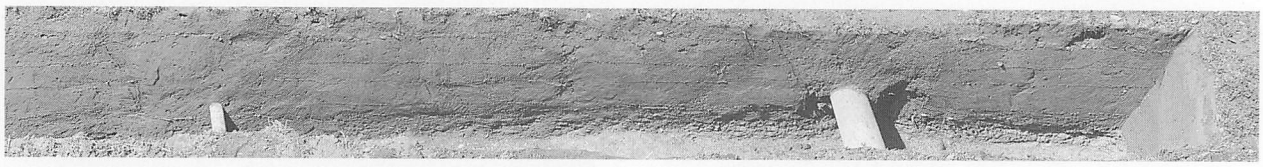


写真８　00601調査５トレンチ西壁北端部土層

写真９　00601調査５トレンチ西壁中央部土層

写真10　00601調査５トレンチ西壁南端部土層

写真11　00601調査６トレンチ全景および西壁土層（南東から）

写真12　00601調査７トレンチ全景（南東から）

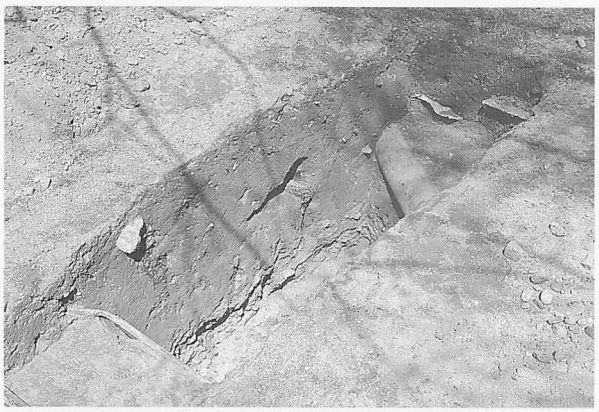


写真13　00601調査８トレンチ西壁土層（南東から）

写真14　00601調査９トレンチ全景および東壁土層（北西から）

する。

Ⅱ-３層も同様で、水田耕作土にあたるⅡ-３ａ-①層は砂礫混じりの黄灰色シルト質土、床土層のⅡ-３ａ-②層は砂礫混じりのにぶい黄色シルト質土である。Ⅱ-２ａ層を掘り込んだ小穴を２ヶ所で確認した。

Ⅲ層は、Ⅲ-①層～Ⅲ-⑤層から構成される。Ⅲ-①層は黄灰色～にぶい黄色の細砂層。Ⅲ-②層は部分的に粘質土の薄いレンズ状ブロックがみられるにぶい黄色細砂層。Ⅲ-③層は灰色の粗砂・小礫を主体とする砂礫層。Ⅲ-④層・Ⅲ-⑤層は、径５～10cmの扁平な花崗岩円礫に、灰白色の粗砂・小礫がレンズ状ブロックで挟まる礫層である。Ⅲ-⑤層には、灰白色の粗砂・小礫がレンズ状ブロックとなって多くみられる。

［６トレンチ］（図８-６、写真11）

小学校運動場の南半部中央に５トレンチと平行させて長さ30mほどのトレンチを設定しようとしたが、遊具があるため、ほぼ南北方向に３つのトレンチを設けることとし、北側から６～８トレンチとした。

６トレンチで、表土層のⅠ層下で、上下２枚の水田層を確認できた。上部の水田層は、５トレンチでも出土している持田団地造成直前の水田層で、Ⅱ-１ａ層とした。耕作土層にあたるⅡ-１ａ-①層と、床土層にあたるⅡ-１ａ-②層から構成される。下部の水田層は、５トレンチのⅡ-２ａ層もしくはⅡ-３ａ層に対応する水田層で、判断がつかなかったのでⅡ-２・３ａ層と呼ぶこととした。耕作土層にあたるⅡ-２・３ａ-①層と、床土層にあたるⅡ-２・３ａ-②層から構成される。

また、トレンチ壁面の観察で、Ⅱ-２・３ａ層上面から落ち込む溝を確認できた。SD-１・２としたが、ともに東西方向にのびる水路である。SD-１の埋土は親指先大の礫が点々と混じる黄灰色砂質土、SD-２の埋土は粗砂を主体とする黄灰色砂質土で、ともに土壌化は弱い。

Ⅱ-２・３ａ層の下部にはⅢ-①～Ⅲ-③層が堆積する。Ⅲ-①・Ⅲ-②層は上部のⅡ-２・３ａ層の影響を受けてマンガンが沈着する。Ⅲ-①層は黄灰色砂層。Ⅲ-②層は親指先大の円礫が点々と混じるにぶい黄色砂礫層。Ⅲ-③層は灰白色の砂礫層で、拳大の砂岩の円礫を主体として、粗砂のレンズ状ブロックが縞状にみられる。

［７トレンチ］（図８-７、写真12）

７トレンチは６トレンチの南側に設定した。６トレンチと同じく、表土層のⅠ層下で、上下２枚の水田層を確認できた。上部の水田層は、持田団地造成直前の水田層で、６トレンチのⅡ-１ａ層と対応する。耕作土層にあたるⅡ-１ａ-①層と、床土層にあたるⅡ-１ａ-②層から構成される。下部の水田層は、５トレンチのⅡ-２・３ａ層に対応する水田層で、耕作土層にあたるⅡ-２・３ａ-①層と、床土層にあたるⅡ-２・３ａ-②層に細分できる。Ⅲ層は、砂礫混じりのにぶい黄色砂質シルトのⅢ-①層、灰褐色微細砂層のⅢ-②層、灰白色の砂礫層のⅢ-③層からなる。Ⅲ-③層は６トレンチのⅢ-③層と対応する。

［８トレンチ］（図８-８、写真13）

７トレンチの南側、中学校体育館北西角の北側に設定したトレンチである。基本層序のⅠ～Ⅲ層を確認できたが、Ⅱ層は、６・７トレンチと同じく、持田団地造成直前の水田層であるⅡ-１ａ層と、その下層の水田層のⅡ-２・３ａ層で構成される。Ⅱ-１ａ層は、耕作土層にあたるⅡ-１ａ-①層と、床土層にあたるⅡ-１ａ-②層に分層できる。Ⅲ層は、最上部に小礫混じりのにぶい黄色砂質シルトのⅢ-①層が堆積し、下部は灰白色砂礫層のⅢ-②層で、６トレンチのⅢ-③層に対応する。

［９トレンチ］（図８-９、写真14）

当初、中学校校舎北側の建物余掘り範囲を明らかにするため、建物に沿って調査区を設定しようと予定していたが、自転車置き場が並び、既設の配管も多く、建物沿いではなく、自転車置き場の間隙にトレンチを設けることとし、９トレンチとした。攪乱が著しく、Ⅰ層がかなり厚いが、地表下85cmで持田団地造成直前の水田層であるⅡ-１ａ層があらわれた。Ⅱ-１ａ層の下層はⅢ層となる。Ⅲ層は、小礫混じりのにぶい黄色細砂層のⅢ-①層、砂岩や花崗岩の円礫を主体とする礫層のⅢ-②層に分層できる。

３　調査のまとめ

今回の調査では、校舎南側に１～４トレンチを設定して校舎建物余掘り範囲を把握することに努めたが、調査範囲が狭いため、余掘り範囲を確認することはできなかった。各トレンチと校舎建物との間には幅1.2mほどのコンクリート犬走り部分があり、建物余掘りの範囲はその中に収まるものと考えられる。以上の１～４トレンチを含めて、今回設定した９ヶ所の調査トレンチは、持田団地のほぼ中央部分に位置する。各ト

レンチの調査結果から、広い範囲にわたって水田層である基本層序Ⅱ層が広がることを確認できた。このⅡ層は、９トレンチを除いて、２ないし３層から構成される。最上層のⅡ－１層は持田団地造成直前の水田層であるが、Ⅱ－２・Ⅱ－３層の時期は出土遺物がほとんどなく、時期を判断できない。

しかし、団地東側で行われている松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査Ⅰ－１～４区では、近代の水田層下で15世紀後半を前後する２層の水田・畠が出土している（図６）。その出土標高は、小学校運動場の５トレンチのⅡ－２ａ・Ⅱ－３ａ層とほぼ共通する。また、６～８トレンチのⅡ－２・３ａ層も同様である。いずれも、当該期の水田層である可能性が高い。さらに、６トレンチで出土した東西にのびる２条の溝は、層序関係からⅡ－２・３ａ層に伴う水路と判断できる。

一方、中学校校舎南側の１～４トレンチでも、持田団地造成直前の水田層であるⅡ－１層の下層で、２枚の水田層が出土している。これらの地点は小学校運動場と比べて70cmほど低く、松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査で確認されている15世紀後半を前後する水田・畠との直接的な関係は明らかでない。しかし、Ⅱ層の堆積相が５～８トレンチと共通することから、やはり当該期の水田層である可能性が高いと考えられる。

このように、今回の調査成果から、少なくとも持田団地中央部分には、15世紀後半を前後する水田・畠域が広がっていると推定される。

４　調査後の対応

調査終了後、調査結果を施設基盤部に報告し、４月28日には施設整備課長と協議・調整を行った。その結果、以下の対応をはかり、埋蔵文化財の保護に努めることを確認した。

①耐震補強工事は、建物外壁に密着させて補強を行う計画であるが、掘削範囲を狭めるように工事計画を変更すること。

②改築に伴う校舎拡張工事範囲は、１～４トレンチの調査結果から、15世紀後半を前後する水田・畠域が広がっている可能性が高く、掘削深度が１ｍをこえるため、工事に先立って発掘調査が必要であること。

③校舎改築に伴うプレハブ校舎の建設が計画されている小学校運動場は、５～８トレンチの調査結果から15世紀後半を前後する水田・畠域が広がっている可能性が高い。プレハブ校舎の建設予定地では、この水田・畠層は地表下60cmであらわれると考えられる。工事に伴う掘削を地表下60cmまでに収める計画に変更すること。

④校舎改築に伴っては、配管の付け替えなどの諸工事が想定される。これらについても、掘削深度を浅くすることや、既設の配管路を利用することによって、埋蔵文化財に影響が生じないように配慮すること。

（田崎）

00602　（樽味団地）農学部上水道水漏れ修繕工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地
調 査 面 積　0.5㎡
調 査 期 間　2006年５月13日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之
依 頼 文 書　農学部長発事務連絡
　　（平成18年４月３日付）

１　調査にいたる経緯

４月３日、農学部用度係から、樽味団地農学部の大講義室北側で上水道が水漏れをおこしていることが判明し至急修繕工事を行いたい旨、埋蔵文化財調査室に連絡があった。既設の管路部分の再掘削であるが、周辺の調査成果から地表下40cmほどで古墳時代～中世の遺構面があらわれるため、立会調査を実施した。

２　調査の記録（図４・９、写真15・16）

調査地点は樽味団地北西角の自転車置き場南側である。水漏れをおこしている地点を掘削したところ、地表下20cmほどで井水管があらわれ、上水道ではなく井水管の連結部分が水漏れしており、修繕工事による掘削では埋蔵文化財には影響がないことを確認した。

（田崎）

写真15　00602調査風景（西から）

写真16　00602調査漏水管確認状況

00603　（樽味団地）農学部敷地内電柱立て替え工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地
調 査 面 積　0.7㎡
調 査 期 間　2006年８月21日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成18年７月19日付）

１　調査にいたる経緯

財務部企画課資産管理チームを通じて、四国電力から農学部敷地内の四国電力所有の電柱を調査したところ老朽化のため建て替えが必要となり、現有の電柱から1.5m離れた場所に電柱を新たに設置したい旨連絡があった。周辺の調査状況や掘削深度から、埋蔵文化財への影響が予想されるため、立会調査を実施することにした。

２　調査の記録

調査地点は、樽味団地南西部に位置する（図４・10）。電柱建て替えに伴って２ヶ所のトレンチを設定し、樽味団地全域における基本層序のⅣ層上面まで人力で掘り下げて調査を進めることとした。北側を１トレンチ、南側を２トレンチとした。

［１トレンチ］（図10、写真18）

現地表下40cmまで瓦礫を伴ったⅠ層が堆積する。Ⅰ層の下にはⅡ層が約28cm堆積し、Ⅱ層直下、現地表下68cmでⅣ層を検出した。Ⅳ層上面を精査したが、遺構は検出できなかった。出土遺物はない。

［２トレンチ］（図10、写真19）

現地表下64cmまで瓦礫を伴ったⅠ層が堆積し、直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層はあざやかなオレンジ色を呈した砂礫混じりのシルト層である。

３　調査のまとめ

１トレンチでは表土層であるⅠ層下でⅡ層とⅣ層、２トレンチではⅠ層直下でⅣ層があらわれ、弥生時代～中世の遺物包含層である基本層序Ⅲ層は確認できなかった。調査区周辺では、Ⅱ層の水田の耕作によって、Ⅲ層が削平されている可能性が高い。　（三吉）

00604　（持田団地）教育学部附属中学校校舎新営工事に伴う調査
（持田団地構内遺跡１次調査）

調 査 地 点　松山市持田町１丁目５番22号
　　愛媛大学持田団地
調 査 面 積　292㎡
調 査 期 間　2006年８月23日～９月29日

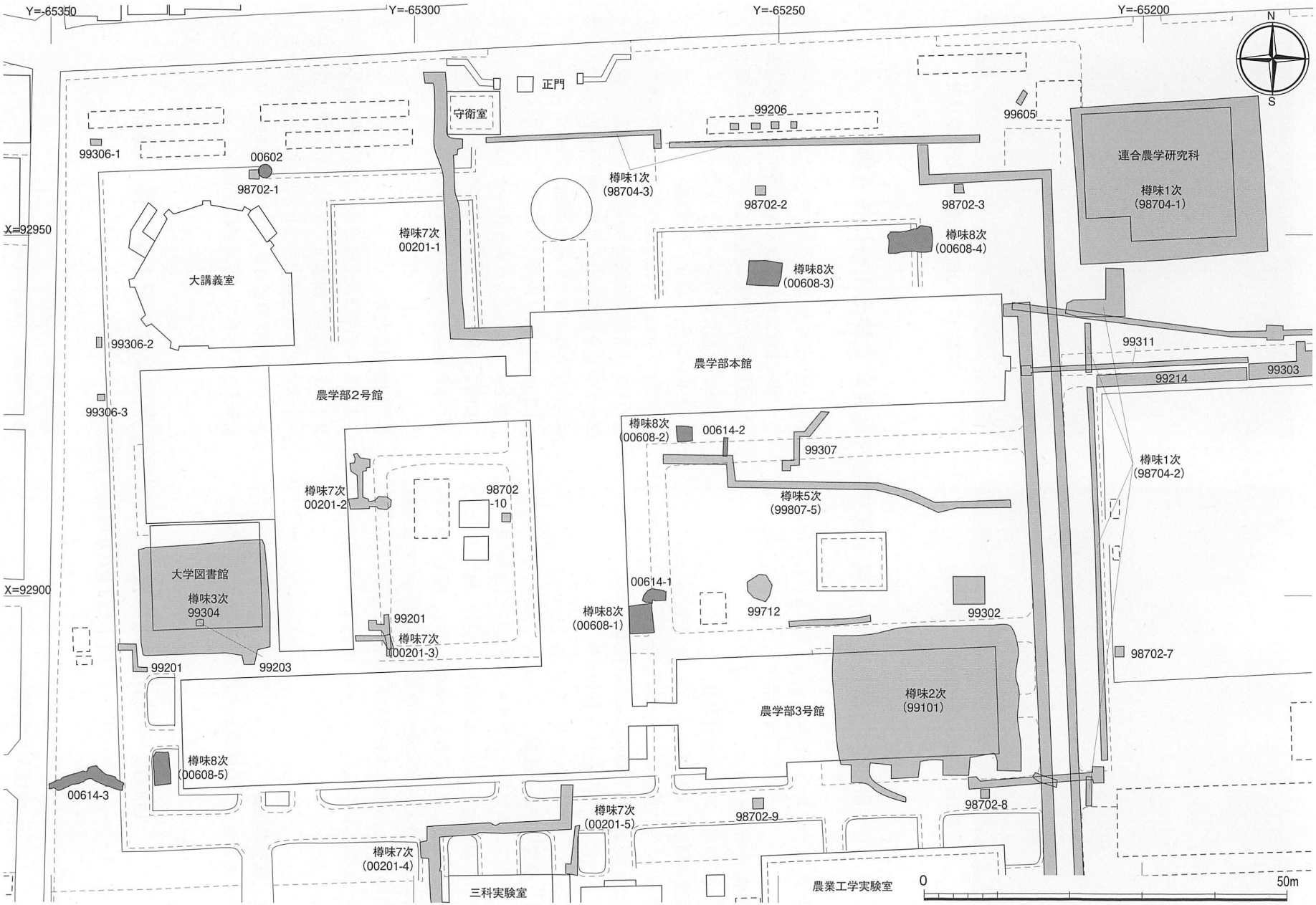


図９　00602・00608・00614調査地点位置図（縮尺 1/750）

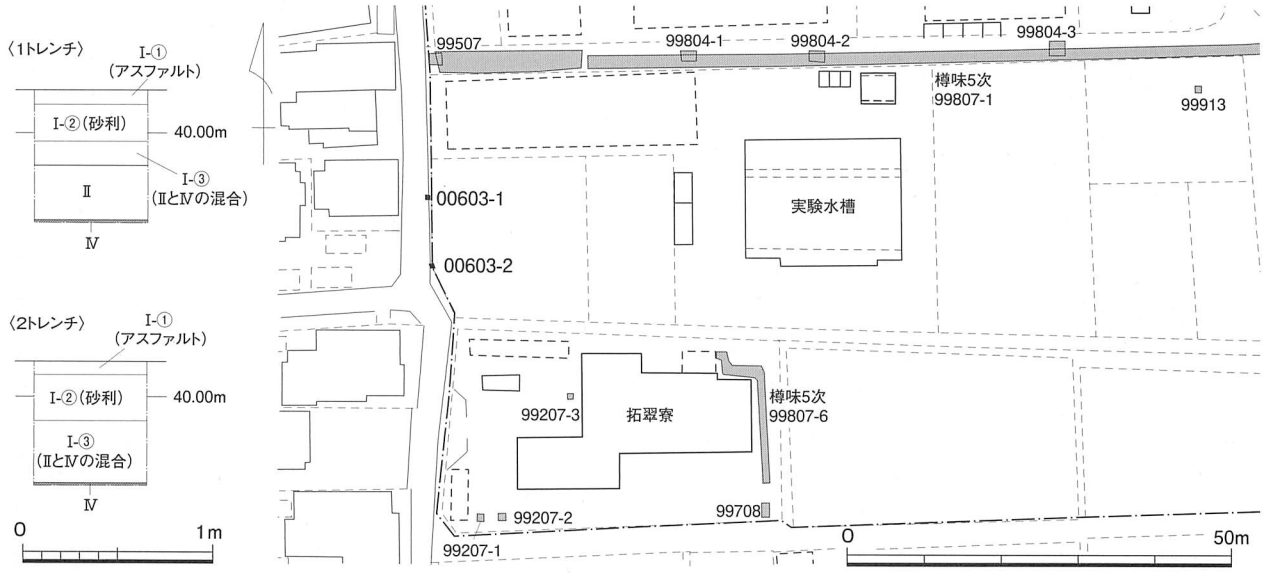


図10　00603調査地点位置および１・２トレンチ土層柱状図（縮尺 1/1,000、1/50）

写真17　00603調査地全景（北から）

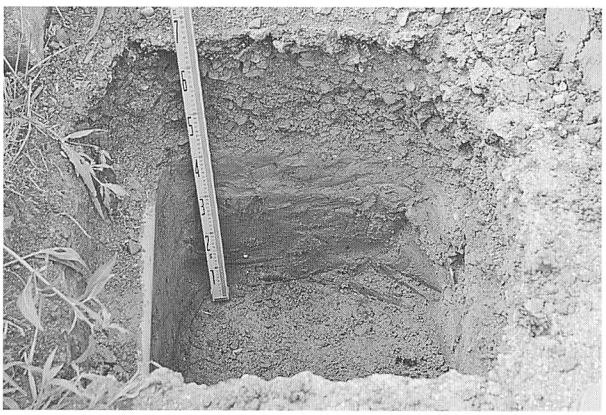


写真18　00603調査１トレンチ完掘状況（北から）

写真19　00603調査２トレンチ完掘状況（南から）

調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充・田崎博之
依 頼 文 書　教育学部附属中学校長発事務連絡
（平成18年７月４日付）

１　調査にいたる経緯

教育学部附属中学校校舎の改築工事については、2006年４月に試掘調査（調査番号:00601）を実施し、調査結果を施設基盤部に報告し、できるだけ埋蔵文化財に影響がおよばないように協議を重ねてきた。しかし、校舎改築に伴って南側にオープン廊下を拡張することとなり、この工事については掘削深度が深いため、２地点で工事範囲の全面を本格調査することとなった。２地点のうち西側の調査区をⅠ区、東側の調査区をⅡ区とした。Ⅰ区の調査面積は230㎡、Ⅱ区は62㎡を測る（図３・６）。

２　調査の記録

調査は、８月23日にⅠ区の調査に着手したが、重機で表土層を除去した後、校舎解体に伴う工事の進捗状況の遅れから、８月末まで発掘調査を一時中断した。９月１日に調査を再開し、９月29日に調査を終了した。

調査では、任意の基準点を設定し、５ｍグリッドを組み、測量・遺物の取り上げを行った。調査期間内に任意の基準点に対して平面直角座標系第Ⅳ系による基準点測量を行い、今後周辺地域における調査に対応できるようにした。なお、調査で作成した遺構図に関しては、任意の基準点から平面直角座標系へ対応させている。遺物に関しては、任意の基準点に基づいた取り上げ単位を踏襲しており、平面直角座標系の基準点による区割りとは対応していない。

今回の調査では、試掘調査の予想通り、近世段階の水田層４層ならびに水田に付設された溝などが出土した。

（１）基本層序

持田団地では、00601調査の結果を踏まえ、既往の調査成果と団地東側で実施された松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査の成果をあわせて、持田団地全域の基本層序を設定している。

Ⅰ層：表土・造成土層
Ⅱ層：水田・畠に利用された耕作土層と母材土壌の自然堆積層（洪水層）から構成される土層群
Ⅲ層：石手川の埋没中州である砂礫層

今回の調査は、00601調査３・４トレンチと重複し、基本層序Ⅰ～Ⅲ層を確認できた。

（２）Ⅰ区の調査

１）Ⅱ-1（上層水田）層

Ⅱ-1層は調査区全面にわたって分布する。Ⅱ-1層は、調査区東部では層厚約20cmを測るものの、南西部では近現代の造成土であるⅠ層によって削平を受け、層厚約７cmにとどまる。Ⅱ-1層は、Ⅱ-1-①（耕作土）層とⅡ-1-②（床土）層とからなる。上述のようにⅡ-1-①層は大幅な削平を受けており、水田耕作土層でも下部にあたるものと考えられる。調査では、水田層の時期比定を目的として、上部層からの掘り込みの有無に注意しながら、慎重に掘り下げを行った。その結果、出土遺物には、近代の陶磁器片が混じっていることから、Ⅱ-1層は近代まで下る可能性が高い。

２）Ⅱ-2-②層・Ⅱ-3-②層上面検出遺構（中層水田）

Ⅱ-1層を掘り下げ後、Ⅱ-2層上面の精査ならびに土層断面における精査を行った結果、Ⅱ-2層上面は、ほぼ水平堆積をし、小さな凹凸があるものの、上部層からの削平によって水田の畦畔はすでに削平されていることが明らかになった。そこで、調査区全面にわたって展開するⅡ-2-②層、すなわち水田床土層上面まで掘り下げを行い、犂痕等の耕作痕跡の検出を試みた。しかし、調査区西壁土層ラインより西部では、Ⅱ-2層の下部に展開するⅡ-3層内の水田床土層、すなわちⅡ-3-②層上面まで掘り下げを行ってしまった。これは調査最終段階の土層断面図作成時になって気づいたものである。よって、調査段階に作成した図面並びに写真はⅡ-2-②層上面検出遺構とⅡ-3-②層上面検出遺構とが混在することになってしまった。調査区土層断面図の所見から、平面直角座標系Ｙ＝-66132ラインより東の調査区東部では、Ⅱ-2-②層上面検出遺構、すなわち中層上部水田しか存在しておらず、検出した犂痕はⅡ-2-②層上面検出遺構（中層上部水田）に伴うものである。一方、平面直角座標系Ｙ＝-66132より西で検出した犂痕は、Ⅱ-3-②層上面検出遺構、すなわち中層下部水田に伴う可能性が高い。

Ⅱ-2-②（耕作土）層は、径１cm大の角礫を含む砂礫混じりのオリーブ灰色土である。部分的にマンガンの沈着層が見られる。水田の畦畔が残存していないことを確認した後、耕作土層を手掘りで掘り下げ、床土

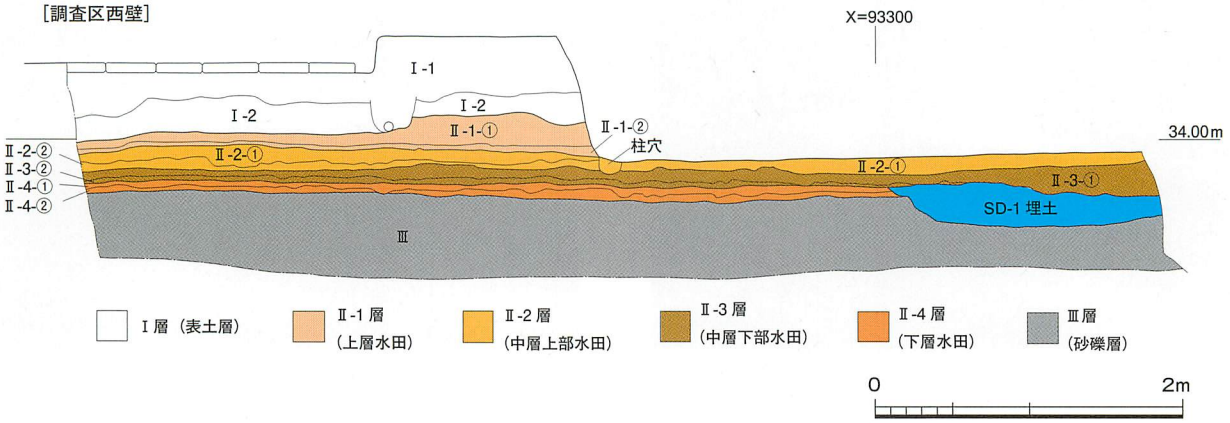


図11　00604調査Ⅰ区西壁土層断面図（縮尺 1/50）

層上面で遺構精査を行ったところ、調査区全面で犂痕が出土した。

犂痕は、南北方向を主軸とする犂痕と東西方向を主軸とする犂痕が出土した。東西方向を主軸とする犂痕は、調査区全面で確認できた。一方、南北方向を主軸とする犂痕は、調査区西側ではほとんど見られない。このことから、南北方向を主軸とする犂痕の有無は、水田の区画に対応している可能性もある。しかし、前述のように、犂痕は同一面での検出ではない。さらに、南北方向を主軸とする犂痕が少なくなるのが、平面直角座標系 Y＝-66132付近であり、ちょうど遺構検出時の不整合ラインにあたる。Ⅱ-2-②層上面検出水田（中層上部水田）では、犂痕は南北方向・東西方向を主軸とし、Ⅱ-3-②層上面検出水田（中層下部水田）では、犂痕は東西方向を主軸としていたと考えておく。

犂痕を詳しく見ると、切り合い関係から南北方向を主軸とする犂痕が古く、東西方向を主軸とする犂痕が新しい。南北方向を主軸とする犂痕は、東西方向を主軸とする犂痕に比べてやや浅い。犂痕は、全長0.4m～９m強、幅は10～15cmを測る。断面はU字状を呈し、深さは６～13cm程である。犂痕の埋土は、オリーブ黄色シルト質土で、径１～２㎜の砂粒や炭化物の小片を多く含んでいる。

以上、水田に伴う畦畔や溝は確認できなかったものの、東西方向および南北方向を主軸とする犂痕から、現在の東西南北方向とほぼ同じ方向軸で水田が区画されていたと考えられる。

主な出土遺物には、調査区中央部の床土層から近接して銅銭が２枚出土しており、１枚は無背の洪武通宝である。

3）Ⅱ-4-②層上面検出遺構（下層水田）

Ⅱ-4-①層上面で遺構検出を試みたが、上部層における水田耕作に伴う削平を受けており、畦畔などは確認できなかった。そこで、床土層上面に掘り込まれた犂痕の検出を目的として、層厚３～14cmを測るⅡ-4-①層（下層水田耕作土層）を掘り下げ、Ⅱ-4-②層上面で、犂痕、溝（SD-1）、人の足跡を検出できた。

犂痕は、東西方向を主軸とするものと南北方向を主軸とするものが確認できた。大半は東西方向を主軸とし、南北方向を主軸とする犂痕は、調査区中央部で散見される程度である。犂痕の方向から、現在の東西南北とほぼ同じ方向で水田が区画されていたと考えられる。

犂痕は、全長0.4～2.9m、断面U字状を呈し、深さ１～３cmを測る。犂跡の幅には、20cm前後の広いものと10cm前後の狭いものとの２種類が見られ、広いものは相対的に浅い。埋土は水田耕作土であるⅡ-4-①層と同じオリーブ灰色砂質シルト質土である。

調査区北側で、東西方向に走る溝（SD-1）が出土した。調査区内で検出した東西の総延長は23.2mに及ぶ。後述のⅡ区の調査区東壁でもSD-１を確認しており、総延長は50m以上となる。溝の北半分は、附属中学校校舎建設時の掘り返しによってすでに破壊されており、溝幅については不明である。Ⅱ-4-①層掘り下げ段階では確認できなかったが、調査区中央土層観察用畦の精査中に、SD-1が当初素掘りの溝として開削され、その後溝が埋没し、再度掘り返され、石積みの溝が築かれていることを確認した。

改修前のSD－1は、検出幅で1.8m、深さ約25cmを測り、改修後の溝より一回り大きい。まず、ラミナが

写真20　00604調査Ⅰ区の表土層除去作業

写真21　00604調査Ⅰ区南壁土層

写真22　00604調査Ⅰ区中層水田床土層上面での犂跡検出状況

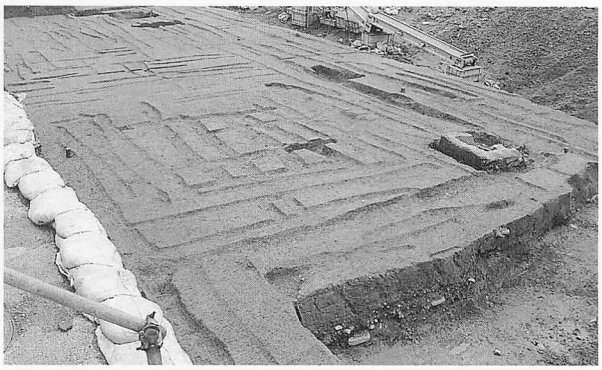


写真23　00604調査Ⅰ区中層水田床土層上面で出土した犂跡

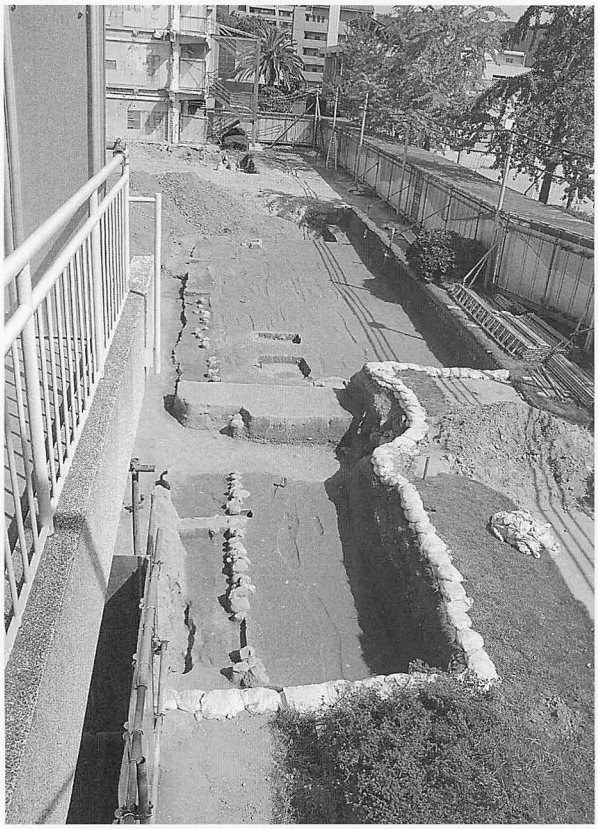


写真24　00604調査Ⅰ区下層水田面のSD-1と犂跡（西から）

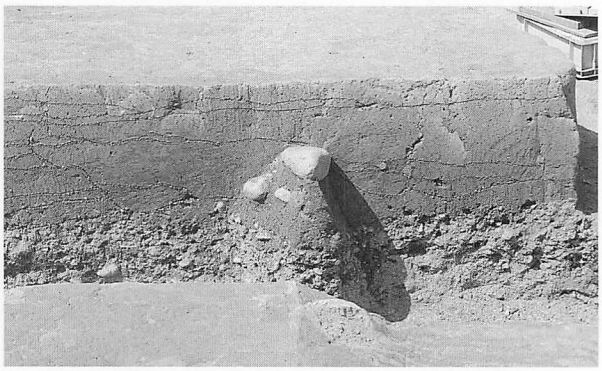
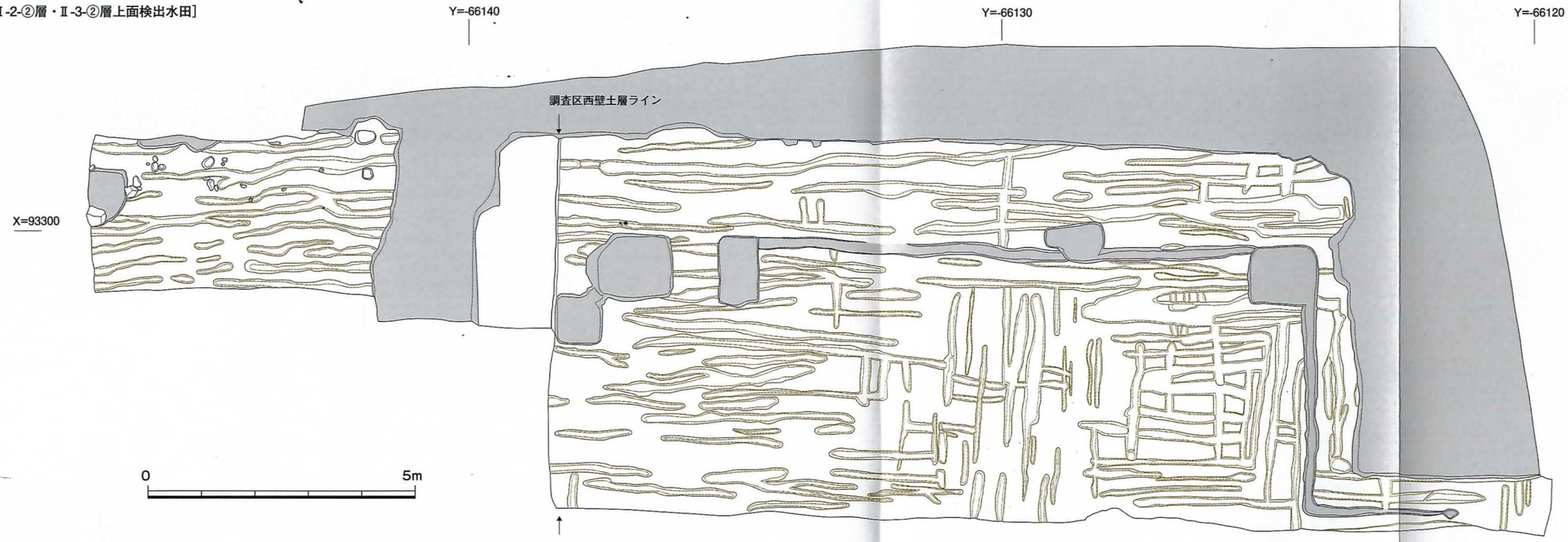


写真25　00604調査Ⅰ区SD-1の土層断面

写真26　00604調査Ⅰ区下層水田層の床土層上面で出土した足跡

[Ⅱ-2-②層・Ⅱ-3-②層上面検出水田]



[Ⅱ-4-②層上面検出水田]

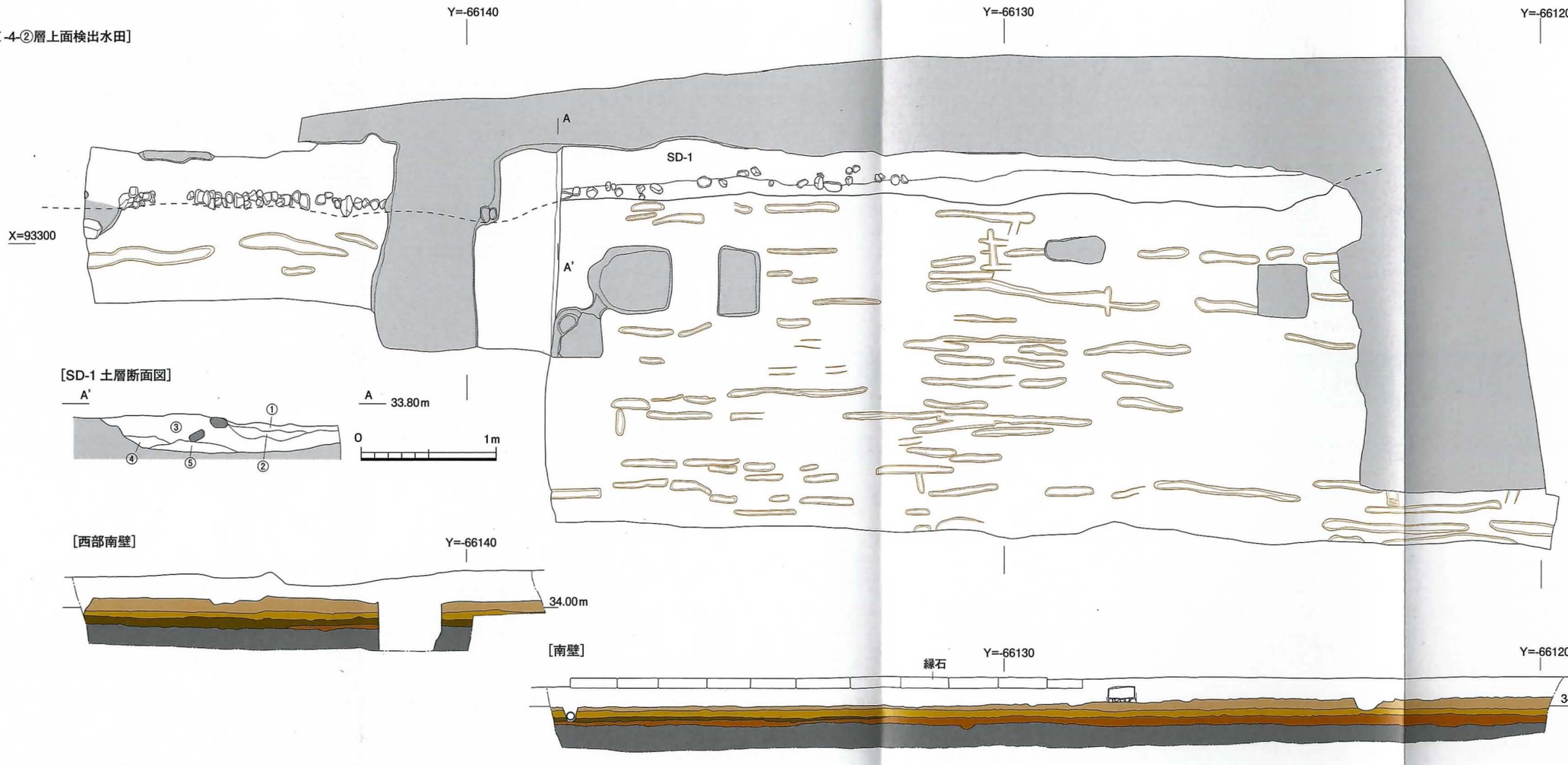


図12　00604調査Ⅰ区実測図（縮尺 1/100、1/40）

発達したオリーブ灰色細砂層である⑤層が溝底に部分的に堆積する。この時点で流水は弱まり、明黄褐色砂質シルトである④層が堆積する。色調は、隣接する水田床土層の浸透に起因すると考えられる。さらに流水が弱くなり、径１㎜以下の小礫が点々と混じるオリーブ灰色砂質シルトである③層が堆積し、溝は完全に埋没してしまい、溝としての機能が停止する。その後、溝の埋土を掘り返し、溝が再度構築される。

改修後のSD－1も、北側は攪乱によって欠損する。検出最大幅で1.1ｍ、深さ13cmの溝である。北側は欠損のため不明だが、溝の南縁に沿って１辺30cm未満前後の花崗岩や砂岩の円礫を用いた石列が設けられる。まず、１辺20～30cmの比較的大きな石を等間隔に並べ、それらの石の隙間に１辺10～15cmの小型の円礫を充塡し、石列が作られている。溝埋土には部分的にしかラミナが形成されておらず、溝の流れは間欠的だったと推定される。そのため、水流が弱くなり、ラミナが少量見られるオリーブ灰色砂質土である②層が溝の端に堆積した後、さらに小礫を多く含んだオリーブ灰色砂質シルトである①層が堆積し、完全に溝としての機能が停止する。調査区西部における溝底レベルは約33.538ｍ、調査区東部における溝底レベルでは約33.568ｍを測り、東側が約３cm高くなる。よって東から西へ水が流れていたと考えられる。

調査区南東部で人の足跡が出土した。長さは23cmを測り、形状から右足と考えられる。

４）Ⅲ層（砂礫層）

下層水田床土層除去後、調査区南壁ならびに調査区

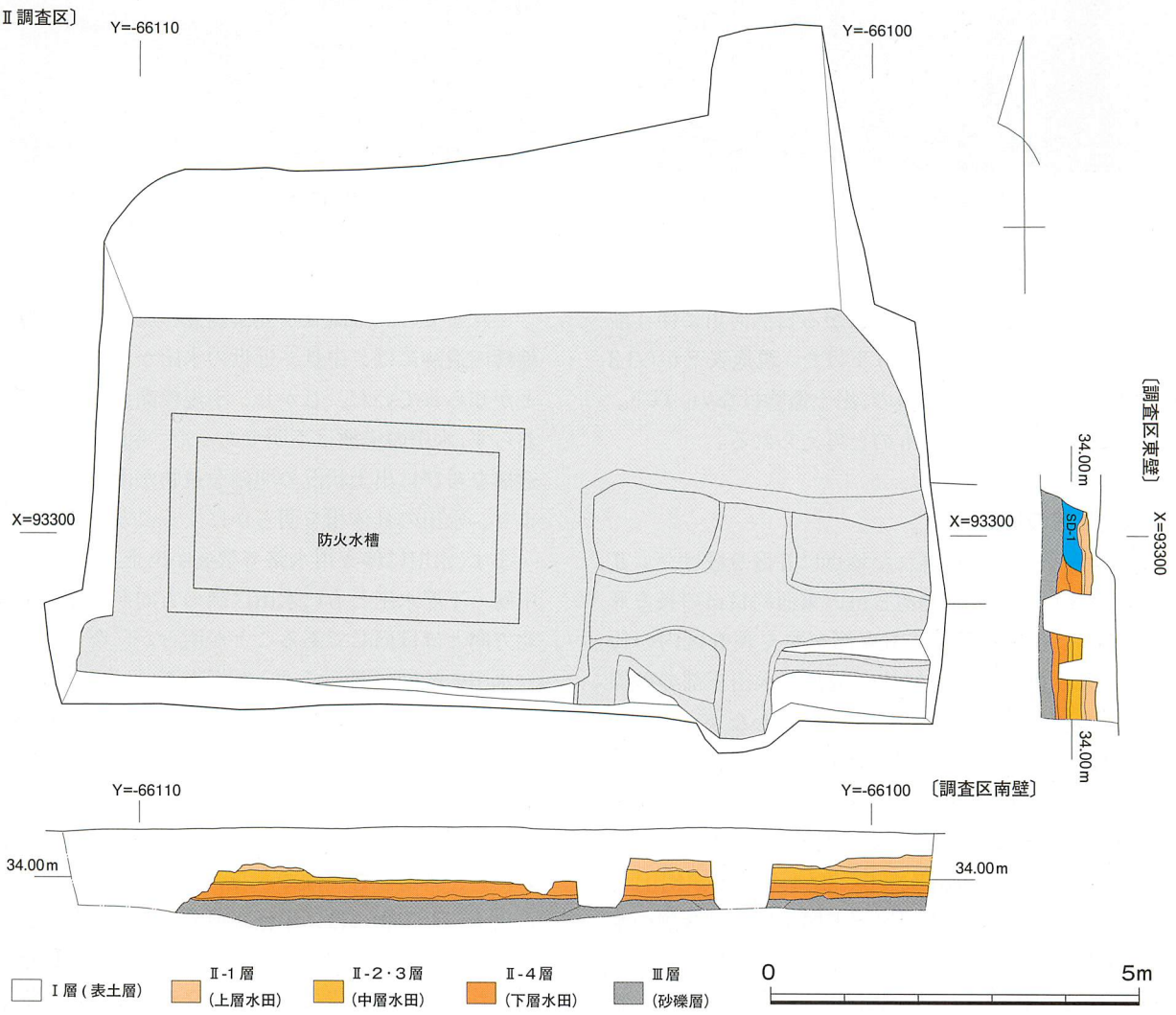


図13　00604調査Ⅱ区実測図（縮尺 1/100）

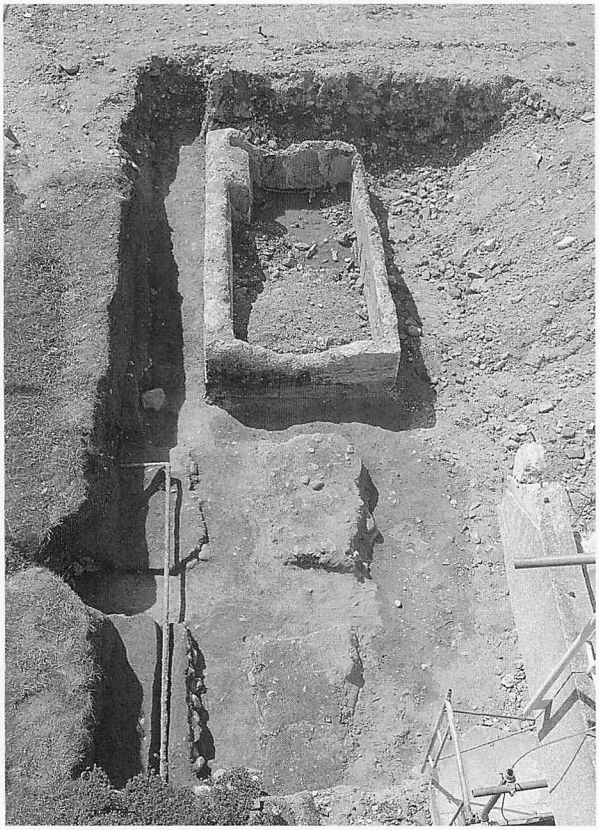


写真27　00604調査Ⅱ区表土層除去状況（東から）

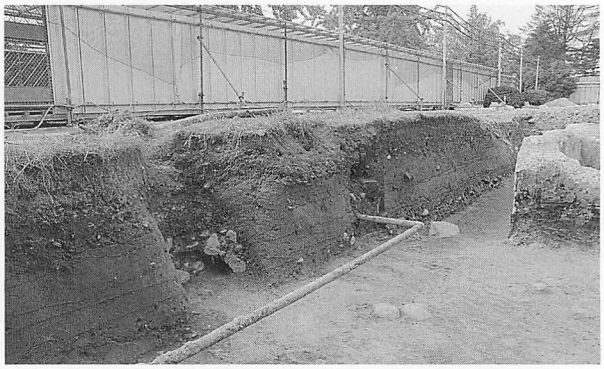


写真28　00604調査Ⅱ区南壁土層（北東から）

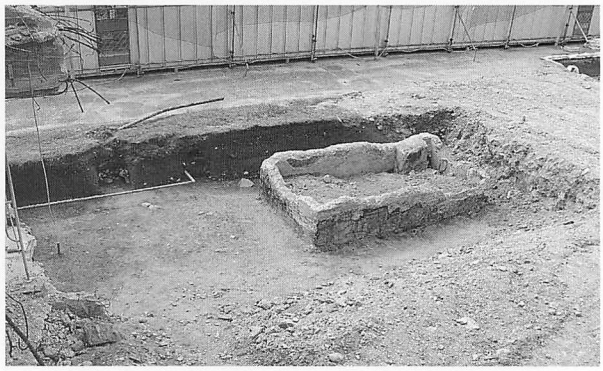


写真29　00604調査Ⅱ区完掘状況（北から）

中央土層観察畦に沿って、L字形に幅１ｍの深掘り調査区を設定し、水田層下部に広がる自然河川に伴う堆積層（砂礫層）を部分的に掘り下げた。現地表下から1.3ｍ地点まで掘り下げたものの、出土遺物はない。以下、自然河川の堆積層が続くものと考えられる。

（3）Ⅱ区の調査

Ⅰ区から東へ約60m離れた地点にⅡ区を設けた。Ⅱ区は、調査区下端で南北約５ｍ、東西約11ｍの長方形の調査区である。調査区南東部を除く調査区内の約3/4は、貯水槽設置などに伴う攪乱が水田下部の砂礫層にまで及んでおり、以下の調査は行わなかった。大規模な攪乱を免れた調査区南東部も管路設置に伴う掘り返しによって、遺跡が破壊されている。調査区南壁にそったわずかな範囲で、水田層を確認したにとどまる。南壁ではⅠ区で確認されたⅡ-1層（上層水田）・Ⅱ-2層（中層水田）・Ⅱ-4層（下層水田）の３層の水田層が確認できた。Ⅰ区で確認したⅡ-3層に対応する層は見られなかった。遺物はⅡ-4-①層中から土師器・須恵器片が少量出土している。

3　調査のまとめ

これまでの試掘調査・立会調査の成果から、持田団地構内遺跡には、中世～近世の水田が展開していることが知られていた。しかし、小規模調査しか行われておらず、水田の実態は不明であった。今回の調査では、遺構ならびに出土状況の明確な遺物が出土したことにより、水田の具体相を明らかにすることができた。

まず、水田に伴う用水路や犂痕が出土したことから、中層・下層水田ともに水田区画の方向が現在の東西南北方向とほぼ同じであることが明らかになった。

水田の時期に関しては、試掘調査では近世以前の可能性を考えていたが、今回の調査で出土した遺物の検討から、江戸時代に位置づけられることが明らかになった。

水田層の下部に展開する自然河川は、出土遺物がないため、時期の特定はできない。しかし、水田層中から出土した遺物には、中世以前のものがほとんど見られないことから、現段階では、自然河川堆積作用が弱まった中世段階以降に、水田開発が始まったと推定される。（三吉）

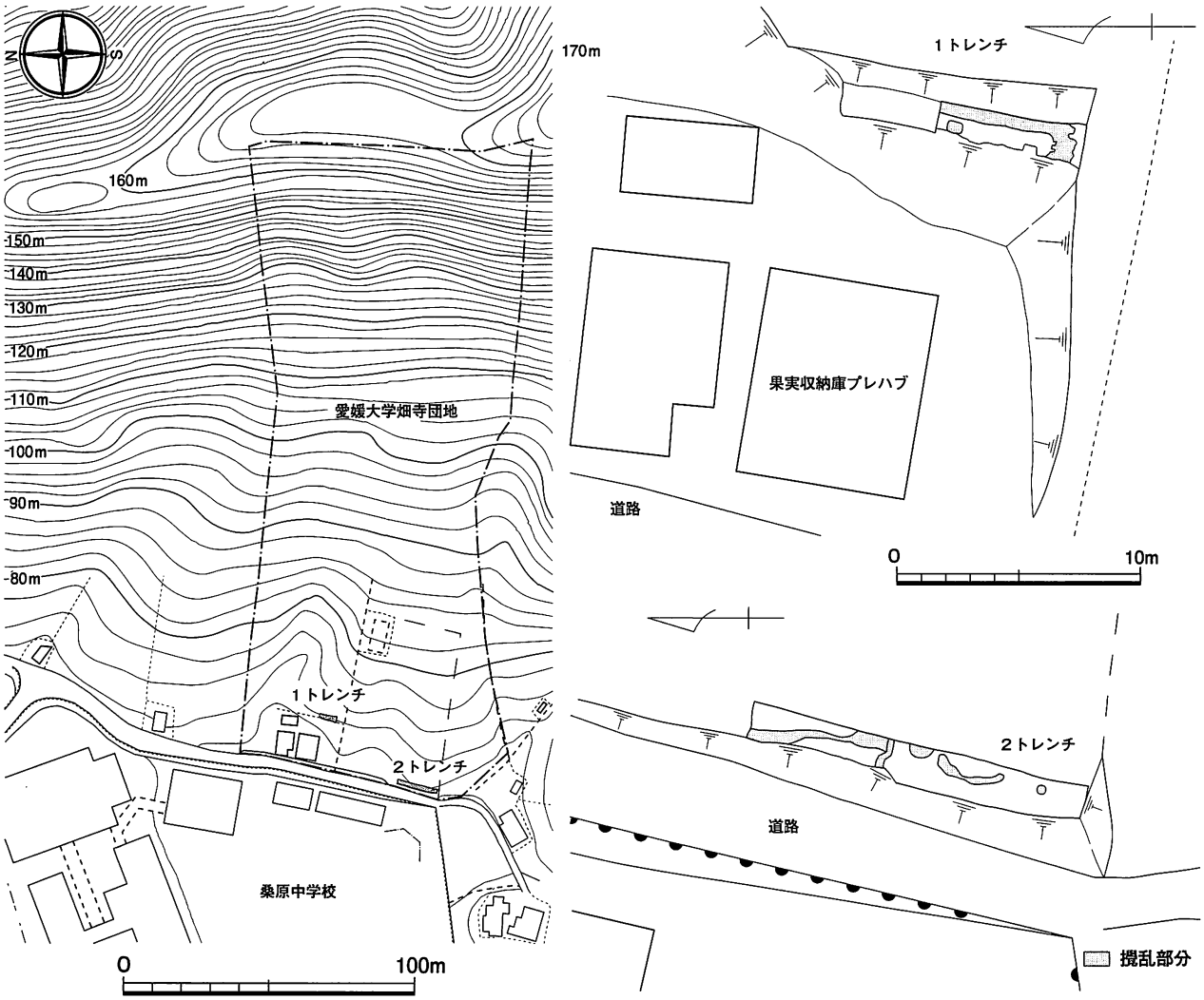


図14　00605調査地点配置および1・2トレンチ実測図（縮尺 1/2,500、1/300）

00605 （畑寺団地）農学部附属農業高等学校果実収納庫新営工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市畑寺町丙47番２号
　　愛媛大学畑寺団地
調 査 面 積　35㎡
調 査 期 間　2006年９月29日
調査の種別　試掘調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成18年９月27日付）

1　調査にいたる経緯

2006年４月、施設基盤部から、畑寺団地に所在する附属農業高等学校の果実収納庫新営工事に伴い、敷地内斜面の削り取りを行いたいとの旨、報告があった。これまで畑寺団地では調査が行われておらず、埋蔵文化財の状況は不明だったことから、４月21日、附属農業高等学校と施設基盤部の担当者とともに現地に赴き現状を確認した。その結果、畑寺団地は埋蔵文化財包蔵地でないものの、団地北西側に竹ヶ谷遺跡が位置することを確認できた。竹ヶ谷遺跡は、1983年、松山市立桑原中学校建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代の貯蔵穴や古墳時代中・後期の古墳群が発見されている。隣接する畑寺団地内にも、遺跡が存在することが推定されたため、試掘調査を実施するとともに、今後の団地内における工事へ対応するため確認調査（調

写真30　00605調査１トレンチ遠景（西から）

写真31　00605調査１トレンチ完掘状況（南から）

写真32　00605調査１トレンチ北端部の完掘状況（南から）

写真33　00605調査１トレンチ北端の攪乱壙（東から）

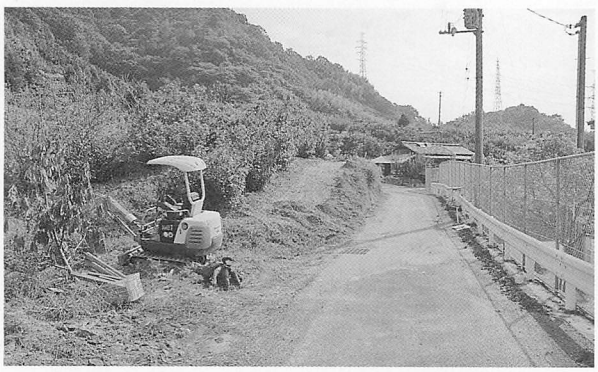


写真34　00605調査２トレンチ遠景（北から）

写真35　00605調査２トレンチ遠景（南から）

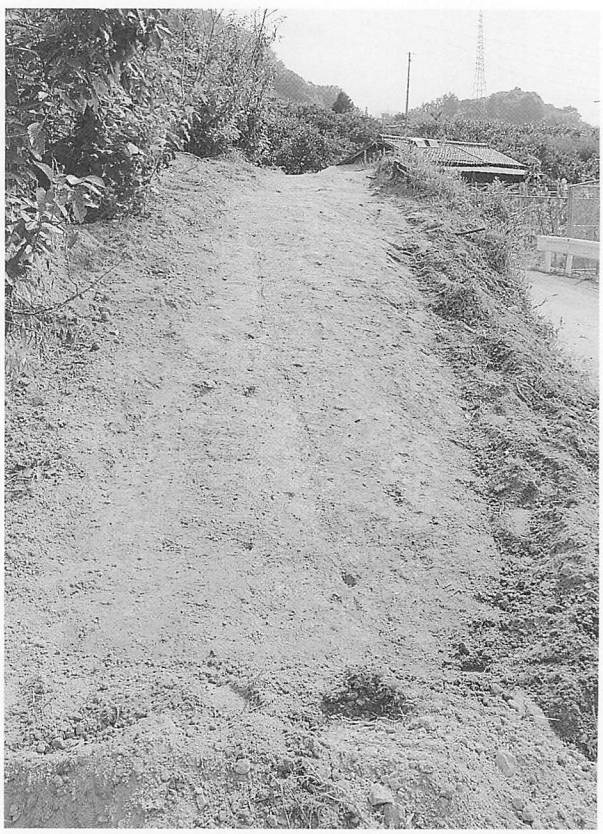


写真36　00605調査２トレンチ完掘状況（北から）

査番号：00606）を実施することとした。

2　調査の記録

附属農業高等学校の果実収納庫新営工事では、団地北西角にある旧果実収納庫の東側の崖面の切り取りとともに、団地南西角部では道路の幅員を拡張する必要が生じた。果実収納庫の東側の崖面の切り取り部に１トレンチ、団地南西角部の道路幅員の拡張部に２トレンチを設定した（図14）。なお、本調査で用いるレベルは、松山市作成の都市計画図に表示された桑原中学校校庭内の標高地を利用している。

［１トレンチ］（図14、写真30～33）

１トレンチは、旧果実収納庫の東側の崖の上面に、長さ6.1m×幅1.3～2.4mの台形状に設定した。現地表下約９cmまで重機によって掘り下げたところ、和泉砂岩の風化岩盤層である明黄褐色砂質土層があらわれた。その上面で精査を行ったが、トレンチ北端付近で、径50～60cmの長楕円形状に広がる炭化物の集積を確認できた。しかし、ガラス小片などが出土したため攪乱壙と判断した。その他に、遺構・遺物は出土していない。

［２トレンチ］（図14、写真34～36）

２トレンチは、１トレンチから南西へ30m離れた地点に位置する。１トレンチ同様、東から西へのびる丘陵尾根線に対して直交する方向に、長さ14m、幅1.4～1.7mのトレンチを設けた。現地表下約15cmまで、重機によって掘り下げを行ったところ、１トレンチと同じく、浅黄砂質土の丸いブロックが混じった和泉砂岩の風化岩盤層である明黄褐色砂質土層があらわれた。この上面を精査したが、樹木根跡などしか検出できず、遺物も出土していない。　（三吉）

00606　（畑寺団地）2006年度確認調査

調 査 地 点　松山市畑寺町丙47番２号
　　愛媛大学畑寺団地
調 査 面 積　2,750㎡
調 査 期 間　2006年９月29日
調査の種別　確認調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充

00605調査として試掘調査を実施した畑寺団地から北西方向にのびる尾根線上には、竹ヶ谷遺跡が位置する。前述したように、竹ヶ谷遺跡は、1983年に発掘調査が行われ、弥生時代の貯蔵穴や古墳時代中・後期の古墳群が発見されている。隣接する畑寺団地内にも遺跡が存在する可能性を考え、00605調査終了後に、2006年度の構内遺跡確認調査として、畑寺団地の地表調査を行うこととした。

畑寺団地は、現在、団地東半部は雑木林、西半部は段々畑状に地形を削平し、果樹林として利用されている。そこで、段々畑状に削平された団地西半部を対象として、表面地形の観察、遺物の表面採集を中心とした地表調査を実施した。しかし、段々畑の造成に伴って、旧地形の大半は削平され、採集された遺物は近世の陶磁器片だけである（写真37・38）。ただし、団地北西端の果実収納庫北側には、小さな高まりが見られることから、古墳などの可能性も残されている。今後、工事を行う際には、立会調査などの対応が必要である。

（三吉・田崎）

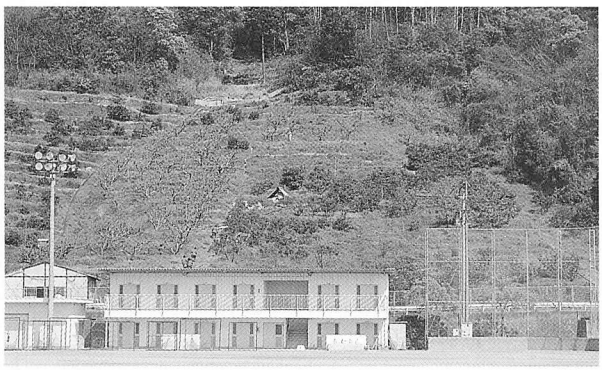


写真37　00606調査畑寺団地全景（西から）

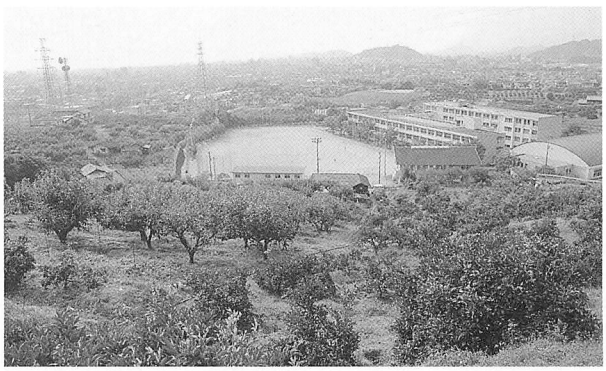


写真38　00606調査畑寺団地頂部から西を望む

図15　畑寺団地周辺地形および遺跡分布（縮尺 1/3,000）

00607　（重信団地）医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事に伴う調査

調 査 地 点　東温市志津川
　　愛媛大学重信団地
調 査 面 積　18㎡
調 査 期 間　2006年11月９日～11月10日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　財務部長発事務連絡
　　（平成18年７月３日付）

1　調査にいたる経緯

平成18年６月、医学部および附属病院敷地内における電柱建て替え工事計画が、財務部から報告・説明された。周辺における既往の調査結果から、重信団地北西部の６ヶ所および団地東部の駐車場南端の１ヶ所の電柱建て替えに関しては、埋蔵文化財への影響が考えられることから、立会調査を実施することとした。

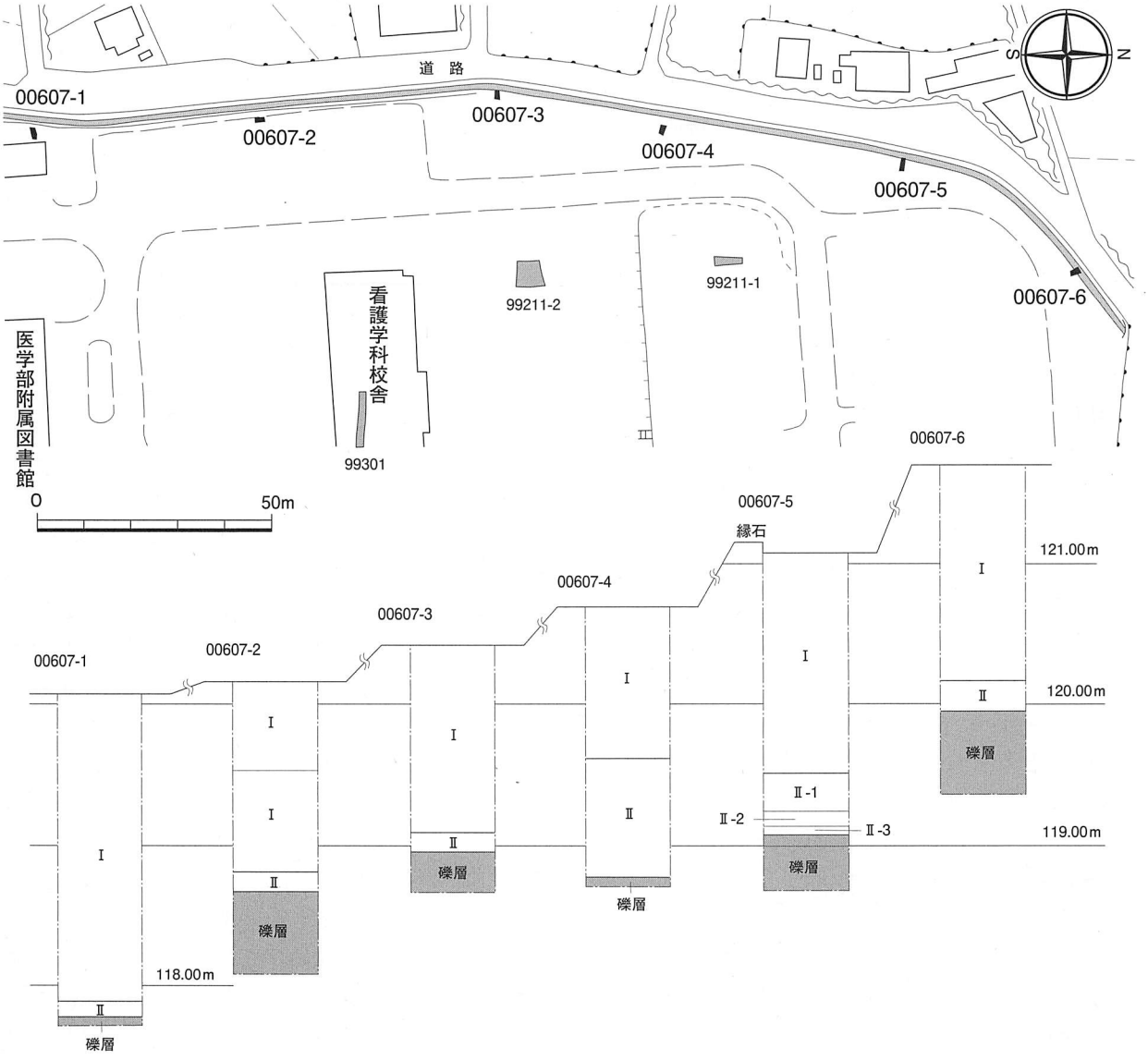


図16　00607調査１～６トレンチ配置および土層柱状図（縮尺 1/1,500、1/50）

図17　00607調査７トレンチ配置および土層柱状図（縮尺 1/1,500、1/50）

２　調査の記録

重信団地西部の６ヶ所の電柱建て替えを南から北に向けて順に１～６トレンチとし、団地東側の駐車場南端の電柱建て替え地点を７トレンチとして調査を進めた（図５）。

［１トレンチ］（図16、写真39・40）

１トレンチは重信団地内西部の薬品庫の西側に位置する。現地表下約２ｍまで造成土がつづく。Ⅰ層の下層には、暗オリーブ色できめの細かいシルト質土のⅡ層が20cmほどの厚さで堆積する。水田層と考えられる。Ⅱ層の下層では砂礫層があらわれ、現地表下2.2ｍの地点までつづく。遺物は出土していない。

［２トレンチ］（図16、写真41・42）

２トレンチは、看護学科校舎の西約35m、１トレンチから北へ50ｍの地点に位置する。現地表下約1.35ｍまで造成土であるⅠ層が続き、その下層で暗オリーブ色シルト質土のⅡ層があらわれた。水田層である。Ⅱ層直下では、径５～20cm大の円礫混じりの灰白色砂礫層が、現地表下約2.1ｍまでつづく。

［３トレンチ］（図16、写真43・44）

３トレンチは、２トレンチから北へ50ｍ離れた地点に位置する。現地表下1.32ｍまで造成土が続き、直下で径１㎜大の砂礫が少量混じる灰白色シルト質土のⅡ層があらわれた。厚さは14cmほどを測る。Ⅱ層は、部分的に鉄分が沈着して赤みをおび、水田層と考えた。Ⅱ層の下層には、径２～10cm大の円礫層が出土した。円礫層を現地表下1.75ｍまで掘り下げたが、遺構・遺物は出土しなかった。

［４トレンチ］（図16、写真45・46）

４トレンチは、３トレンチから北東へ35ｍの地点に位置する。現地表下1.08ｍまで造成土のⅠ層がつづき、その下層で径１㎜～径３cmの円礫が混じる灰白色シルト質土のⅡ層があらわれた。Ⅱ層は、下半部に鉄分が沈着して全体に赤みをおびており、水田層と考えられる。層厚は約65cmを測る。下半部は円礫が多くなる。Ⅱ層からは、土師器埦あるいは皿の口縁部細片が１点出土している。しかし、細片のため時期は明らかでない。Ⅱ層の下層は、現地表下1.91cmまで径１～３cm大

写真39　00607調査１トレンチ遠景（南西から）

写真40　00607調査１トレンチ北壁土層

写真41　00607調査２トレンチ遠景（南東から）

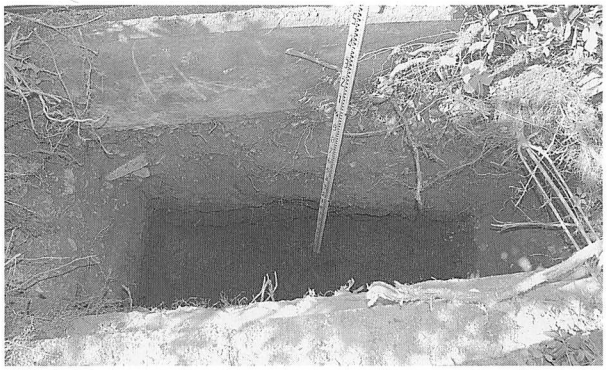


写真42　00607調査２トレンチ西壁土層

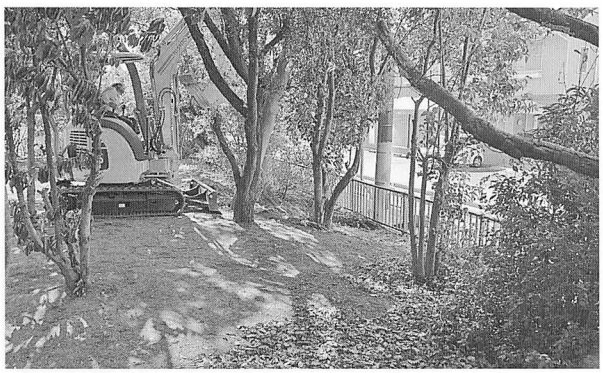


写真43　00607調査３トレンチ遠景（北から）

写真44　00607調査３トレンチ南壁土層

写真45　00607調査４トレンチ遠景（南から）

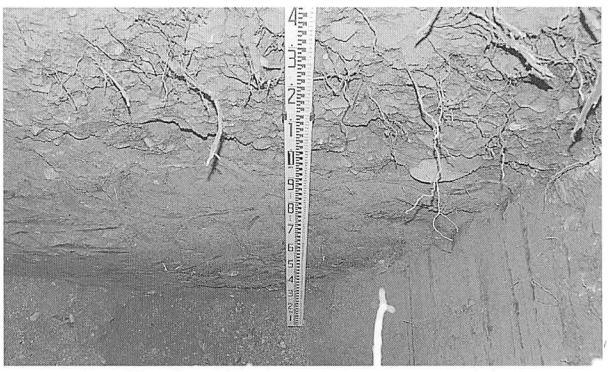


写真46　00607調査４トレンチ南壁土層

写真47　00607調査５トレンチ遠景（南東から）

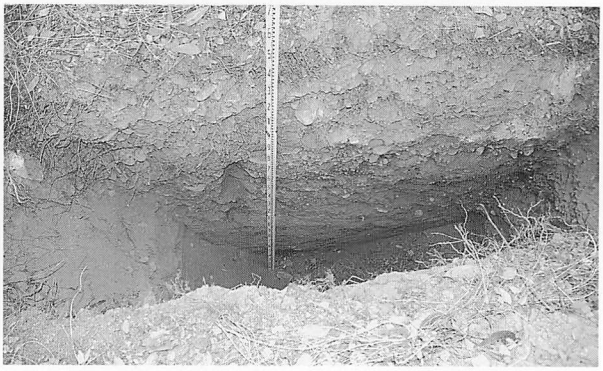


写真48　00607調査５トレンチ北壁土層

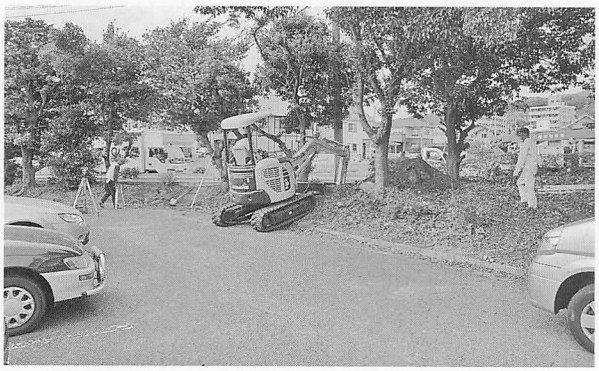


写真49　00607調査６トレンチ遠景（東から）

写真50　00607調査６トレンチ北壁土層

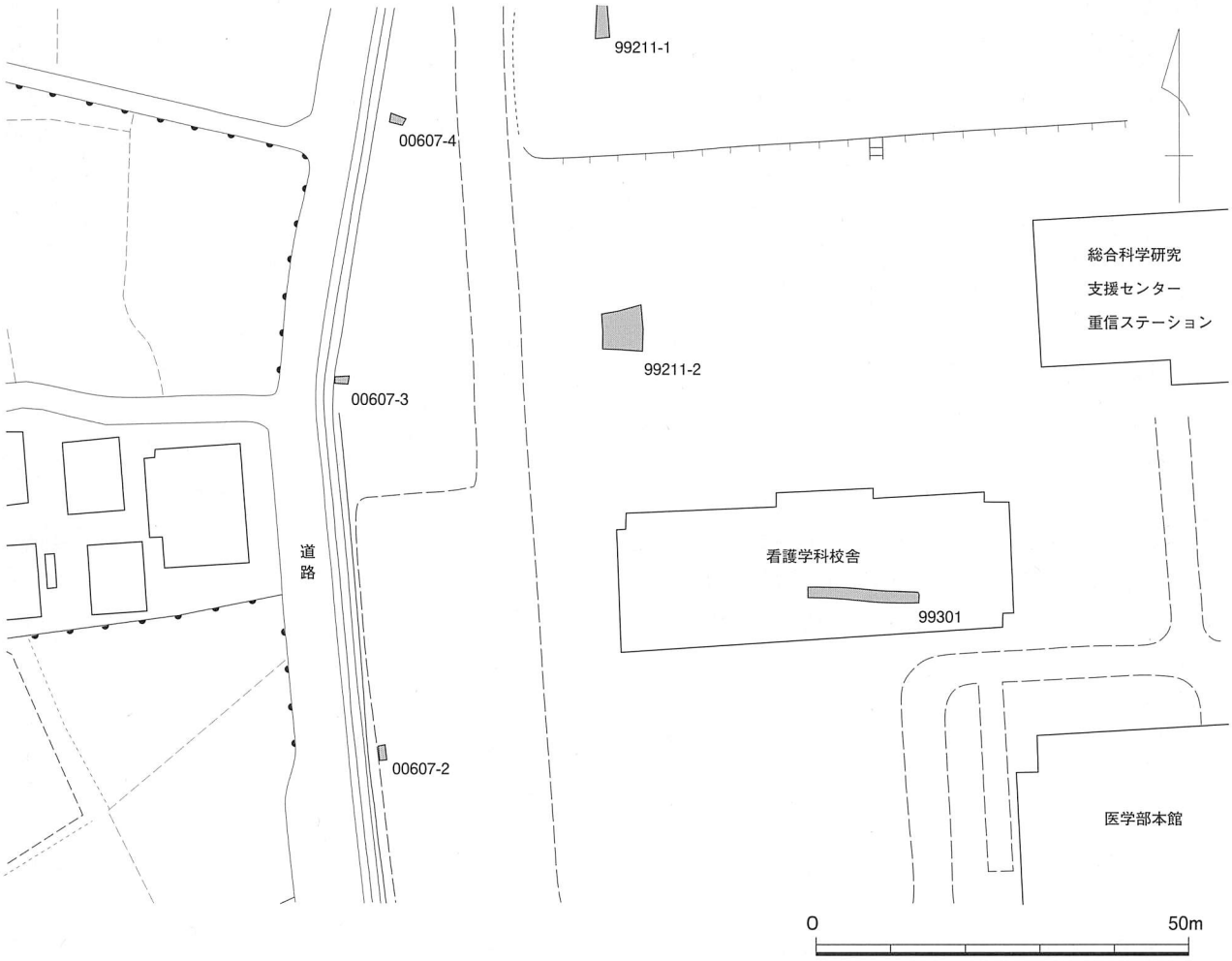
写真51　00607調査７トレンチ遠景（西から）

写真52　00607調査７トレンチ西壁土層

の円礫層がつづく。

［５トレンチ］（図16、写真47・48）

５トレンチは、４トレンチから北東へ50ｍの地点に位置する。現地表下1.57ｍまで造成土のⅠ層がつづき、その直下で灰黄色シルト質土のⅡ層があらわれた。土質の特徴から水田層と判断したが、Ⅱ－１～Ⅱ－３層に分層できる。Ⅱ－１層は、約27㎝の厚さを測り、上半部は灰黄色シルト質土で、径２～３㎜の砂礫が少量混じる。下半部は鉄分が沈着して赤みをおびた浅黄色シルト質土である。上半部は水田耕作土層、下半部は床土層である。Ⅱ－２層は、約10㎝の厚さを測る。上半部は、灰黄色シルト質土で、径１～２㎜の砂粒や径１㎝大の円礫が少量混じる水田耕作土層。下半部は浅黄色シルト質土の床土層である。Ⅱ－３層は、径１～３㎜の砂礫が混じる上半部が灰黄色シルト質土の水田耕作土層で、下半部は浅黄色シルト質土で床土層である。層厚は約７㎝。Ⅱ層の下層は、現地表下2.08ｍまで砂礫層がつづく。砂礫層の上部は灰黄色砂層、下部は径３㎝大の角礫が混じる灰黄色砂層である。



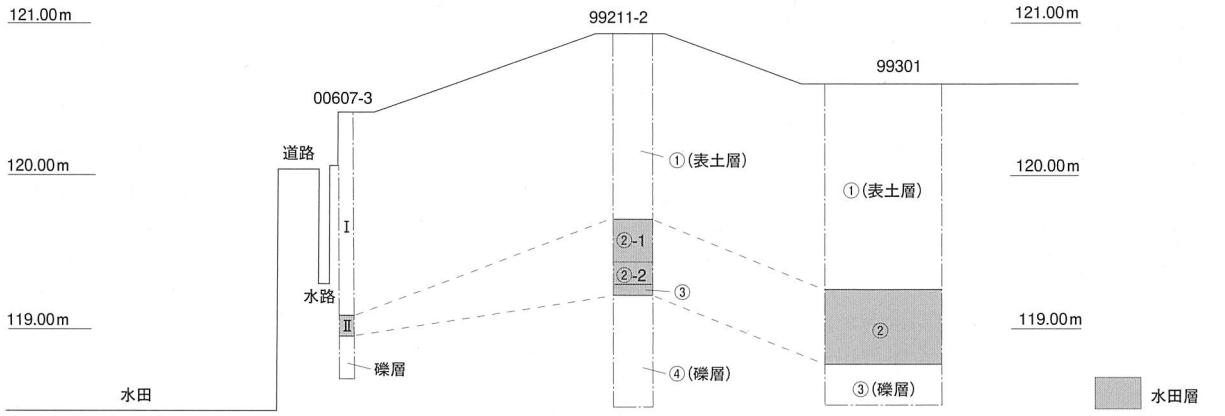


図18　99211・99301・00607調査区地形断面図（縮尺 1/1,000、1/50）

［6トレンチ］（図16、写真49・50）

6トレンチは、重信団地北西部にあたり、5トレンチから北東へ40m離れた地点に位置する。現地表下1.53mまで造成土のⅠ層がつづき、その下層で灰白色～浅黄色のシルト質土であるⅡ層があらわれた。Ⅱ層の層厚は約22cmの堆積で、上半部は径3cm大の円礫が混じる灰白色シルト質土、下半部は浅黄色シルト質土で、径3cm前後の円礫が混じる。上半部は水田耕作土層、下半部は床土層である。Ⅱ層下は現地表下2.33mまで径2～10cm前後の円礫からなる円礫層がつづく。

円礫の隙間にはオリーブ黄色砂が混じる。

［7トレンチ］（図17、写真51・52）

7トレンチは、重信団地東部の駐車場南東端に位置する。現地表下0.95mまで造成土のⅠ層がつづき、その直下で径2～10cmの円礫が混じる灰白色シルト質土のⅡ層があらわれた。Ⅱ層は約45cmの厚さで、鉄分・マンガンの沈着層が縞状にみられる。複数の時期の水田層からなるものと考えられる。Ⅱ層の下層では、現地表下2.18mまで、径5～10cmの円礫層がつづく。円礫の隙間にはオリーブ黄（5Y6/3）色砂層が挟まる。

3　調査のまとめ

各トレンチともに、造成土のⅠ層下で水田層であるⅡ層、さらに下層で円礫・砂礫から構成される礫層や砂礫層を確認できた。最下層の礫層や砂礫層は重信川の旧河川堆積物である。問題はⅡ層の水田層の時期である。今回確認できたⅡ層に対応する水田層は、これまでの小規模調査でも存在が確認されている。しかし、水田層から出土した遺物はほとんどなく、その時期は不明のままであった。今回の7ヶ所のトレンチ調査でも、4トレンチの水田層中から出土した土師器細片のみである。そこで、この水田層の時期を検討するために、今回調査の3トレンチ、1992年度に実施した99211・99301調査の成果に基づいて地形断面を作成した（図18）。今回調査の3トレンチのⅡ層は、99211・99301調査2トレンチでは②層にあたる。西側にある現在の水田面と比較すると、50～80cm前後高い位置にある。こうした水田面の高低差と、今回の4トレンチのⅡ層中から土師器細片が出土していることを考えれば、重信団地北西部で見られる旧水田層は、医学部・附属病院建設直前、近・現代まで使用されていた水田の可能性が高い。（三吉）

00608　（樽味団地）総合研究棟改修工事に伴う調査
（樽味遺跡8次調査）

調 査 地 点　松山市樽味3丁目5番7号
　　樽味団地
調 査 面 積　42㎡
調 査 期 間　2006年12月4日～1月26日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成18年7月7日付）

1　調査にいたる経緯

2006年6月、施設基盤部から、樽味団地における総合研究棟改修工事計画について報告があり、埋蔵文化財調査室では既往の調査成果を検討し、以下の申し入れを行った。

①耐震補強の地中梁補強工事については、掘削範囲を建物建設時の余掘り内に収めること
②耐震補強工事に伴う樹木伐採は地表下30cmまでの掘削にとどめること
③避雷針改修工事に伴う接地局の埋設箇所は、建物建設時の余掘り範囲に収めること
④実験排水管改修に伴う検水槽の設置および排水管更生工事では、検水槽の設置位置を建物建設時の余掘り範囲にできるだけ収め、排水管更生も既設管路内に収めること

これを受けて、11月中旬に、施設基盤部から具体的な工事計画が報告されるとともに、耐震補強の地中梁補強工事の掘削範囲を建物建設時の余掘り内に収めるため、その範囲を確認する発掘調査が必要なことと、どうしても余掘り内に収まらない検水槽の設置地点があることが説明された。そこで、計画の協議・調整を進め、12月上旬に建物建設時の余掘り範囲を確認し、1月中旬に検水槽の設置地点を発掘調査することとした。

2　調査の記録

今回の調査地点は、農学部本館東側での建物建設時の余掘り範囲確認のために設定した1・2区と、検水槽の設置地点の3～5区である。当初計画通り、1・2区は12月中旬、3～5区は年明けの1月に着手した（図9）。

（1）基本層序と出土遺構の概要

樽味団地では、既往の調査成果に基づき、遺跡全体にわたる基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。
Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。
Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。
Ⅳ層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。
Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫層ないし礫層。

今回の調査では、後述するように１区ではⅢ層の２次堆積層を確認できたが、以外の調査区ではⅢ層は削平されていた。また、調査区が狭いため、深掘りができず、Ⅴ層は確認していない。

３・４区では、Ⅳ層上面で土壙、溝、柱穴・杭穴、その他の小穴が出土した（表５）。埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構と、灰色みをおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構の２者がある。これまでの樽味遺跡での調査成果から、埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構は弥生時代～古墳時代、灰色みをおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構は古代後半～中世と考えられる。出土した遺構には、１～43の連番の遺構番号を付し、遺構の種別を示す遺構略号を冠している。

（2）１区の調査

１区は、農学部本館南北棟の余掘り範囲を確認するために、建物の東側に設定した。建物沿いに設定した調査区では、建物壁から2.6mまで建物建設時の余掘りがおよんでいることを確認できた。その一方で、調査区の東壁沿いでは樽味団地における基本層序のⅡ～Ⅳ層を確認できた。時間的余裕もあったので、Ⅲ層の精査とⅣ層上面での遺構検出を行った（図19、写真53・54）。

１区では、現地表下70cmで、樽味団地造成以前の水田層であるⅡ層があらわれた。Ⅱ層は、径１㎜前後の礫が少量混じるシルト質土で、上半部は灰色、下半部はマンガンが沈着してオリーブ黄色を呈する。上半部は水田耕作土層、下半部は床土層にあたる。Ⅱ層の直下では、灰黄色のシルト質土層があらわれた。土質の特徴は、樽味団地の基本層序Ⅲ層と共通する。人力で精査したが土師器の細片が数点出土したのみである。灰黄色となっているのは、上層のⅡ層の影響を受けているためと、中世段階に掘り返しがあったためと考えた。Ⅲ層の下層は浅黄色シルト質土層で、樽味団地の基本層序Ⅳ層に対応する。

（3）２区の調査

２区は、農学部本館東西棟の余掘り範囲を確認するために、建物南側の壁面から２m離れた位置に設定した。しかし、現地表下1.27mまで掘り下げたが、客土された真砂土層がつづく。調査範囲内は余掘り範囲に収まっていると判断した（写真53・55）。

（4）３区の調査

３区は、農学部本館東西棟の北側に設置される検水槽部分にあたる。東西長4.4m、南北幅3.3mの調査区である。造成土である表土層のⅠ層を掘り下げると、

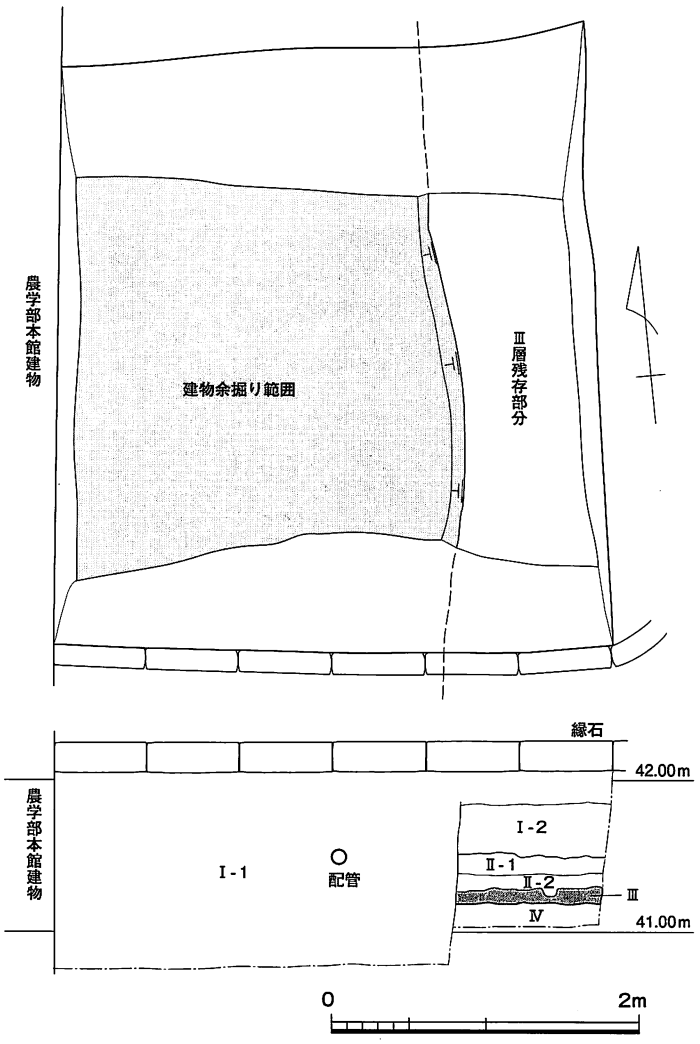


図19　00608（樽味遺跡８次）調査１区実測図（縮尺 1/50）

写真53　00608調査１・２区遠景（北東から）

写真54　00608調査１区全景（南から）

写真55　00608調査２区全景（北から）

写真56　00608調査３・４区遠景（北東から）

写真57　00608調査３区遺構検出状況（西から）

写真58　00608調査３区完掘状況（西から）

写真59　00608調査４区遺構検出状況（西から）

写真60　00608調査４区完掘状況（東から）

表５　00608（樽味遺跡８次）調査出土遺構一覧

調査区	土　壙	溝	柱穴・杭穴	その他の遺構
１区	出土遺構なし			
２区	出土遺構なし			
３区	１（SK-１）	１（SD-２）	７（SP-５・７・８・10～13）	小穴15（SP-３・４・６・９14～20・40～43）
４区	-	-	13（SP-22・23・25～28・30・31・34～36・38・39）	小穴４（SP-21・24・29・37）性格不明の遺構１（SX-32）
５区	出土遺構なし			

樽味団地造成以前の水田層であるⅡ層、さらに現地表下60cmほどでⅣ層があらわれた。３区では基本層序Ⅲ層はみられない（図20、写真56～58）。

Ⅱ層は、上半部の径１～２㎜の粗砂や礫が多く混じる灰色シルト質土であるⅡ-１層、下半部の明黄褐色シルト質土のⅡ-２層からなる。Ⅱ-１層は水田耕作土層、Ⅱ-２層は床土層である。

Ⅳ層の上面では、土壙１（SK-１）、溝１（SD-２）、柱穴・杭穴７（SP-５・７・８・10～13）、その他の小穴15（SP-３・４・６・９・14～20、40～43）を検出した。また、小穴の中で、SP-５・７・８・10～13は、立柱痕跡が伴う柱穴や杭穴である。しかし、これらとともに掘立柱建物や柵列を構成する柱穴や杭穴は、調査範囲が狭く確認できなかった。また、３区で出土した遺構の中で、SK-１、SP-15・18・19などの埋土は黒褐色シルト質土を主体とするが、他は灰色みをおびる暗褐色シルト質土である。これまでの樽味遺跡での調査成果から、埋土が黒褐色シルト質土を主体とする遺構は弥生時代～古墳時代、灰色みをおびる暗褐色シルト質土を埋土とする遺構は古代後半～中世と考えられる。以下、土壙、溝、柱穴・杭穴を報告する。

〔土壙〕

SK-１　東西幅1.25ｍの隅丸長方形の土壙で、調査区の北東部で南半部を検出した。SP-５に切られている。埋土は、砂礫が少量混じる黒色シルト質土を主体とする。サラサラした質感で、クロボク土を母材とするものと考えられる。また、Ⅳ層のにぶい黄褐色シルトの径２～10㎜の小塊が多く混じる。調査区の北壁面で埋積状況を確認できた。①層は、黒色シルト質土で、径１～５㎜のⅣ層の小塊が多く混じる。②層は、褐灰色～黒色のシルト質土で、径１～３㎜のⅣ層の小塊を含むが、①層と比べて小塊は少なめである。③層は、褐灰色シルト質土を主体としながら、Ⅳ層のレンズ状ブロックが多く挟まる。③層が土壙内に流れ込んだ後、①・②層で人為的に埋め戻されたものと考えられる。

〔溝〕

SD-２　SK-１の南側で出土した東西にのびる溝である。溝と言っても、長さ90cm、幅14～21cmの短く細い溝状遺構である。SP-６と切り合うが、先後関係は明らかにできなかった。東側は調査区外にのびる。また、調査区壁沿いは攪乱部で破壊されている。埋土は、砂礫まじりの暗褐色シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が多く混じる。また、埋土上半には、灰色シルト質土の小塊が点々とみられた。

〔柱穴・杭穴〕

SP-５　調査区北東角に位置するSK-１に切られる柱穴である。18×22cmの長円形の掘り形をもち、ほぼ中央で径７～８cm、深さ18cmの柱痕跡を確認できた。埋土の①層は柱痕跡で、砂礫混じりの暗褐色シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土で、砂礫混じりの暗褐色砂質シルト質土で、小指先大のにぶい黄褐色シルトの小塊が混じり、その量は①層より多い。

SP-７　調査区南東部に位置する。南西側を攪乱部で破壊されているが、径33cmほどの円形の柱穴と考えられる。掘り形の中央やや北東よりで径12cm、深さ９cmの柱痕跡を確認できた。埋土は、全体にやや黒みが強く、砂礫が比較的多く混じり、SD-２の埋土に近い土質である。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土。径１～２㎜のにぶい黄褐色シルト塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土で、暗褐色シルト質土。親指先大のにぶい黄褐色シルト塊が多く混じる。

SP-８　調査区南東角で出土した16×19cmの長円形の柱穴である。掘り形のほぼ中央で径７～８cm、深さ16cmの柱痕跡を検出した。①層は黒褐色シルト質土の柱痕跡。②層は掘り形埋土で、黒褐色シルト質土に、径１cmほどのにぶい黄褐色シルトが多く混じる。そのため、全体として暗褐色の土色となっている。

SP-10　調査区南東部に位置し、攪乱部の底面で全形を検出できた。短径37cmの不整円形の柱穴である。掘り形の中央西よりで、径17cmの柱痕跡が出土した。埋土の特徴はSD-２と共通する。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土。径１～２㎜のにぶい黄褐色シルトや、灰色シルト質土の小塊が点々と混じる。②層は掘り形埋土。①層と比べて、暗褐色シルト質土や灰色シ

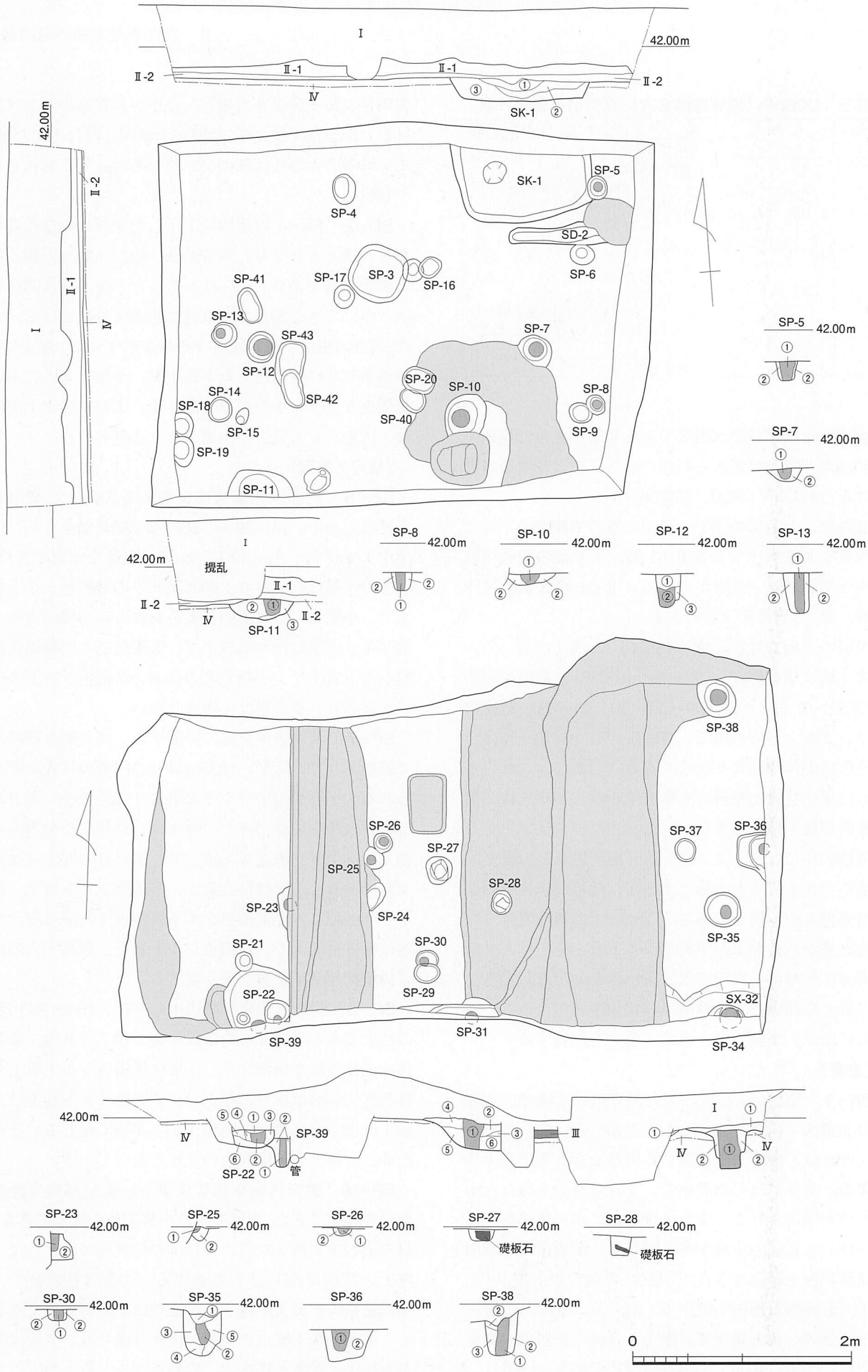


図20　00608（樽味遺跡８次）調査３・４区実測図（縮尺 1/50）

ルト質土の小塊の量が格段に多い。

SP-11　調査区南西角の調査区壁際に位置する。平面的には検出できなかったが、土層断面観察で柱痕跡を確認できた。①層は柱痕跡で、砂礫が混じる暗褐色シルト質土。上半部に径１～２㎜のにぶい黄褐色シルト質土の小塊が多く混じる。②･③層は掘り形埋土。②層は、暗褐色シルト質土で、径１㎜～１cmのにぶい黄褐色シルト質土の塊が混じる。また、下半部を中心として灰色シルト質土の小塊が多く混じる。③層は暗褐色シルト質土。径１㎜前後のにぶい黄褐色シルトの塊が少量混じる。

SP-12　調査区西半部に位置する25×28cmの掘り形をもつ柱穴である。中ほどまで掘り下げた時点で、掘り形の東よりで径16cmの柱痕跡を確認できた。①層は、暗褐色シルト質土で、径１～３cm大のにぶい黄褐色シルト質土の塊が非常に多く混じる。柱が抜き取られた後に流入した土層である。②層は柱痕跡。暗褐色シルト質土で、径１cm以下のにぶい黄褐色シルト塊が少量混じる。また、炭化物片が少量出土。③層は掘り形埋土で、暗褐色シルト質土。にぶい黄褐色シルトが縞状に混じる。

SP-13　調査区西半部のSP-12の西側に位置する。径22～23cmの円形の掘り形をもち、掘り形の中央西よりで径８～９cm、深さ36cmの先端が尖り気味の杭痕跡を確認できた。①層は杭痕跡で、微細砂が混じる黒褐色シルト質土である。径２㎜大のにぶい黄褐色シルトの小塊が混じる。②層は砂礫混じりの黒褐色シルト質土で、径１～５㎜大のにぶい黄褐色シルトの塊が多く混じる。

（5）４区の調査

４区も、農学部本館東西棟の北側に設置される検水槽部分にあたる。調査に着手した当初は、東西９m、南北７m幅で調査区を設定した。ところが、重機を用いて表土層であるⅠ層を掘り進めたところ、トレンチの東西で既設の配管路があらわれた。これらの配管路は、検水槽設置に支障となるため、まず東部で出土した散水管の付け替えを行い、調査区を東側へ３m拡張し、検水槽設置面積を確保することとなった。以上のような経緯によって、４区は最終的に東西12m、南北７mの調査範囲となった（図20、写真59・60）。

道路面下、約26cmまで瓦礫を伴ったⅠ層がつづき、直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層上面で、柱穴･杭穴13（SP-22・23・25～28・30・31・34～36・38・39）、その他の小穴４（SP-21・24・29・37）、性格不明のⅢ層の落ち込みであるSX-32が出土した（ただし、遺構番号33は欠番）。調査区が狭いこともあり、出土した柱穴・杭穴と掘立柱建物や柵列を構成すると考えられるものは確認できなかった。また、柱穴・杭穴の埋土は、大きく灰色（SP-21）、灰褐色（SP-24・25・26・27・28・29・35・37）、暗褐～黒褐色（SP-22・23・30・31・34・36・38）の３者に分類できる。以下、柱穴・杭穴と性格不明の遺構SX-32を報告する。

〔柱穴・杭穴〕

SP-22　調査区南西部で出土した残存径約60cmの柱穴である。当初、一つの遺構と考えて掘り進めたが、調査区南壁精査中に２つの柱穴が重複していることに気がついた。東側をSP-39、西側をSP-22とした。そのため、SP-22として取り上げた遺物には、SP-39の遺物が混じっている。

SP-22は深さ16cmを測る。SP-39を切る。SP-22の埋土は６層からなる。①層は暗褐色シルト質土に明黄褐色土の丸いブロックが混じる。②層は柱痕跡で黒色シルト質土である。柱痕跡の直径は14cmを測る。③～⑥層は掘り形埋土である。③・④層は黒褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色砂質土の丸い小塊が少量混じる。⑤層は黒～灰褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色砂質土の塊が少量混じる。⑥層は明黄褐色砂質シルト質土を主体として、黒色シルト質土のブロックが少量混じる。土師器片が２点出土している。

SP-23　調査区西部で出土した残存径40cmの柱穴である。柱穴の大半は攪乱分で破壊されている。深さは24cmを測る。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土層である②層からなる。①層は黒褐色シルト質土。②層は黒褐色シルト質土。灰色あるいは明黄褐色の砂質シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。

SP-25　調査区中央部で出土した径20cmの柱穴である。深さ13cm。SP-26に切られる。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。①層部分は径８cmの柱痕跡で、灰褐色シルト質土。②層は灰褐色シルト質土を主体として、径２～３㎜の明黄褐色土の丸い塊が混じる。土師器片が３点出土している。そのうちの１点は土師器皿の底部片であるが、時期は不明である。

SP-26　調査区中央部で出土した径18cmの柱穴である。深さ７cmを測る。SP-25を切る。埋土は、柱痕

跡である①層と、掘り形埋土である②層とからなる。①層部分は径９cmの柱痕跡で、灰褐色シルト質土。②層は灰褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土の丸い小塊が少量混じる。瓦器片が１点出土している。

SP-27　調査区中央部で出土した径24cm前後の柱穴である。深さ10cm。埋土は、灰褐色～暗褐色シルトで明黄褐色土の丸い塊が混じる。柱穴底面には、長辺20cm、幅14cm、厚さ９cmの花崗岩の扁平な割石が据えられており、礎板と考えられる。

SP-28　調査区中央部で出土した径19～22cmの柱穴で、深さ18cmを測る。埋土は灰褐色シルトで、暗褐色シルトの丸い小塊が混じる。柱穴底面からやや浮いた状態で、長辺10cm、幅８cmの割り石が出土した。礎板と考えられる。出土遺物は土師器細片が２点出土している。

SP-30　調査区中央南部で出土した径21cm前後の柱穴である。深さ10cm。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土の②層とからなる。①層の柱痕跡は径９cm前後で、暗褐色シルト質土で埋まる。②層は灰褐色シルト質土を主体として、小指先大の炭化物片が少量混じる。SP-29に切られる。土師器細片が４点出土している。

SP-31　調査区中央南壁に接して出土した残存径70cm以上の柱穴である。深さは29cmを測る。当初、３つの遺構（SP-31、SK-32・33）が切り合うものと考えていた。遺構完掘後、調査区南壁を利用した遺構埋土の精査の結果、一連の遺構であることを確認できた。埋土は、柱の抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土の②～⑥層に分層ができる。①層は黒褐色シルト質土。①層の西は上下に直線的にのびるのに対して、東は上部で東側へ屈曲する。このことから柱を東側へ抜き取ったことが考えられる。柱抜き取り痕跡は径20cmを測る。②層は黒褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い小塊が少量混じる。③層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い小塊が混じる。④層は灰褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土のレンズ状ブロックが少量挟まる。⑤層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の丸い塊が混じる。⑥層は、暗褐色シルト質土を主体として、明黄褐色土の大きな丸い塊が多く混じる。

SP-34　調査区南東部で出土した径40cm前後の柱穴である。深さ40cmを測る。遺構検出時、調査区南東隅を中心に灰褐色シルト層の広がりが見られた。灰褐色シルト層は８cmほど堆積しており、これを取り除くとSP-34の掘り形を検出できた。埋土は、柱の抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。柱の抜き取り痕跡である①層は、暗褐～灰褐色シルト質土で、明黄褐色土の小塊が少量混じる。抜き取り痕の底面で径17cmの柱径を復元できる。②層は、暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の大きな塊が混じる。土師器片２点と古墳時代の須恵器坏底部片１点が出土している。

SP-35　調査区東部で出土した径34cmの柱穴である。深さ42cmを測る。埋土は、柱抜き取り後の流入土である①層、柱抜き取り痕跡である②層、掘り形埋土である③～⑤層からなる。①層は、灰褐色シルト質土で、明黄褐色土の塊が少量混じる。②層は、灰褐色シルト質土で、径１～３㎜の明黄褐色土の丸い塊が多く混じる。③層は、灰褐色シルト質土が主体で、明黄褐色土の径１～３㎜の丸い塊が混じる。②層より、明黄褐色土の塊の割合は少ない。④層は灰褐色シルト質土。⑤層は、灰褐色シルト質土を主体とし、明黄褐色土の長さ５cm前後のレンズ状ブロックが挟まる。土師器片が４点出土しているが、２点は土師器皿底部片である。

SP-36　調査区東部、東壁に沿って検出した径55cmの柱穴である。深さ30cm。柱穴の東半分は、調査区外へのびる。埋土は、柱抜き取り痕跡である①層と、掘り形埋土である②層からなる。①層は暗褐色シルト質土で、明黄褐色土の塊を少量含んでいる。②層は、①層と同様な土質であるが、明黄褐色土の割合は少ない。１個体分の土師器が出土している。

SP-38　調査区北東部で出土した径30cmの柱穴である。深さ42cmを測る。埋土は、柱痕跡である①層と、掘り形埋土である②③層からなる。①層は暗褐色シルト質土。柱痕跡の径は16cmを測る。②層は暗褐色シルト質土で、径１～５㎜の明黄褐色砂質土の塊が混じる。③層は②層に近いが、明黄褐色砂質土の塊が多い。土師器片１点、鉄滓１点が出土している。

SP-39　調査区南壁に接して出土した径24cmの柱穴である。深さ26cm。径６cmの柱痕跡を確認できた。①層は柱痕跡で、暗～灰褐色シルト質土。②層は掘り形埋土で灰褐色シルト質土である。

〔性格不明の遺構 SX-32〕

調査区南東部で検出した。当初、土壙として調査を進めたが、掘り形は深さ約８cmと浅いことから、落ち込み状の遺構と考えた。埋土は灰褐色シルト質土である。底面でSP-34が出土した。SX-32はSP-34に先行

する遺構である。

（6）５区の調査

５区は、農学部本館の南側東西棟の西端部に設置される検水槽部分にあたる。重機を用いて造成土のⅠ層を掘り下げると、現地表下65cmで、調査区の西端でⅣ層が部分的にあらわれた。したがって、建物建設時の余掘り範囲は、建物壁面から西側へ3.5mまでおよんでいることになる（図21、写真61・62）。

３　調査のまとめ

今回の調査では、１・２・５区からは遺構・遺物は出土していない。これに対して、３・４区では土壙、溝、柱穴・杭穴などを確認できた。出土遺物が少なく、個々の遺構の時期は確定できないが、中世に比定できる遺構が中心となるものと考えられる。樽味団地内では、これまで樽味遺跡１・２次調査地点を中心とする14～16世紀の集落遺跡が確認されている。今回の調査地点の北東側に位置する樽味遺跡１次調査地点ではＬ字状の溝が調査され、２次調査では掘立柱建物群を溝や柵列で囲む方形区画が調査されている。今回、出土した遺構は、こうした中世集落を構成するものである。

（田崎・三吉）

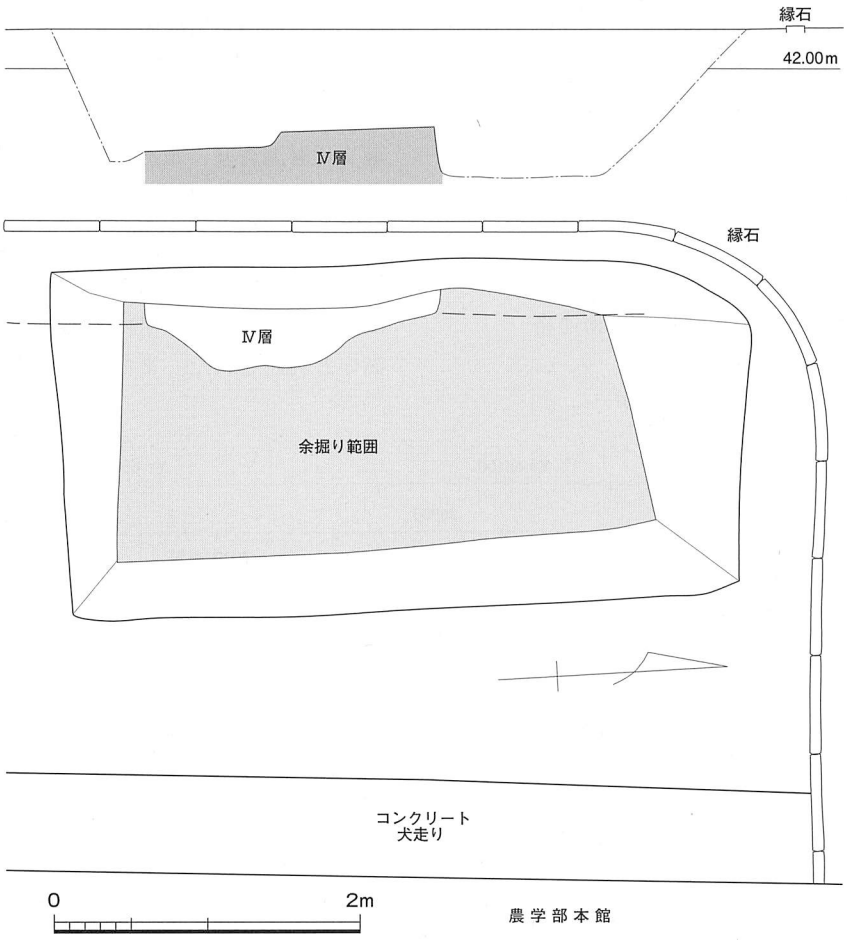


図21　00608（樽味遺跡８次）調査５区実測図（縮尺1/50）

写真61　00608調査５区遠景（北東から）

写真62　00608調査５区全景（南から）

00609　（樽味団地）農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事に伴う調査

調査地点　松山市樽味３丁目５番地
　　愛媛大学樽味団地
調査面積　2.9㎡
調査期間　2006年12月21日
調査種別　立会調査
調査担当　吉田　広
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部施設整備課長発事務連絡
　　（平成18年10月23日付）

1　調査にいたる経緯

樽味団地全体へ暖房供給を行っているボイラー施設が老朽化したため、ボイラー室の新設が計画され、埋蔵文化財調査室に報告された。施設基盤部と協議し、配管の埋設では工法を調整することで埋蔵文化財に影響の及ばないように計画の変更がなされたが、ボイラーブロー用滞留桝設置については、工法等の検討・調整をしてもなお、埋蔵文化財に影響の及ぶ可能性が高いと判断された。また、植栽や既設桝・電灯等の空

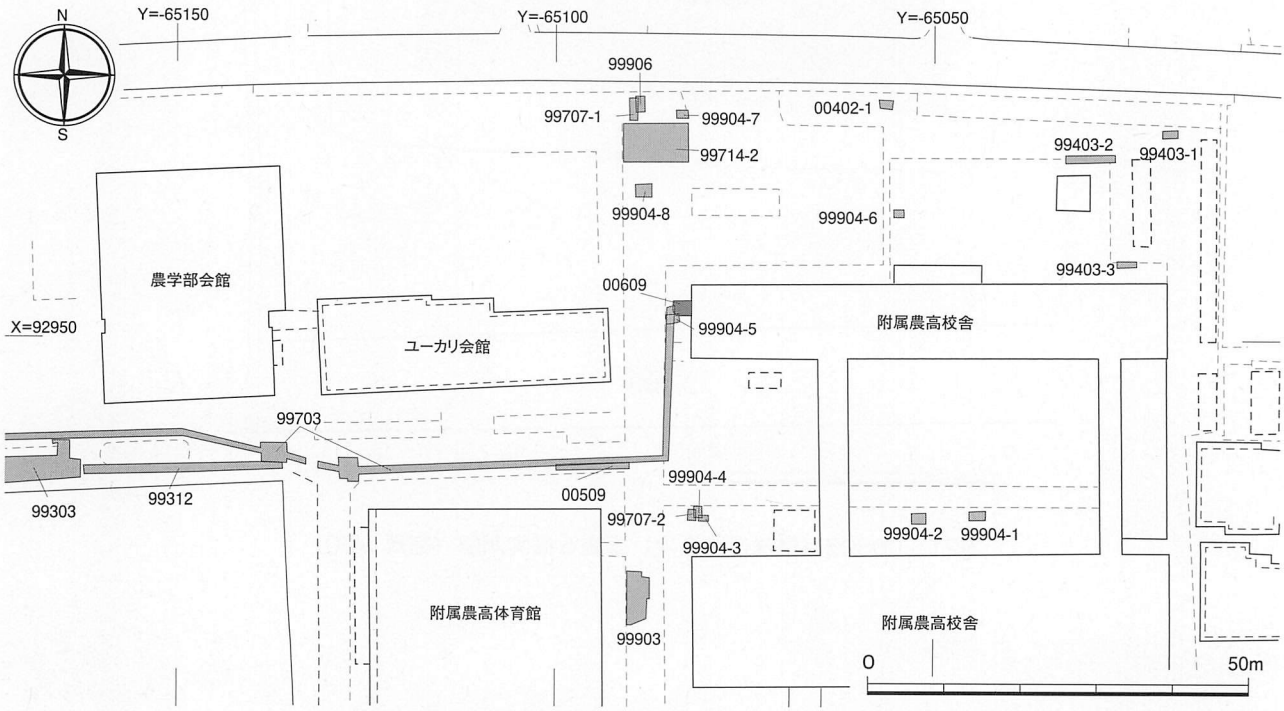


図22　00609調査地点位置図（縮尺 1/1,000）

隙に設置するため、確保できる平面積・容積が確定できない状況があった。このため、滞留桝設置に伴う掘削工事に際して、立会調査を実施することとした。

2　調査の記録

調査地点は、附属農業高等学校北校舎の西側の植栽内である（図22、写真63）。南西隅を既設電灯（99904調査５トレンチ）、東辺を校舎外壁に接して調査区を設定した。造成土であるⅠ層を掘り下げると、調査区の南西隅部の一部に樽味団地基本層序のⅡ層があらわれ、遺物包含層である基本層序Ⅲ層も調査区南西隅部で約50×60cmの直角三角形状に残ることを確認でき、Ⅲ層の精査を進めることとした。

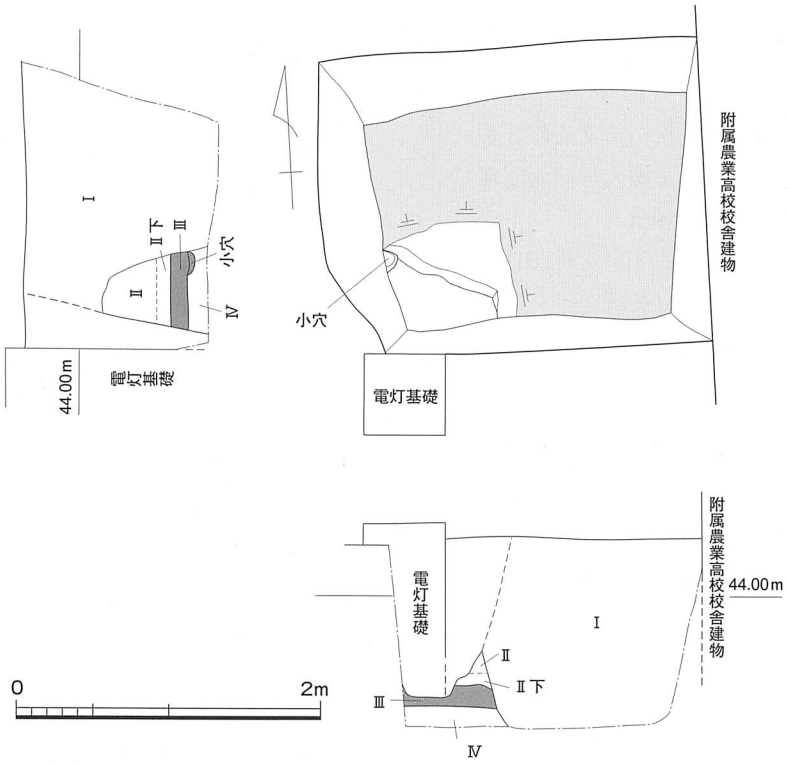


図23　00609調査実測図（縮尺 1/50）

Ⅱ層は、現地表下約50cmであらわれる。黄褐色から暗灰黄色の砂質土で、１㎜前後の砂粒と１cm大の炭化物粒を少し含み、鉄分の沈着が斑状にやや認められる。下部の10cm前後は、５㎜前後のマンガン粒の沈着が多く、やや粘性を増す。約45cmの厚さである。Ⅱ層からは土器片１点が出土した。下層の現地表下約95cmではⅢ層があらわれる。層厚は15cm弱。黒褐色シルト質土で、下層の黄橙色シルト質土を５㎜以下の粒状に少し含み、しまりが強い。西壁に接して北東側を攪乱部で破壊された小穴１基が出土した。小穴の埋土は、Ⅲ層と比べて２㎜前後の黄橙色シルト質土粒の混じりが多い。Ⅲ層および小穴から遺物は出土していない。以下のⅣ層は、黄橙色のシルト質土で、５㎜前後のマンガン粒の沈着が多く、土質はしまっている（写真64）。

3　調査のまとめ

今回の調査区および隣接する99904調査５トレンチでは、基本層序Ⅲ層が良好に残存していた。周辺でも、99904調査３・４トレンチや99707調査２トレンチで、同様に現地表下100cm前後の深さにⅢ層が存在する。附属農業高等学校校舎の西部一帯に埋蔵文化財が良好に残存していることを確認できた。　（吉田）

写真63　00609調査地点近景（南西から）

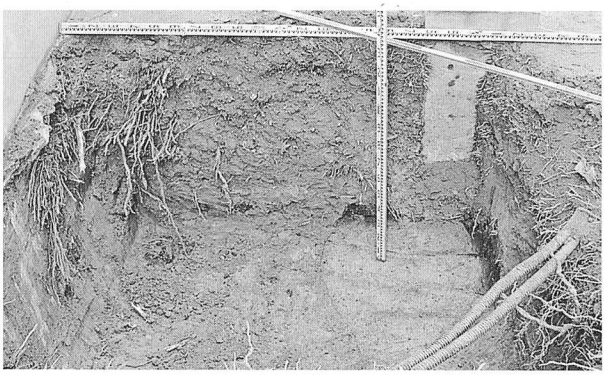


写真64　00609調査区完掘状況（北から）

00610 （城北団地）教育学部４号館耐震補強工事に伴う調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　19㎡
調査期間　2006年１月26日
調査種別　立会調査
調査担当　吉田　広
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部施設基盤部長発事務連絡
　　（平成18年12月７日付）

１　調査にいたる経緯

城北団地第一体育館等の教育学部周辺施設の改修工事の一環として教育学部４号館の耐震補強工事が行われることとなった。工事内容は、４号館南壁際中央部と、北壁際東西両端部への耐震補強ブレース設置で、これに伴う掘削計画は、建物各１スパンにあたる東西約7.0m、建物外壁から1.2mの範囲を現地表下130cmである。周辺の既往調査の成果から、埋蔵文化財に影響が及ぶ掘削深度である。しかし、00404調査２トレンチで、教育学部４号館南辺東部の余掘りが建物外壁から南に2.85mまで及ぶことが確認されており、南壁際中央部は建物建設時の余掘り範囲にはいると判断した。建物北側も、この余掘り範囲を適用できる可能性が高いが、なお確定はできず、掘削工事に際して立会

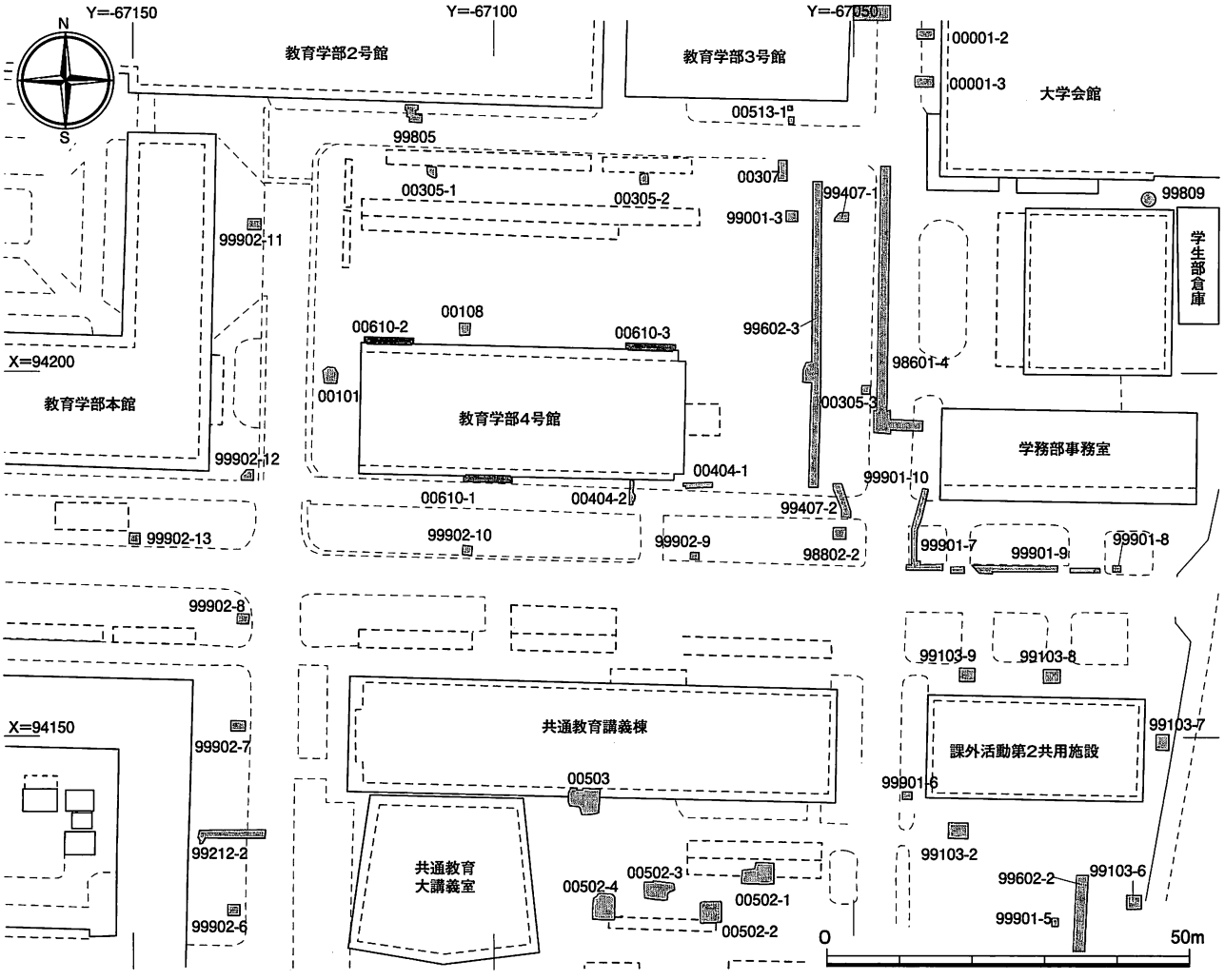


図24　00610調査地点位置図（縮尺 1/1,000）

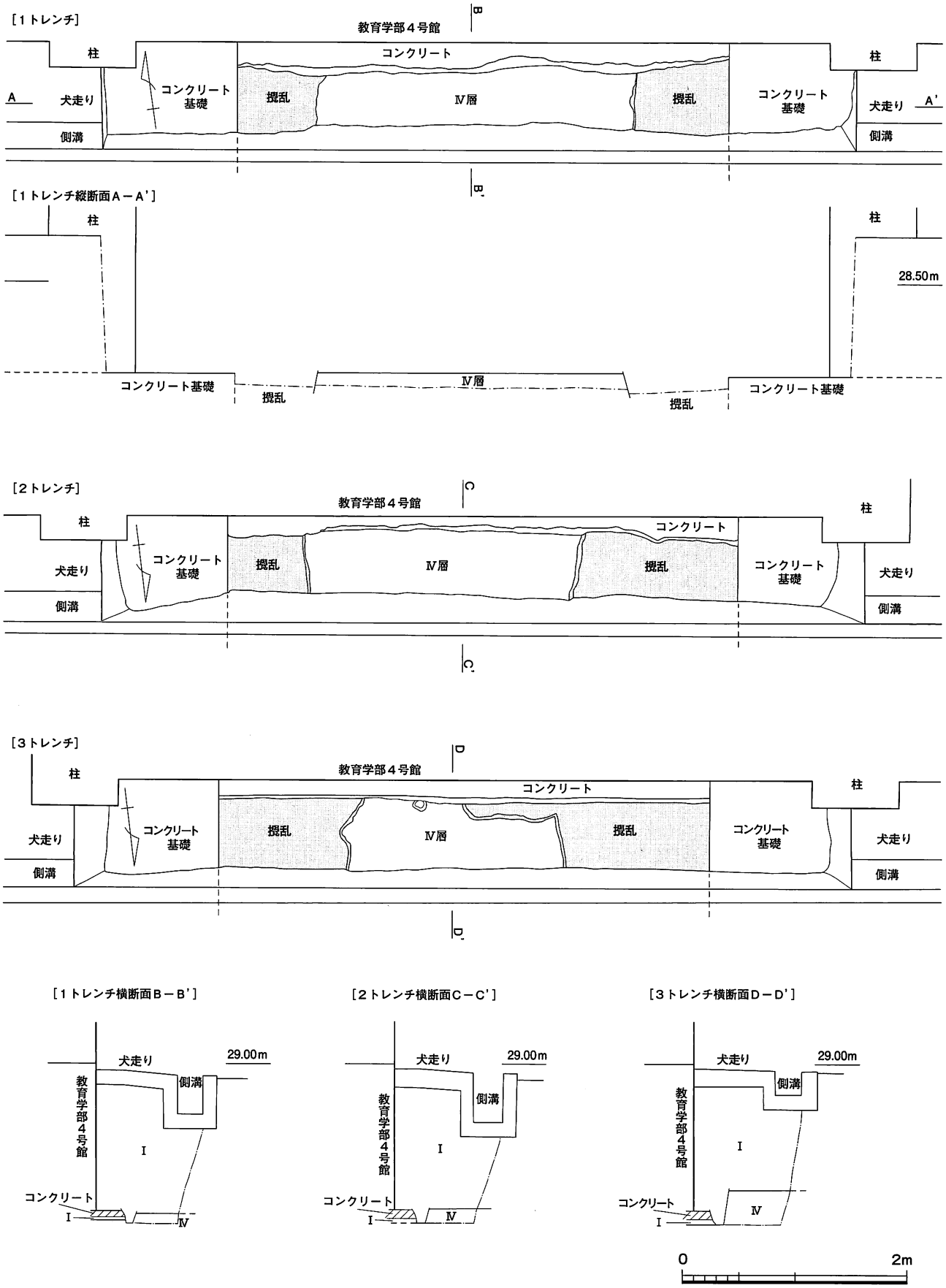


図25　00610調査実測図（縮尺 1/50）

調査を実施することとした。

2　調査の記録

調査にあたって、掘削済みの４号館南側の工事地点で工事内容を確認したところ、城北団地基本層序Ⅳ層が掘削底面にあらわれた。状況の詳細を確認・記録するため、この地点も調査対象として１トレンチとし、北西側を２トレンチ、北東部を３トレンチとした（図24）。

［１トレンチ］（図25、写真65・66）

４号館南側、西から３スパン目の壁際に設定した調査区で、東西6.75m・南北すなわち外壁から1.0mの範囲である。先記したように、既に現地表下約120cmまで掘削が行われており、まずは掘削壁及び底面を清掃し、土層の状況を確認した。建物柱部は外壁から約90cm拡張した基礎をもち、その余掘りが掘削面でなお70～80cmあり、それ以外の底面にⅣ層が残っていた。さらに、柱部以外の外壁基礎下にも、10cm前後のコンクリート層・攪乱土層を挟んでⅣ層の残存がうかがえた。以上から、教育学部４号館建設においては、坪基礎の柱部は現地表下120cmを超えた掘削を行ったが、その他は現地表下120cm前後の掘削に留まったと推定できることになる。

１トレンチでは、掘削がなお10cm前後必要であることが工事業者から示されたため、縄文土器を包含することがあるⅣ層については、工事必要範囲内を手掘りで調査することとした。

この地点のⅣ層は明黄褐色砂質土で、１㎜大以上の砂粒・砂礫はほとんど含まず、粘性がほとんどなく砂質が強い。しまりも強い。１cm前後の斑状に鉄分が沈着し、５㎜大のマンガン粒の沈着も少し見られる。現地表下135cmまで掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

［２トレンチ］（図25、写真67～69）

４号館北側、西端スパンの壁際に設定した調査区で、東西6.85m・南北1.0mの範囲である。１トレンチ同様、現地表下約120cmの外壁基礎コンクリート面とほぼ同じ高さに、東西約2.5m幅でⅣ層の残存を確認した。以後、工事に必要な深度約135cmまで、手掘りによりⅣ層を掘り下げた。

この地点のⅣ層は、にぶい黄色砂質土で、１トレンチよりもやや色調は暗めである。また、１㎜前後の白色砂粒を少し含み、１トレンチより砂質はやや強く、しまりはやや弱い。１cm前後の斑状に鉄分が少し沈着し、５㎜大のマンガン粒の沈着がわずかに見られる。遺物は出土していない。

［３トレンチ］（図25、写真69・70）

４号館北側、東端スパンの壁際に設定した調査区で、東西7.0m・南北1.0mを測る。重機掘削から立ち会い、１・２トレンチ同様、現地表下約120cmの外壁基礎コンクリート面と同じ高さ、東西約2.0m幅にⅣ層の残存を確認した。その上で、現地表下約135cmまで手掘りによりⅣ層を精査した。

この地点のⅣ層は、にぶい黄色砂質土で、１トレンチよりは２トレンチに土質は近い。１㎜前後の白色砂粒をやや含み、１・２トレンチより砂質がさらに強く、しまりはやや弱い。１cm前後の斑状の鉄分沈着があり、マンガン粒の沈着は少ない。なお、残存西部には、0.5㎜以下の砂粒を主体とした黄灰色砂質土がトレンチ底面に広がり、同様の砂質土層は、トレンチ北壁で、にぶい黄色砂質土の上にも厚さ20cm前後存在していることが認められた。ただし、これも含めて、Ⅳ層からの出土遺物はない。

3　調査の成果

施設基盤部に調査で得られた教育学部４号館基礎に関する所見を伝え、施工業者への慎重工事を依頼して調査を終えた。

00404調査２トレンチでは、教育学部４号館南側の余掘りは外壁から2.85mの範囲に及ぶことを確認していた。ただし、その際の掘削は現地表下50cm弱にしか及んでいなかった。今回の調査では、教育学部４号館柱部以外で建設時の掘削は現地表下約120cmにとどまり、以下に縄文時代の遺物包含層であるⅣ層が良好に残存することを確認できた。　（吉田）

写真65　00610調査１トレンチ遠景（南東から）

写真66　00610調査１トレンチ（西から）

写真67　00610調査２・３トレンチ遠景（北東から）

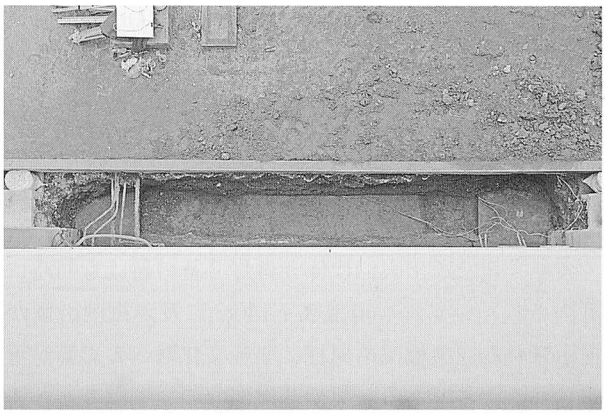


写真68　00610調査２トレンチ（南から）

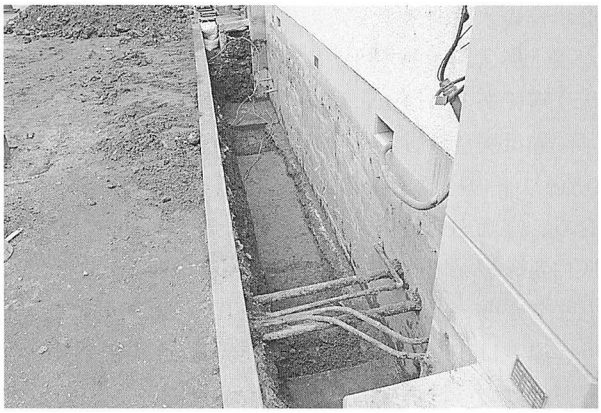


写真69　00610調査２トレンチ（西から）

写真70　00610調査３トレンチ（西から）

00611　（城北団地）宮前川架橋取設他工事に伴う調査（文京遺跡30次調査）

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調査面積　17.7㎡

調査期間　2006年２月５日～８日
調査種別　本格調査
調査担当　吉田　広

調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成18年12月７日付）

１　調査にいたる経緯

城北地区交通安全対策委員会において、城北団地の駐車・駐輪場等の整備を行うとともに、旧グラウンド東側道路を北側に延長し、第一体育館東側の囲障を一部撤去して宮前川に架橋し、新たな出入口を設けることが決定された。この決定を受けて、施設基盤部では具体的な工事設計に入ったが、工事に伴い現地表下180cmまでの掘削が必要となり、その旨が埋蔵文化財調査室に報告された。周辺では、西側約60mの文京遺跡９次（調査番号：98706）調査地点で、城北団地の基本層序Ⅳ層から縄文時代後期～晩期の土器が出土している。今回の計画されている掘削ではⅣ層を完全に破壊してしまうことになり、工事面積は狭いが、事前に全面調査を実施することとした。

また、新たな出入口に伴う外灯２基の新設も同時に計画され、いずれも現地表下140cmに及ぶ掘削計画が提示された。架橋工事同様、埋蔵文化財への影響が予想される深さである。架橋基礎部分の発掘調査と一連の調査として、外灯工事地点２ヶ所も同時に調査することとした。

２　調査の記録

架橋工事に伴う工事範囲は、北側囲障から南北約２m、東西約６mであり、その西側に接して２基の外灯の内１基が設置される計画で、これを一括して１区として設定した。１区は南北2.3m×東西7.0mを測る。一方、もう１基の外灯基礎部分は架橋調査区から南約26mに位置する。南北1.6m×東西1.0mの1.6㎡の調査区を設定し、２区（外灯調査区）とした（図26、写真71）。

（１）１区の調査

中央の雨水枡及び管路で東西に分断され、表土近くには管路の埋設も少なくない。これらを回避あるいは現行でないことを確認しながら、城北団地基本層序のⅠ層・Ⅱ層を西側から重機により掘削していった。すると、近現代に下るⅡ層とは明確に区別でき、かつ上部を流水性の砂礫層で覆われた土層の堆積が、現地表下約70cmで認められた。近現代以前の水田関連土層とみられ、近現代の水田層Ⅱ-１層と区別してⅡ-２層とし、これ以下を調査することとした。

水田関連土層の掘り下げ後、調査区南西側ではⅣ層が直接現れ、Ⅳ層上面でSX-１を検出した。ところが、それ以東では当初Ⅲ層は存在しないとしていたものの、後の壁面精査においてⅢ層と判断すべき土層が残ることが判明した。標高27.00mから厚さ10～20cmである。この地点のⅢ層は、暗オリーブ褐色シルト質土で、１㎜前後の砂粒を少し含む程度で砂質分が弱く、粘性をおびる。上部を中心に５㎜大以下のマンガン粒の沈着が多い。城北団地南部のⅢ層に比べて色調は薄く、土壌化は弱い。Ⅳ層との境も漸移的である。遺物もほとんど含まない。Ⅳ層上面検出時に出土した中世土師器細片や須恵器片も、後述するSX-２～４に関連する遺物である可能性が高い。

Ⅲ層下では基本層序Ⅳ層があらわれた。Ⅳ層の検出高は南西部が最も高く、標高約27.00mを測る。浅黄色シルト質土で、調査区東部の北壁際で縄文後期の土器片がまとまって出土した。

１）Ⅱ-２層の調査

上記した流水性の砂礫層を手作業で検出するとともに、西壁際で以下の堆積状況を確認するために断割を行った。さらに、壁面の精査から、Ⅱ-２層は①～⑩層に細分できた。①～⑥層と⑦～⑩層の、大きく上下２単位の水田関連土層の堆積である。①～③層と⑦層が覆土層、⑤層と⑧層が水田耕作土層、⑥層と⑨層が床土層である（図27、写真72・73）。

①層は灰色砂質土。調査区東壁でのみ認められた。0.5㎜以下の砂粒を主体に、２～５㎜大の砂礫を少し含み、高師小僧が発達し、しまりがややある。②層は灰白色砂礫層で、0.5～３㎜大の砂粒・砂礫からなり、しまりが弱い。調査区東部を中心に、ほぼ全域に広がり、厚さは10cm前後である。③層は灰色砂質土で、１～５㎜大の砂粒・砂礫を多く含み、しまりが弱い。調査区北壁で20cm以上堆積する。①～③層は水田覆土であり、これらの下に、水田耕作土の⑤層が広がる。⑤層は灰色砂質土で、0.5～５㎜大の砂粒・砂礫を多く含み、部分的には砂粒・砂礫層が嵌入するなど、砂質が強い。ただし、調査区南西部ではしまりがある。⑤層の北側を切って堆積するのが④層で、溝等の埋土とみられる。④層は、⑤層とほぼ同質ながら、やや砂粒を多く含み、１cm大の炭化物粒をも含む灰色砂質土。④・⑤層の下には、灰色シルト質土の⑥層が堆積する。

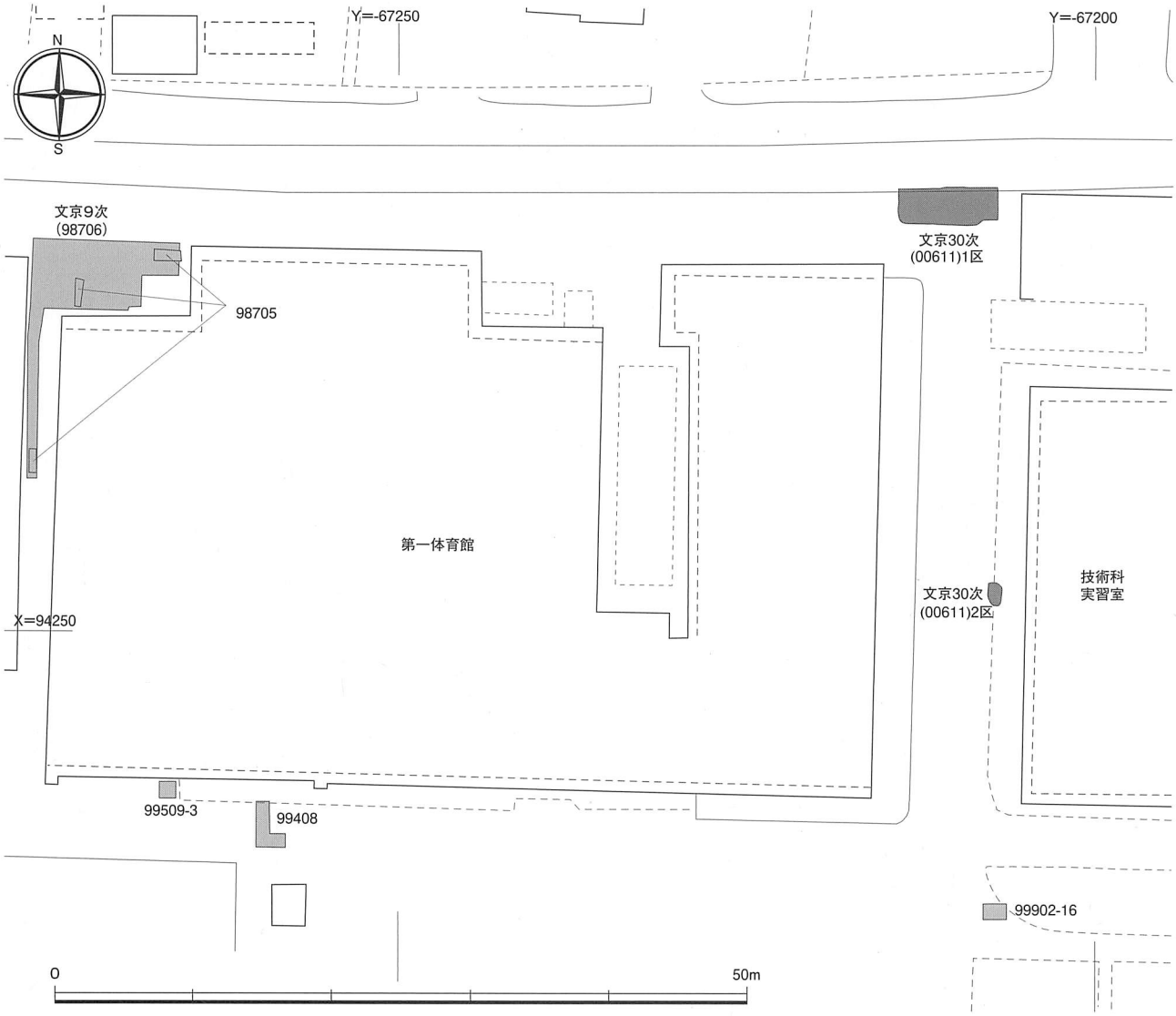


図26　00611（文京遺跡30次）調査地点位置図（縮尺1/500）

20cm前後の厚さで、3㎜以下の砂粒･砂礫を少し含み、しまりがある。⑤層との層界には鉄分が沈着し、層中位には5㎜前後のマンガン粒の沈着が認められる。水田基盤層である。

⑦層は、0.5～3㎜大の砂粒を多く含む灰オリーブ砂質土で、鉄分の沈着が斑状に多くあり、しまりがややある。水田覆土層である。⑧層は、0.5～3㎜大の砂粒を少し含む灰色シルト質土。鉄分の沈着があり、しまりがある。水田耕作土層とみられるが、⑦層による削平のため、残存状況はよくない。⑨層は灰色シルト質土で、1～3㎜大の砂粒を少し含む。⑧層との層界には鉄分が沈着し、下位には1cm前後のマンガン粒が多く沈着する。しまりがあり、粘性がやや強い。水田床土層である。なお、⑨層とⅢ層との間に、砂質の強い灰色砂質土（⑩層）が一部見られる。

Ⅱ-2層から遺物は出土していない。

2）Ⅲ層と遺構の調査

Ⅲ層掘り下げ中あるいは後のⅣ層上面において、性格不明の落ち込み状遺構SX-1～4と小穴SP-5～8が出土した（図27）。Ⅲ層を切ってⅢ層と異なる埋土をもつ遺構と、城北団地南部のⅢ層に類似した埋土の遺構である。SX-1～4が前者に、SP-5～8の小穴が後者にあたる。

SX-1　調査区北西隅部で確認した。最深部は攪乱により不明であるが、北西側へ40cm以上落ち込み、埋土は1～5㎜大の角の取れた砂粒・砂礫を主体とする暗灰黄色砂質土(SX-1-①層)で、しまりがややある。また、落ち込み肩部付近の埋土下部には、Ⅳ層をベー

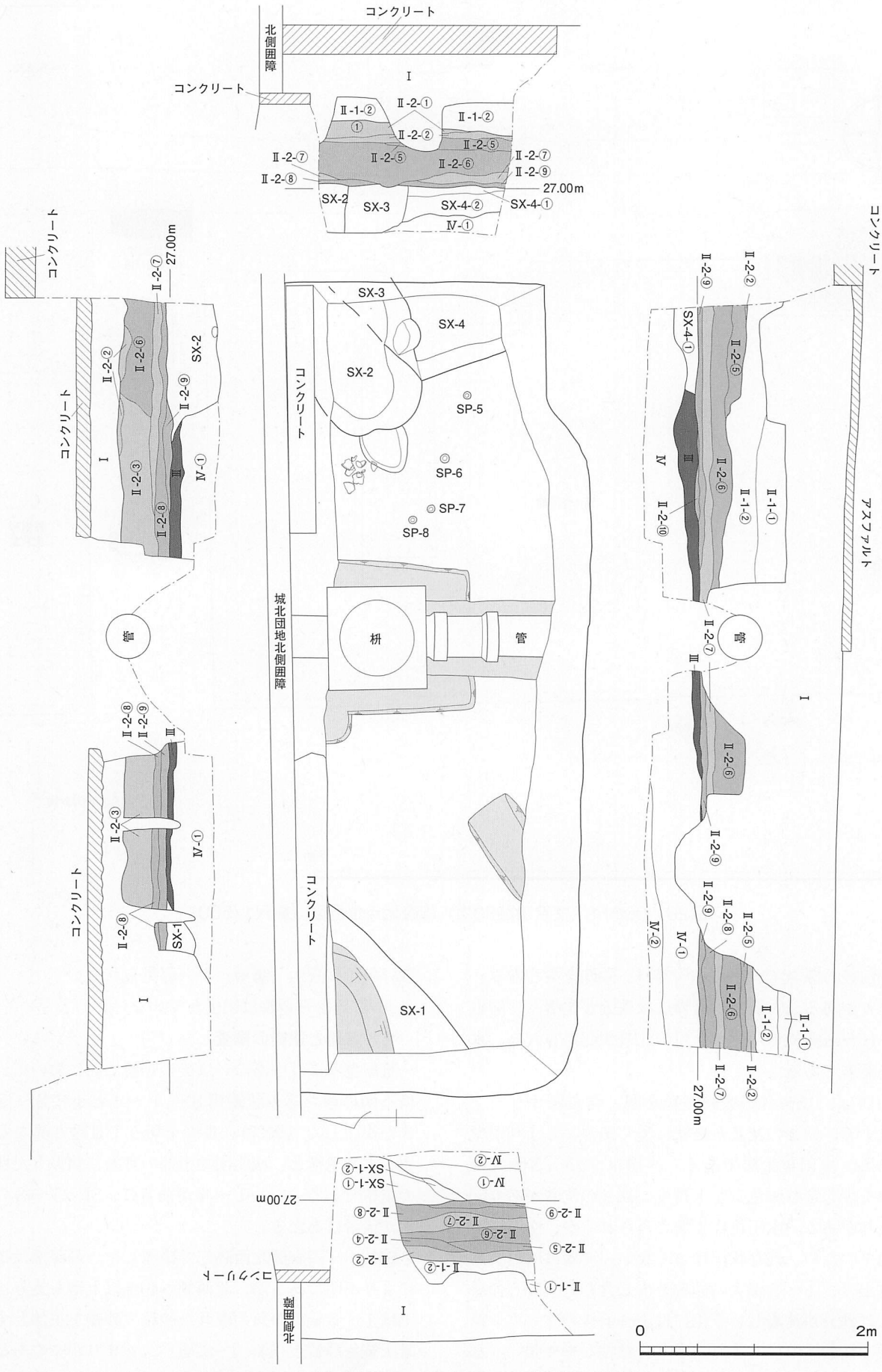


図27　00611（文京遺跡30次）調査１区実測図（縮尺1/50）

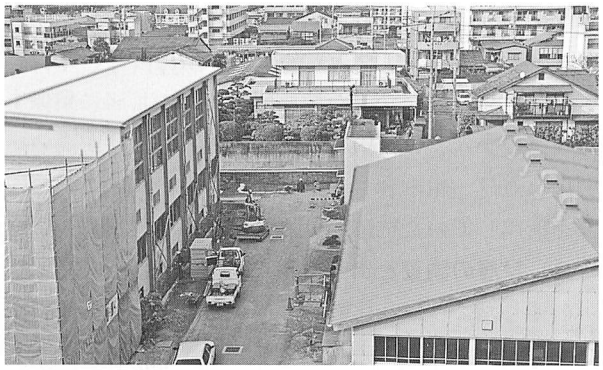


写真71　00611調査区遠景（南から）

写真72　00611調査１区上層水田面（東から）

写真73　00611調査１区西壁水田関連土層（東から）

写真74　00611調査１区Ⅳ層上面遺構完掘状況（東から）

写真75　00611調査１区 SX-１（南東から）

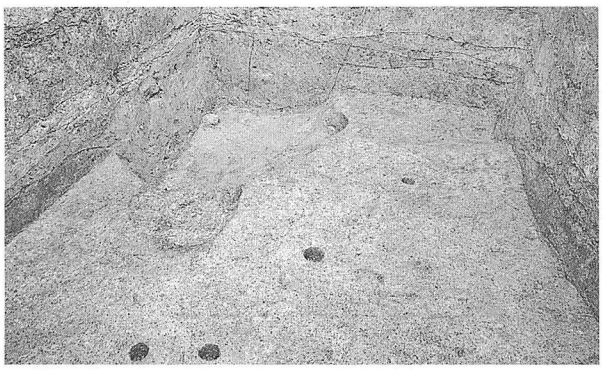


写真76　00611調査１区東半部のⅣ層上面の検出遺構（西から）

写真77　00611調査１区Ⅳ層中の縄文土器出土状況（南西から）

スに、1～5㎜大の角の取れた砂粒・砂礫を多く含むオリーブ褐色シルト質土（SX-1-②層）がみられる。平面形状は不明ながら、埋土・断面から判断して、溝あるいは自然流路の一端と考えられる。遺物は出土していない（写真75）。

SX-2・SX-3　調査区北東隅部で確認した、東西110cm以上・南北80cm以上・深さ約40cmの落ち込みで、調査区外へとつづく。当初一体の遺構とみなしていたが、調査区東壁の土層精査から切り合いを確認したため、切られた南側をSX-3として分離した。埋土はともに灰色シルト質土。SX-2は1㎜前後の砂粒を少し含み、高師小僧が多く見られ、粘性が強く、しまりがある。底面付近には、10cm大までの角の取れた扁平な円礫が貼り付き、その間から須恵器片が出土した。一方のSX-3埋土は、SX-2より1㎜前後の砂粒の混じりがやや多く、鉄分の沈着は斑状で、粘性・しまりがある（写真76）。

SX-4　調査区南東隅部で確認した落ち込み。東壁際50～70cmで、北側をSX-3に切られ、南北約80cm、深さ20cm前後である。埋土は灰色シルト質土で、1㎜前後の砂粒をやや、Ⅲ・Ⅳ層のブロックを多く含み、しまりがある。上層のSX-4-①層は、Ⅲ・Ⅳ層のブロックが5cm大までと大きいのに対し、下層のSX-4-②層は3cm以下とやや小さくなる（写真76）。

SP-5　径約7cm・残存深約4cmの小穴である。埋土は黒褐色粘質土でやや砂質は強い。2～3㎜大の角張った砂礫を少量、暗褐色粘質土の5㎜大ブロックを少量含む。

SP-6　径約7cm・残存深約4cmの小穴で、埋土は黒褐色粘質土でやや砂質は強い。2～3㎜大の角張った砂礫を少量、暗褐色粘質土の5㎜大ブロックを少量含む。出土遺物はない。

SP-7　径約7cm・残存深約5cmの小穴。埋土は暗褐色粘質土で、1㎜大の砂粒をごく少量、黒色砂質土の5㎜大ブロックを少量含む。

SP-8　径約7cm・残存深約5cmの小穴である。埋土は暗褐色粘質土で、1～3㎜大の砂礫を少量、黒色砂質土の5㎜大ブロックを少量含む。

以上の遺構で遺物が出土したのは、SX-2のみである。そのSX-2も埋土の特徴から、出土須恵器の示す古墳時代後期まで遡ることは難しい。SX-3、SX-4とともに、古墳時代よりも新しい時期の遺構と考えておきたい。SX-1については、これらと埋土の特徴を異にし、時期の詳細は不明とせざるを得ない。他方、SP-5～8は、いずれもⅣ層上面で検出した、この調査区では見られなかった城北団地南部のⅢ層に類似する埋土の小穴で、古墳時代後期に遡る可能性が高い。明確な並び・組み合わせを特定できないが、柵列の一部を構成していた杭跡の可能性が高い（写真76）。

3）Ⅳ層の調査と出土遺物

前述したように、比較的近接する9次調査地点でⅣ層から縄文土器が出土しており、Ⅳ層を人力で掘り下げながら精査した。Ⅳ層の検出高は南西部が最も高い。浅黄色シルト質土で、1㎜前後の砂粒を少し含む程度で、シルト質が強く、しまりがある。また、5㎜前後のマンガン粒の沈着が多い（Ⅳ-①層）。調査区内でも、東寄りほどシルト質が強く、対して西南側は下部で、やや砂質が強くなる（Ⅳ-②層）。全体に本調査区のⅣ層は、砂粒の含みが少なく、シルト質が強い。また炭化物・焼土はほとんど含まず、集中箇所も認められない。

ところが、調査区東部の北壁際で、土器片がまとまって出土した（図28・写真77）。包含土層はⅣ-①層。

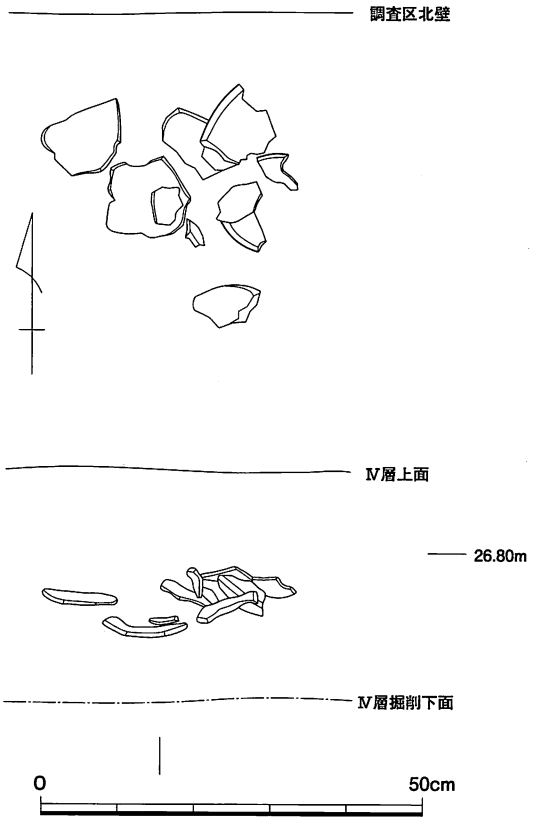


図28　00611（文京遺跡30次）調査1区Ⅳ層中遺物出土状況（縮尺1/10）

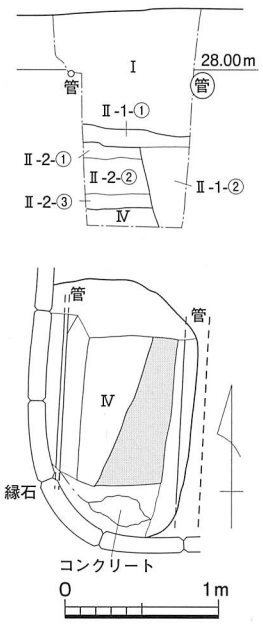


図29　00611（文京遺跡30次）調査２区実測図（縮尺1/50）

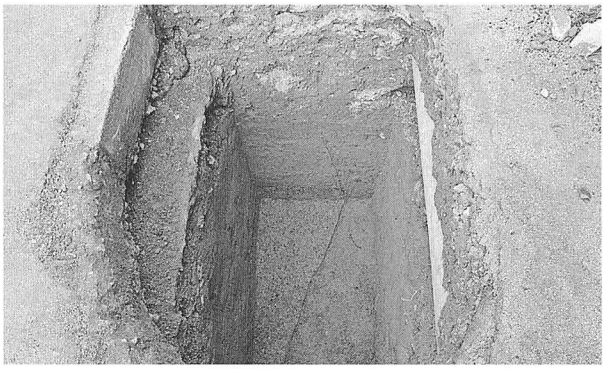


写真78　00611調査２区完掘状況（南から）

土器周辺は周囲よりわずかに白っぽく砂質がやや増すが、遺構と認められる平面的な土層の違いは認識できなかった。土器はすべて同一個体で、内外面を丁寧にミガキ仕上げした、縄文後期の鉢とみられる。なお、これ以外にⅣ層からの出土遺物はない。

（2）２区の調査

１区から南約26m、教育学部技術科実習室西側に位置する（図29、写真78）。表土層は現地表下80cm前後までで、途中調査区東西に管路が埋設されていた。以下、城北団地基本層序のⅡ層となるが、近現代のⅡ-１層は２層に、Ⅱ-２層は３層に細分できる。Ⅱ-１-①層は約10cm前後の厚さで、オリーブ褐色砂質土。１～５㎜大の砂粒・砂礫を少し含み、粘性がある。Ⅱ-１-②層は、掘削底面以下まで調査区東半を切り込むオリーブ褐色砂層で、１㎜前後の砂粒の含みが多く、部分的にラミナを形成する。また、５cm大のⅣ層ブロックや２～３cm大の円礫を少し含む。Ⅱ-2-①層は黄褐色砂質土で、厚さは10cm前後。0.5㎜以下の細かな砂粒を含み、シルト質を若干含み、粘性がややある。Ⅱ-1-①層との層界には鉄分が薄く沈着する。Ⅱ-2-②層は黄褐色砂質土で、２㎜以下の砂粒をやや含み、Ⅱ-2-①層よりやや砂質が強い。層上部に５㎜前後のマンガン粒の沈着がややある。層厚は20cmを超える。Ⅱ-2-③層は暗灰黄色砂質土で、１～５㎜大の砂粒・砂礫を含んで砂質が強く、しまりがややある。厚さ約10cm。この地点のⅡ-2層は、１区のⅡ-2層と比べて砂質が強く、直接の対応は明確でないが、①・③層が耕作土あるいは床土、②層が覆土とみられる。

以上の水田関連土層の下、調査区西半の標高約27.10mでⅣ層が現れた。１区同様、以下を手作業により調査し、工事に必要な現地表下約140cmまで約12cmを掘り下げたが、遺物は出土しなかった。この地点のⅣ層は黄褐色シルト質土で、１～５㎜大の砂粒・砂礫をやや多く含み、しまりが強い。上部に薄く鉄分が、また５㎜大のマンガン粒が、上部水田関連土層から沈着している。

電灯への管路埋設については、現地表下40cmの掘削であり、２区および１区の所見から、埋蔵文化財への影響はないと判断できた。その旨を施設基盤部・施工業者に伝え、以後の慎重工事を依頼し、２区の調査を終えた。

3　調査のまとめ

今回の調査では、近現代の水田層であるⅡ-１層の下に、それを遡る水田層であるⅡ-２層を確認した。１区と２区で対応が明確でないが、近世以前に遡るⅡ-２層が城北団地北縁に広がっているとみられる。同様の水田層は、南側の文京遺跡18次調査および25次調査で面的広がりを確認している。また、周辺調査区の土層対応では、18・25次調査区検出水田層に連なるとみられる水田層あるいは谷状地形は、30次調査区の南では、00002調査４トレンチや99902調査14トレンチに求められる（図30）。そして、99902調査15・16トレンチでは、Ⅲ層の安定した堆積が存在し、Ⅳ層の検出高も30次調査２区が最も高い。したがって、30次調査区

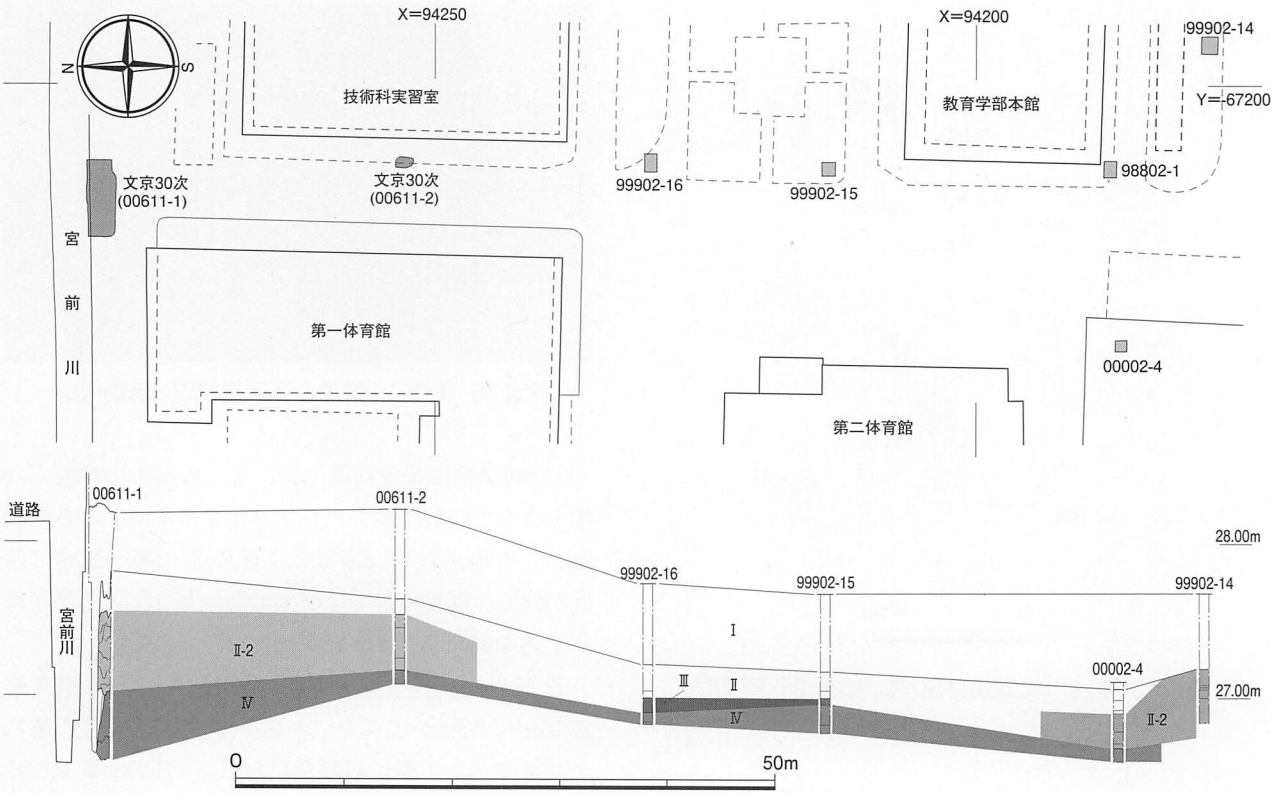


図30　00611（文京遺跡30次）調査区周辺土層図（縮尺1/700、1/50）

検出のⅡ-２層は、18・25次調査区の位置する谷状地形の北側の微高地からその北側斜面に営まれた水田層にあたることになる。同様の水田層は、団地北東隅部の00204調査２トレンチでも確認されており、城北団地北縁一帯が東側から延びる微高地及びその北側斜面にあたると推測できる。

一方、微高地を形成するⅣ層については、近傍の９次調査地点の成果から、縄文土器出土を予測して調査に臨んだところであり、予想に違わず縄文土器の出土をみた。しかし、出土したⅣ層は、城北団地南部や東部で遺物が出土する砂粒･砂礫を含んだⅣ層ではない。むしろ、その下層にあたる砂粒・砂礫を含まないシルト質土層で、土壌化も認められなかった。また、出土土器周辺の精査でも明確な遺構は認識できず、出土土器は単体であった。シルト質土が堆積する中で、周辺から流れ込んだとみられる。ただし、９次調査地点で比較的豊富な縄文後晩期土器の出土をみるとともに、南側の２区では１区とは異なる特徴のⅣ層が認められた。周辺の調査面積が限られ明確ではないが、城北団地北部一帯においても縄文土器を包含するⅣ層が広がっていると予測できる。　（吉田）

00612　（城北団地）法文学部２号館非常階段取設工事に伴う調査（文京遺跡 31 次調査）

調 査 地 点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調 査 面 積　８㎡
調 査 期 間　2007年２月19日～２月20日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年１月29日付）

1　調査にいたる経緯

10月18日、法文学部から２号館西側に非常階段の設置と、これに伴う植栽の樹木移植を行う計画が報告された。法文学部、施設基盤部とともに、埋蔵文化財に影響が生じないように、

①非常階段の設置については、北側に近接する00007調査で確認された２号館建設時の余掘り範囲に基礎を収めること

②樹木移植先は法文学部本館西北角の余掘り範囲に収めること

の協議を進めた。しかし、非常階段の設置地点では、設計上、どうしても余掘り範囲から西側1.5mほどの掘削が必要であることがわかり、植栽の樹木移植先も含めて、立会形式で調査を行うこととした。

ところが、非常階段の設置地点では、調査に着手すると、弥生時代の遺構・遺物に加えて、より下層で縄文時代後期の遺構と遺物が出土し、調査期間も長くなったことから、文京遺跡31次調査として調査次数を付与することとした。

2　調査の記録

調査地点は、法文学部２号館西側の非常階段の設置地点と、樹木移植の移植先地点の２ヶ所である。非常階段の設置地点を１区、樹木移植先を２区とした（図31）。

（1）１区の基本層序と出土遺構の概要

文京遺跡では、既往の調査成果から遺跡全体にわたる基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している。今回の調査では、基本層序のⅡ層は削平されていたが、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ層の各層位を確認でき、以下のような堆積土層の構成を観察できる。

Ⅰ層：表土の瓦礫および真砂土からなる造成土。

Ⅲ層：径１㎜前後の砂礫が混じる暗褐色シルト質砂質土で、土壌化が進む。弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する土層。

Ⅳ層：明黄褐色～明黄褐、あるいは黄灰色の砂層や砂質シルト層から構成される。Ⅳ-３層上面で検出した遺構埋土、そしてⅣ-３ｂ層下部の土壌化層には炭化物片が集中する。

この中で、Ⅳ層は、Ⅳ-１～Ⅳ-４層に分層でき、さらに細別できる。Ⅳ-１層は明黄褐色砂質土。砂性が強くきめも細かい。部分的に粘性をおびる。Ⅳ-２a層よりもわずかに粘性をおびる。縄文土器と考えられる土器の小片や炭化物がごく少量であるが出土している。

Ⅳ-２層は、明黄褐色砂層で、砂質が強くきめも細かい。粘性はない。土器片を含む。Ⅳ-２a層とⅣ-２b層から構成される。Ⅳ-２a層は明黄褐～黄灰色砂。Ⅳ-２b層は黄灰色砂質土。Ⅳ-2a層に比して、わずかに粘性をおびる。縄文土器と考えられる土器の小片や炭化物がごく少量であるが出土した。

Ⅳ-３層は、シルトないしは砂質シルト層である。上面でⅣ-３層を掘り込んだ土壙や小穴を検出できた。これらの遺構の埋土は土壌化している。埋土中からは縄文後期前半の土器が出土。Ⅳ-３層は、上部のⅣ-３ａ層と下部のⅣ-３ｂ層から構成される。Ⅳ-３ａ層は明黄褐色シルト。きめ細かく、やや粘性をおびる。Ⅳ-３b層は余掘り壁面では一括しているが、シルトと砂の互層堆積で、調査区西壁面では、以下の複数の堆積土層を観察できた。Ⅳ-３ａ層と比べて粘性が弱い。土質のきめは細かい。土器片を含む。Ⅳ-３ｂ層上面から土壙や小穴が掘り込まれている。

また、調査区西壁面では、Ⅳ-３ｂ層は、Ⅳ-３ｂ①～⑭層から構成されていることを確認できた。Ⅳ-３ｂ①層は明黄褐色砂質シルトで、わずかに粘性をおびる。Ⅳ-３ｂ②層は黄褐色砂質シルトで、部分的に粘性をおびる。Ⅳ-３ｂ③層は黄灰色砂。Ⅳ-３ｂ④層は黄灰褐色砂質土で、わずかに粘性をおびる。Ⅳ-３ｂ⑤層は明黄褐色砂質シルトで、わずかに粘性をおびる。Ⅳ-３ｂ⑥層はわずかに粘性をおびる黄灰褐色砂質土である。

Ⅳ-３ｂ⑦・⑧層は土壌化層で、縄文後期の遺物を包含している。調査中には縄文下部包含層と呼称していた。Ⅳ-３ｂ⑦層は褐色シルトで、Ⅳ-3ｂ⑧層と比べて、褐色が淡い土色であるが、土質は共通する。Ⅳ-３ｂ⑧層は褐色シルト質土である。

Ⅳ-３ｂ⑨層は、Ⅳ-３ｂ⑧層の下部の鉄分が沈着して赤みをおびる部分である。Ⅳ-３ｂ⑩層は黄灰色砂層。Ⅳ-３ｂ⑪層は褐色砂質土で、明黄褐色砂質土の小塊が混じる。Ⅳ-３ｂ⑫層は褐色～黄灰色砂質土で、上層のⅣ-３ｂ⑧層がしみ込んだ部分にあたる。Ⅳ-３ｂ⑬層は黄灰色砂層。Ⅳ-3ｂ⑭層は明黄褐色砂質シルト層である。

Ⅳ-４層は、黄灰色～にぶい黄色の砂層である。Ⅳ-４層は東西方向の自然流路に伴う堆積物と考えられる。Ⅳ-４ａ層～Ⅳ-４ｃ層から構成される。Ⅳ-４a

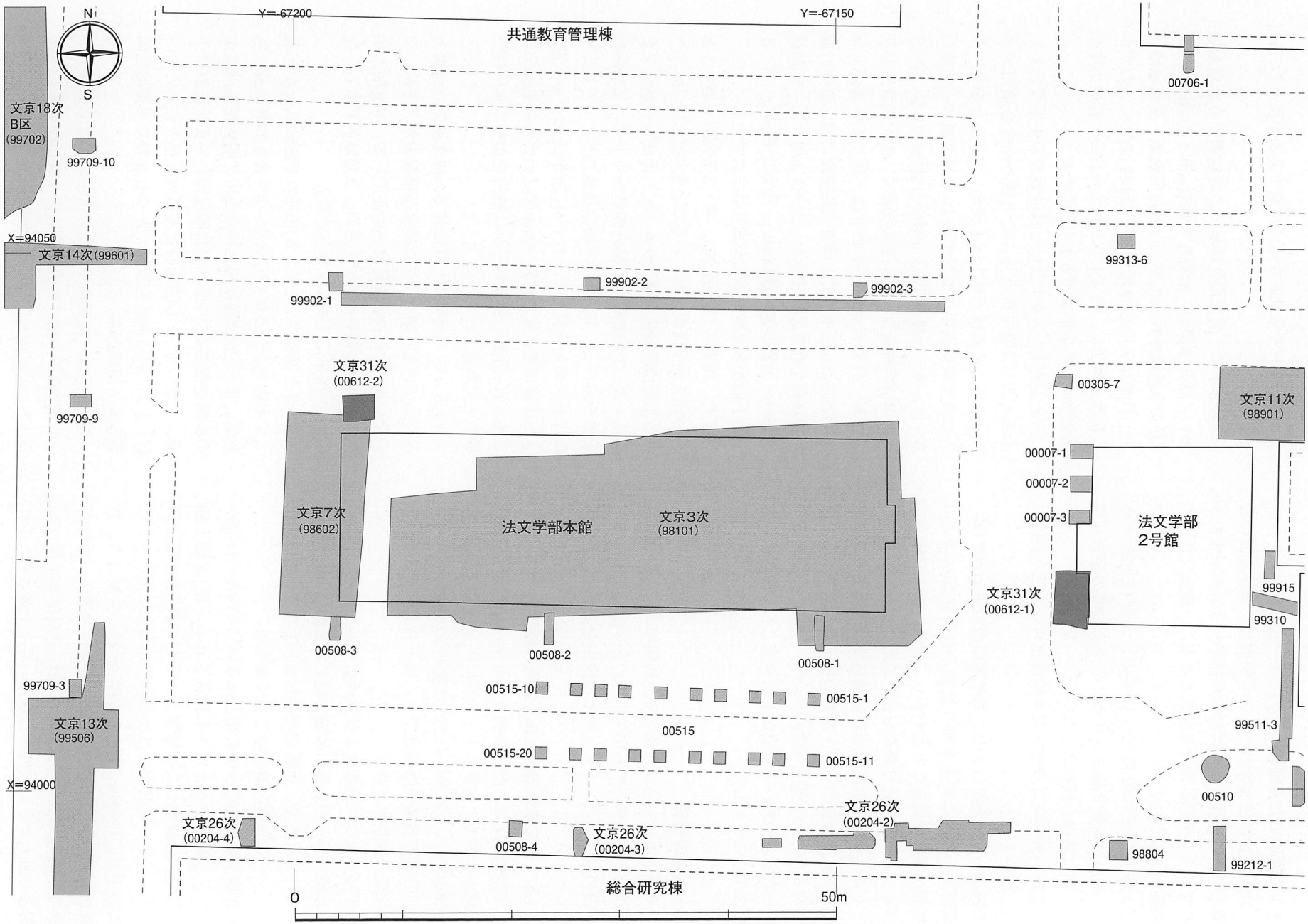


図31　00612（文京遺跡31次）調査地点位置図（縮尺 1/500）

層は黄灰色砂層で、径0.1㎜の砂粒からなる。きめ細かい。ラミナが顕著に発達する。東西方向の流路に伴う堆積と考えられる。Ⅳ－４ｂ層はにぶい黄砂層と黄灰色砂層の互層堆積で、ラミナが顕著に発達する。Ⅳ－４a層とともに東西方向の流路に伴う堆積物である。Ⅳ－４c層はにぶい黄砂層で、きめは細かく、しまりがある。

（２）１区の出土遺構

調査範囲は狭いものの、Ⅳ層上面、Ⅳ－３b層上面で遺構が出土し、さらに下層のⅣ－３ｂ⑦・⑧層は縄文後期の遺物包含層である。

１）Ⅳ層上面出土の遺構

Ⅲ層の上面を検出する際、その中に弥生土器などの遺物が包含されていることを確認でき、周辺の既往調査の成果からも、弥生時代～古墳時代の遺構があることが予想された（写真81）。しかし、Ⅲ層の掘り下げ中に遺構の輪郭は確認できず、ようやくⅣ層の上面で柱穴・小穴などを検出できた（図32、写真82～84）。

Ⅳ層上面で検出した遺構には１から連番で30までの遺構番号を付し、種別を表す略号を冠している。出土した遺構は、土壙６（SK－１・２・７・16・18・29）、柱穴７（SP－４・５・６・14・15・23・26）、小穴17（SP－３・８～13・17・19～22・24・25・27・28・30）である。いずれもⅢ層と共通して砂礫混じりの暗褐色シルトを主体とする埋土をもち、弥生中期後葉～後期前葉あるいは古墳後期の遺構である。以下、土壙と柱穴を報告する。

〔土壙〕

SK－１　調査区南端で出土した土壙で、SK－２、SP－３・28に切られる（図33）。推定長軸長90cm、短軸長64cmの不整形を呈し、緩やかに窪み、底面はかなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、下部に丸い明黄褐色砂質土塊が少量混じる。

SK－２　調査区南端で出土。東半部の大半を法文学部２号館余掘りで破壊され、南側は調査区外にのびる。SK－１・SP－28を切る（図33、写真85）。掘り形の平面形は緩やかに弧を描き、壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、掘り形底面には小さな凹凸があるが、その上部に厚さ10～15cmの明黄褐色砂質土の小塊が混じる暗褐色シルト質砂質土層がみられ、ほぼ平坦な面を造っている。以上から、竪穴式住居跡の一部である可能性もある。埋土上半部はⅢ層と共通する砂礫混じりの暗褐色シルト質砂質土である。SK－２はⅢ層中位から掘り込んでいるようだが、判然としない。

SK－７　調査区中央の西壁沿いに位置する。幅70cmほどの隅丸方形の小型土壙と考えられる。SK－29に切られる。底面には小さな凹凸がみられる。埋土は暗褐色砂質土層で、明黄褐色砂質土の小塊が点々と混じる。

SK－16　調査区北端の西壁沿いに位置する。ごく一部を確認しただけであるが、壁面がほぼ垂直に立ち上がることから土壙と考えた（図33）。SK－18やSP－17を切る。埋土は暗褐色シルト質砂質土である。底面で柱痕跡をもつ径21cmの円形の掘り形を確認した。

SK－18　調査区北端の西壁沿いに位置し、SK－16、SP－17に切られる（図33）。SK－16と同じく、ごく一部が出土しただけではあるが、隅丸方形の短辺部と考え、土壙と判断した。底面はかなり凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、部分的ににぶい黄褐色シルトの小塊が混じる。

SK－29　調査区中央の西壁沿いで出土した（図33）。当初SK－７の一部として調査していたが、調査区西壁土層で別個の遺構であることを確認できたので、SK－29とした。SP－６に切られ、SP－30を切る。底面にはかなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質砂質土で、部分的ににぶい黄褐色シルトの薄層が挟まる。

〔柱穴〕

SP－４　調査区の南半部の西壁沿いに位置する。径48cmの円形の掘り形をもち、そのほぼ中央で径20～23cmの円形の柱痕跡を確認できた（図33）。掘り形底面には、柱痕跡底面と対応する円形の窪みがみられる。埋土①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土で、にぶい黄褐色シルトの親指先大の塊が多く混じる。②層は掘り形埋土で、暗褐色シルトと、にぶい黄褐色シルトの親指先大の塊が混じりあう。

SP－５　調査区南半部のSP－４の東側に位置する（図33）。径36～38cmのほぼ円形の掘り形をもつ。掘り形の埋土は、にぶい黄褐色シルトに暗褐色シルトの小指先大の塊が混じる②層であるが、そのほぼ中央で16×25cmの南北に細長い楕円形の暗褐色シルトに小指先のにぶい黄褐色シルトがごく少量混じる①層の落ち込みを確認した。柱痕跡かは確実でない。

SP－６　調査区ほぼ中央に位置する。SK－７・29を切る（図33）。24×30cmの長円形の掘り形をもち、その西南よりで13×15cmの柱痕跡を確認した。掘り形底

面に深さ５cmほど窪みを掘り込み、柱を据えている。①層は柱痕跡で、暗褐色シルト。下部には、にぶい黄褐色シルトの薄層が水平に縞状に挟まる。②・③層は掘り形埋土。②層はにぶい黄褐色シルト質土と暗褐色シルトの小指先大の塊が混じりあう。③層は暗褐色シルト質土である。

SP-14　調査区の北半部に位置する（図33)。SP-15を切り、SP-13に切られる。31×41cmの隅丸方形の掘り形をもつ。掘り形の南側の底面を深さ10cmほど掘り窪めて柱を据えている。柱痕跡は径13×16cmを測る。埋土の①層は柱痕跡にあたる暗褐色シルト質砂質土で、下部ににぶい黄褐色シルトの小指先の塊が点々と混じる。②・③層は掘り形埋土。②層は暗褐色シルト質土。③層は暗褐色シルト質土とにぶい黄褐色シルトの小指先大の塊が混じりあう。

SP-15　調査区の北半部に位置し、SP-14に切られる（図33)。43×57cmの長円形の掘り形をもつ。掘り形内では、14×20cm、深さ５cmほどが暗褐色シルト質土となっている。柱痕跡の可能性を考えた。①層は、暗褐色シルト質土に、にぶい黄褐色シルトの小塊が少量混じる。②層も暗褐色シルト質土であるが、にぶい黄褐色シルトの塊が大きめで、かつ量も多い。

SP-23　調査区北端に位置する円形の柱穴である（図33)。径74cmほどの不整円形の掘り形をもつ。SP-26に切られ、SP-24を切る。平面では検出できなかったが、調査区北壁で斜めに引き倒されたような柱痕跡を確認した。埋土は径１mmほどの砂礫が混じる暗褐色砂質土である。掘り形埋土の上半部は暗褐色シルト質土で、にぶい黄褐色シルトの小塊が少量混じる。下半部は暗褐色シルト質土とにぶい黄褐色シルトの小指先大の塊が混じりあう。

SP-26　調査区北端に位置し、SP-23を切る（図33、写真86)。30×45cmの隅丸方形の掘り形をもち、掘り形の西よりで径14～15cmの円形の柱痕跡を確認した。埋土①層は柱痕跡で、暗褐色シルト質土に、小指先大のにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。②・③層は掘り形埋土。②層は、①層と比べてにぶい黄褐色シルト塊の量が多い。③層には親指先大のにぶい黄褐色シルトの塊が非常に多く混じる。

２）Ⅳ-３b層上面出土の遺構

調査当初、法文学部２号館の余掘り部分を掘り下げ、余掘り壁面を観察したが、Ⅳ層内に土壌化層の薄層があることに気がついた。Ⅳ層上面での調査を終えてⅣ層を掘り下げたところ、Ⅳ-３b層の上面で土壙や小穴を確認できた。いずれの遺構からも縄文土器が出土している（写真87・91)。出土遺構には、101～115の連番の遺構番号を与えている。ただし、103・105は欠番である。土壙４（SK-101、104・108・114)、小穴９（SP-102・106・107・109～113・115）があり、以下では土壙を報告する。

SK-101　調査区中央に位置する。東半部を建物余掘りで破壊されている。長辺97cmの細長い隅丸長方形を呈する土壙である（図33、写真88)。SP-106・107に切られる。底面はやや南にむかって低くなり、小さな凹凸がみられる。埋土は、暗褐色シルト質土で、粘性をおびる。土壙内全面で、縄文土器や炭化物の小片が出土している。

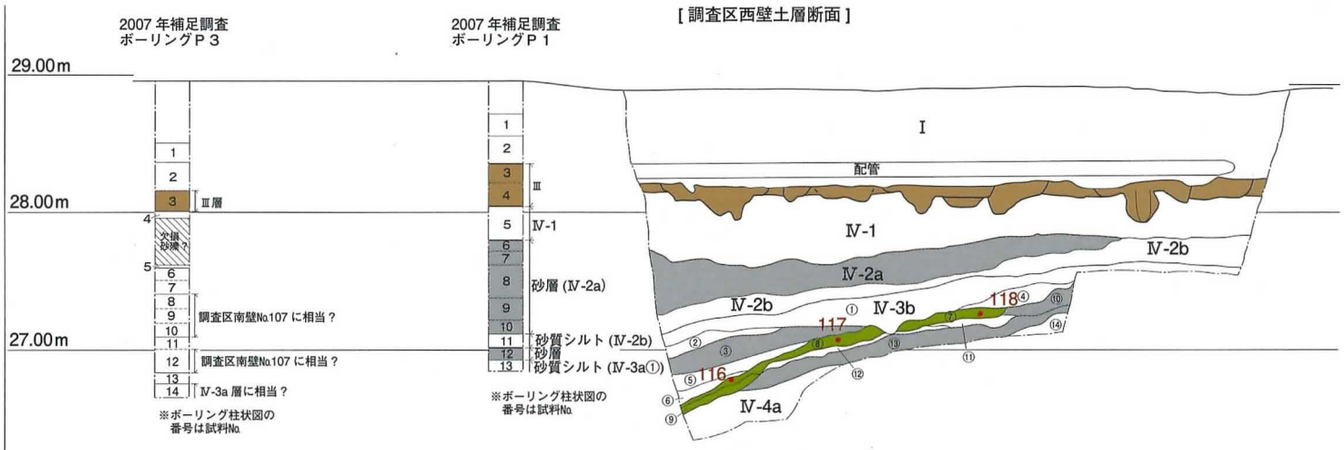
SK-104　余掘り壁面では、SK-101の南側で２ヶ所の土壌化層の落ち込みを確認し、SK-104とSK-105としていた。ところが、平面的に検出したところ、１つの遺構であることがわかり、SK-104とし、SK-105は欠番とした。SK-104は、長さ95cm、幅30cmの溝状の土壙である。底面は南に向かって緩やかに低くなり、かなりの凹凸がある。埋土は暗褐色シルト質土で、粘性をおびる。下半部を中心として炭化物片が多く出土した。なお、北側でSP-115が重複するが、先後関係は不明である（図33)。

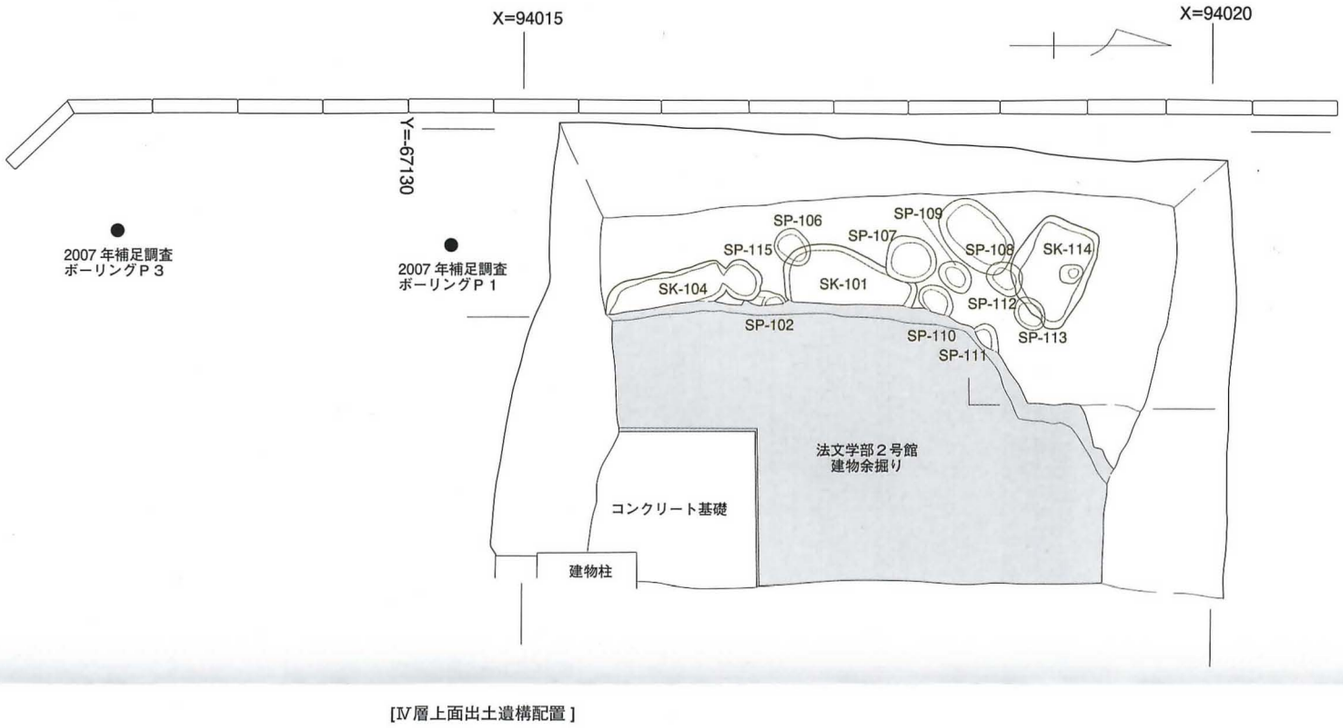
SK-108　調査区北半部に位置する長円形の土壙である。長径60cm、短径40cmを測る（図33、写真98)。埋土は明黄褐色シルトの中に暗褐色シルト質土が混じる。南半部を中心として縄文土器や炭化物の小片が出土している。

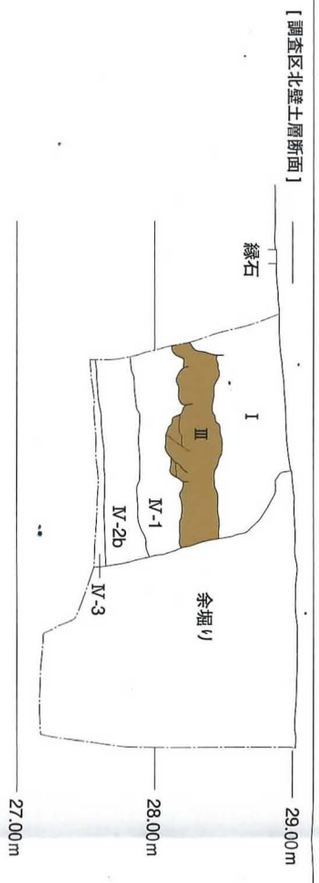
SK-114　調査区北半部に位置する。長径78cm、短径55cmを測る不整な隅丸方形の掘り形をもつ（図33、写真90)。底面は南半部が低くなり、小穴状の窪みがあるなど凹凸にとむ。埋土は、明黄褐色シルトの中に淡い褐色シルトが多く混じる。縄文土器２点の他、炭化物の小片が出土している。

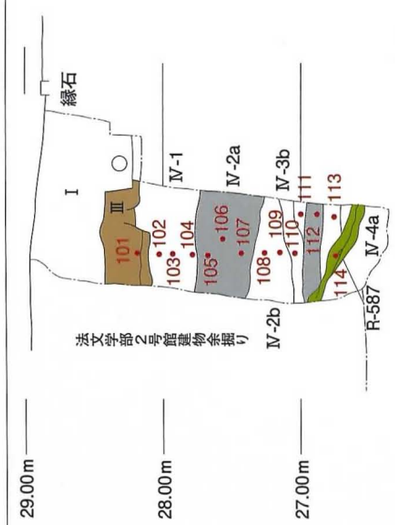
３）Ⅳ-３b⑦・⑧層

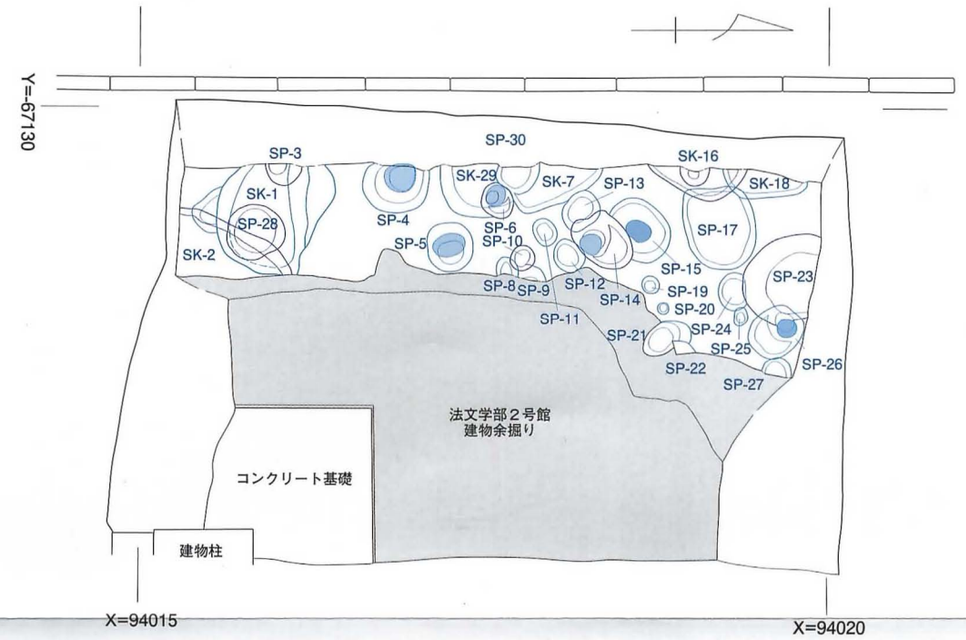
調査区南半部のSK-104を掘り下げ、土壙底面を精査していくと、部分的に土壌化した褐色シルト質土が深く落ち込むことを確認できた。下層に遺構があることを考え、調査区南壁沿いに先行トレンチを設定したところ、SK-104などのⅣ-３b層上面出土の遺構とは異なって、南西方向に向かって落ち込みながら堆積するⅣ-３b⑦・⑧層を確認できた（図32、写真92)。











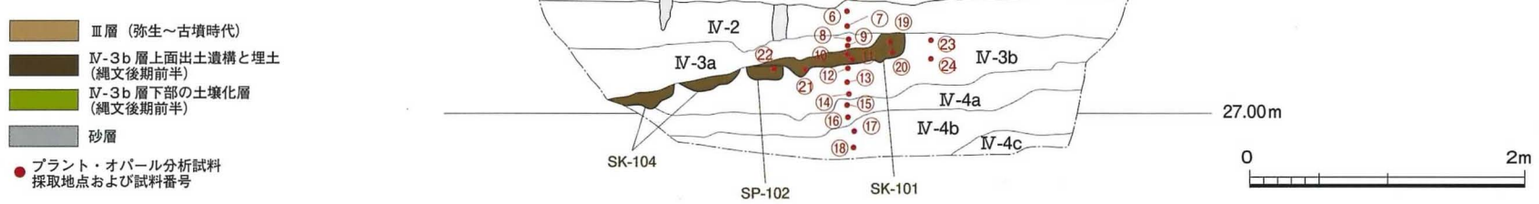


図32　00612（文京遺跡31次）調査１区実測図（縮尺 1/50）

写真79　00612調査１区移植作業

写真80　00612調査１区全景（西から）

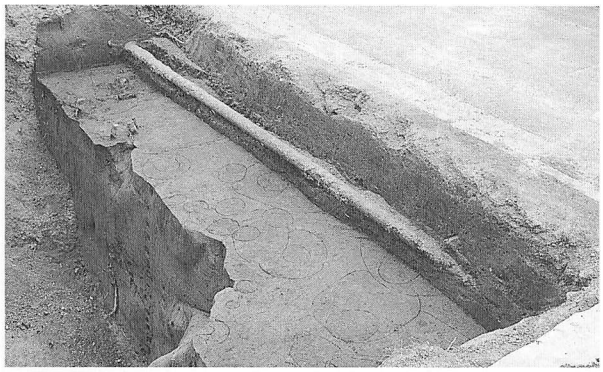


写真81　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構検出状況

写真82　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況１

写真83　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況２

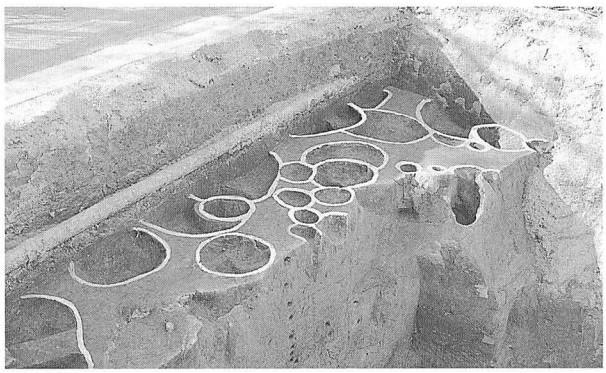


写真84　00612調査１区Ⅳ層上面の遺構完掘状況３

写真85　00612調査１区 SK-２遺物出土状況(南東から)

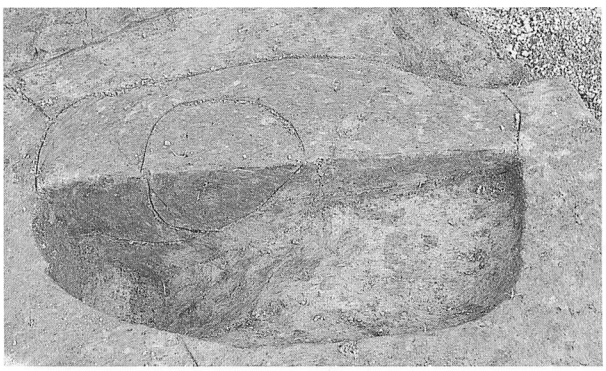


写真86　00612調査１区 SP-26土層断面

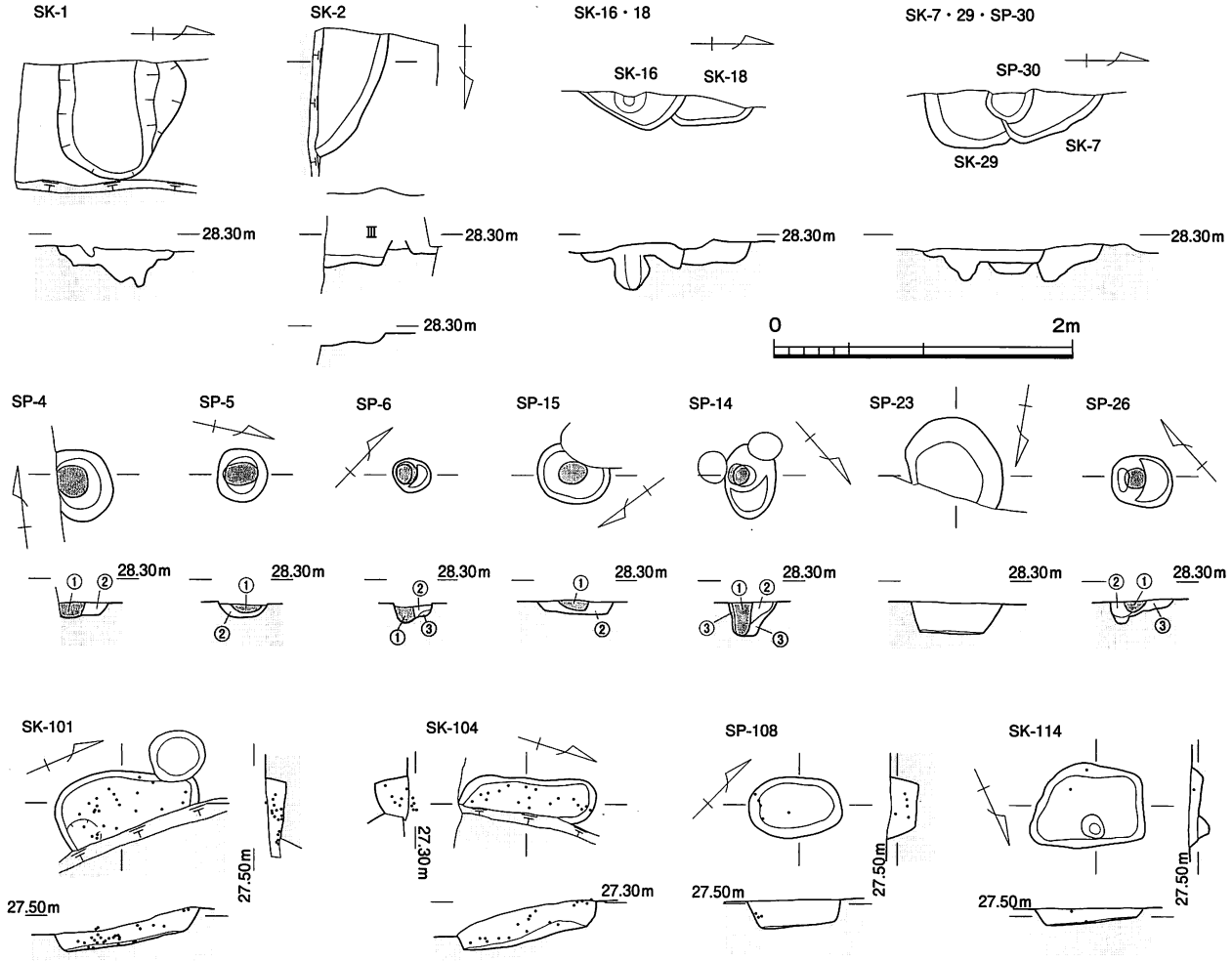


図33　00612（文京遺跡31次）調査遺構実測図（縮尺 1/50）

このⅣ-３ｂ⑦・⑧層も土壌化した土層で、縄文後期の縁帯文土器が少量であるが比較的まとまって出土した。

（3）２区の調査

２区は法文学部本館北西角に位置する（写真93・94)。１区の非常階段取設工事に伴い必要となった樹木の移植先である。法文学部本館建設時の余掘り範囲を確認した上で移植する計画であり、掘削工事に立ち会い、深さ１ｍまで余掘りの造成土がつづくことを確認した上で移植作業にとりかかった。

３　調査のまとめ

今回の調査は、幅0.8～1.5m、長さ4.6mという狭い範囲ながら、Ⅳ層上面で弥生中期後葉～後期前葉あるいは古墳後期の土壙６と柱穴７、小穴17、Ⅳ-３b層上面で縄文後期の土壙４と小穴９、そして縄文後期の遺物包含層であるⅣ-３ｂ⑦・⑧層が重層して出土した。周辺では、文京遺跡３次調査地点で弥生中期後葉～後期前葉の竪穴式住居跡が出土しており、Ⅳ層上面で出土した遺構の一部は、そうした集落に関連するものと考えられる。また、北東に20mほど離れた文京遺跡11次調査地点では、縄文後期の中津式～縁帯文土器の遺物包含層が確認されている。今回の調査で出土したⅣ-３b層上面の遺構やⅣ-３ｂ⑦・⑧層の遺物包含層も、一連のものと考えられる。土壌化層が残り、炭化物片が多く出土していることから、プラント・オパール分析を行っている。これも含めて本報告書をまとめたい。

（田崎）

写真87　00612調査１区Ⅳ-３b層上面の
遺構完掘状況１

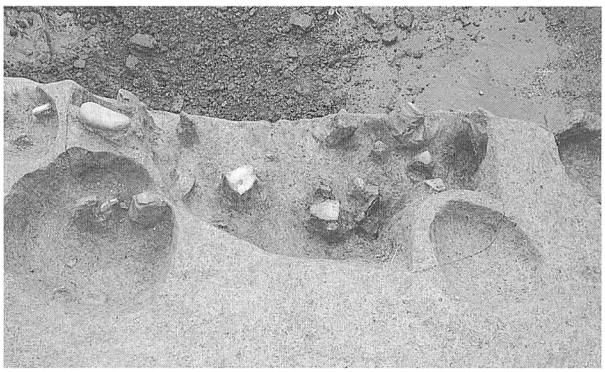


写真88　00612調査１区 SK-101遺物出土状況

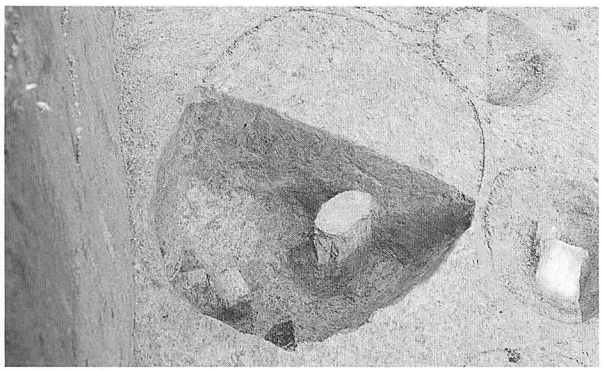


写真89　00612調査１区 SP-108遺物出土状況

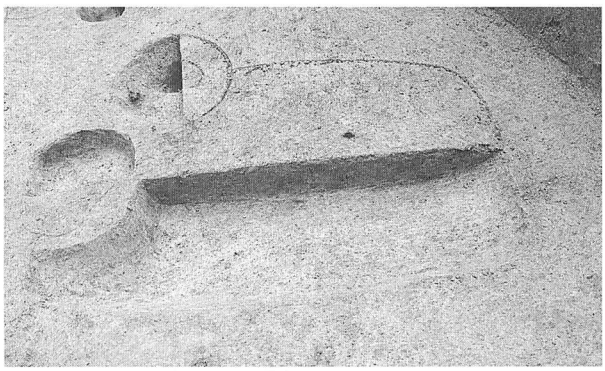


写真90　00612調査１区 SK-114土層断面

写真91　00612調査１区Ⅳ-３b層上面の
遺構完掘状況２

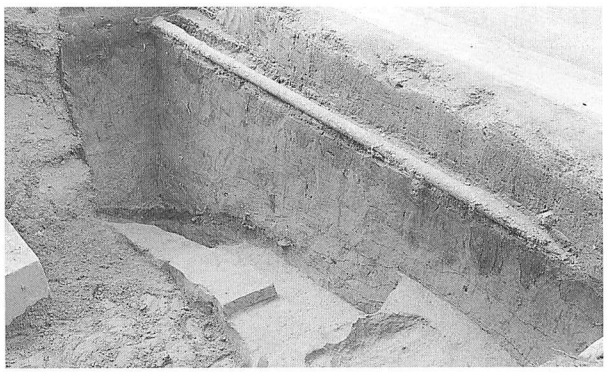


写真92　00612調査１区西壁土層断面

写真93　00612調査２区遠景（南西から）

写真94　00612調査２区南壁土層断面

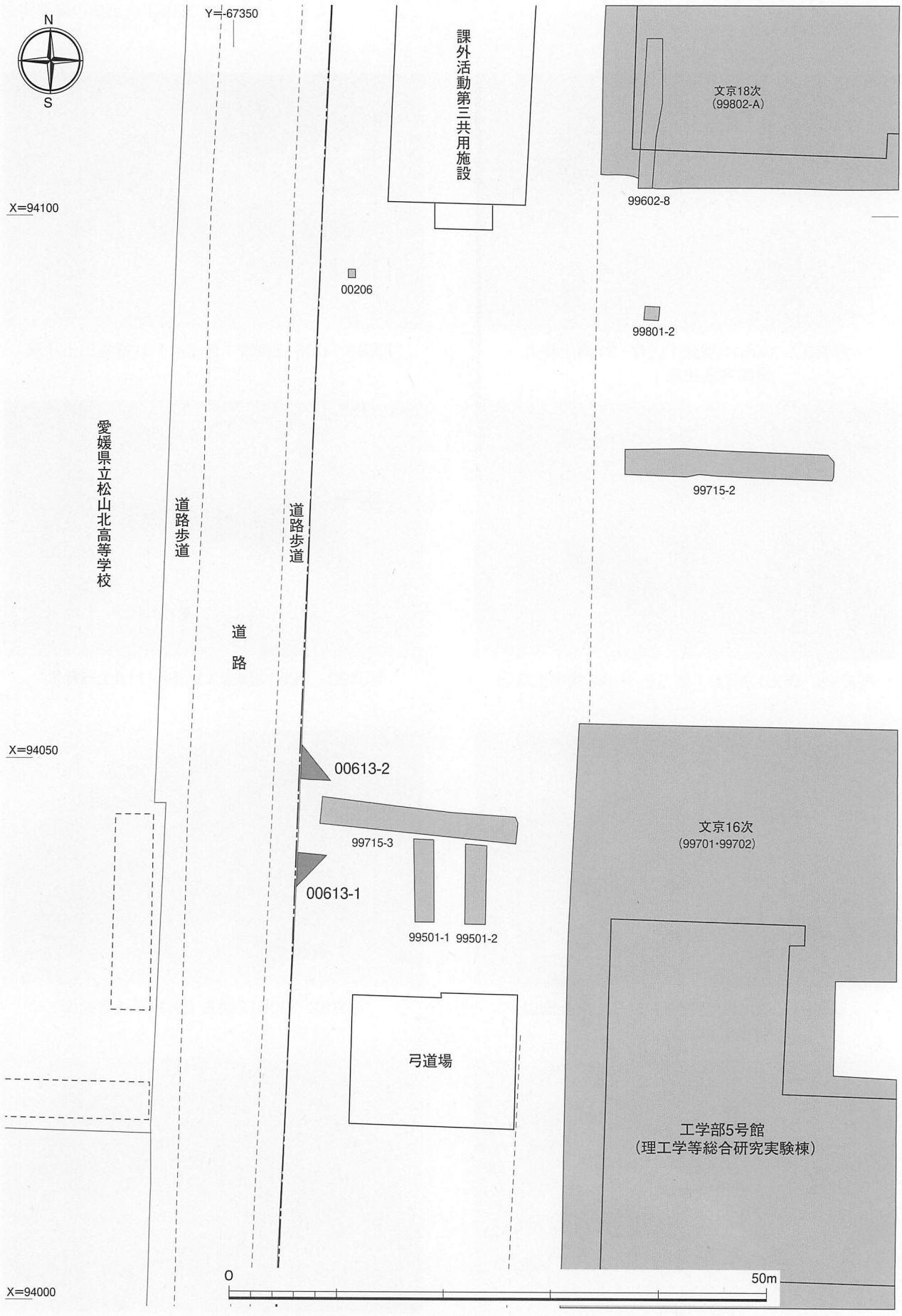


図34　00613調査地点位置図（縮尺 1/500）

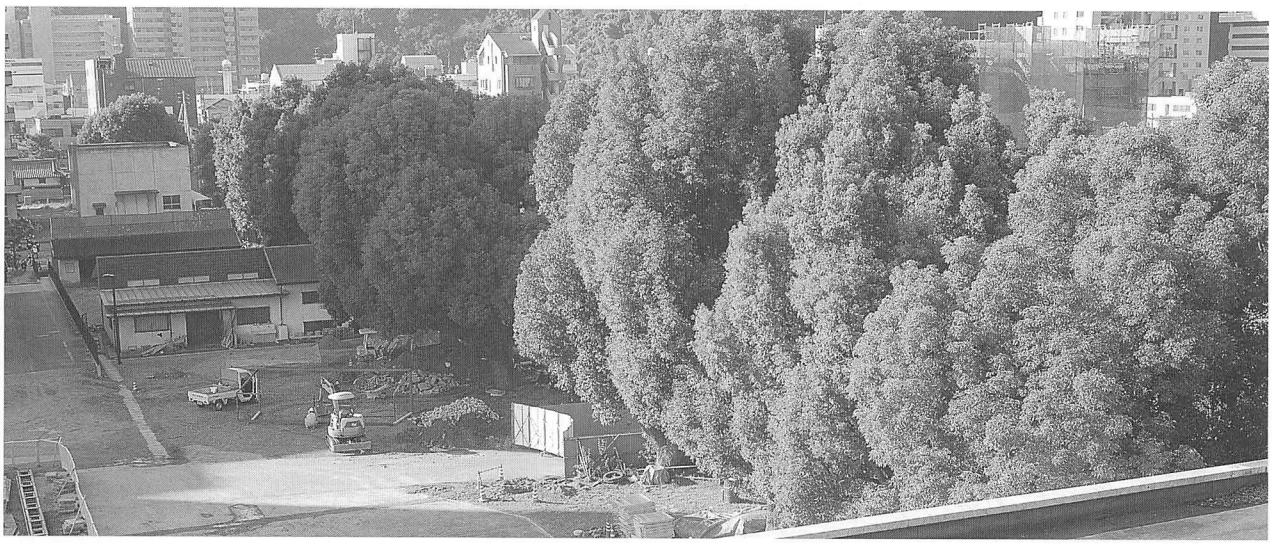


写真95　00613調査区遠景（北東から）

写真96　00613調査１トレンチ全景（南から）

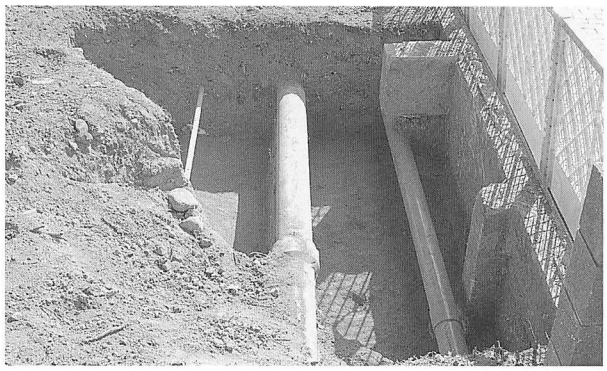


写真97　00613調査２トレンチ全景（北から）

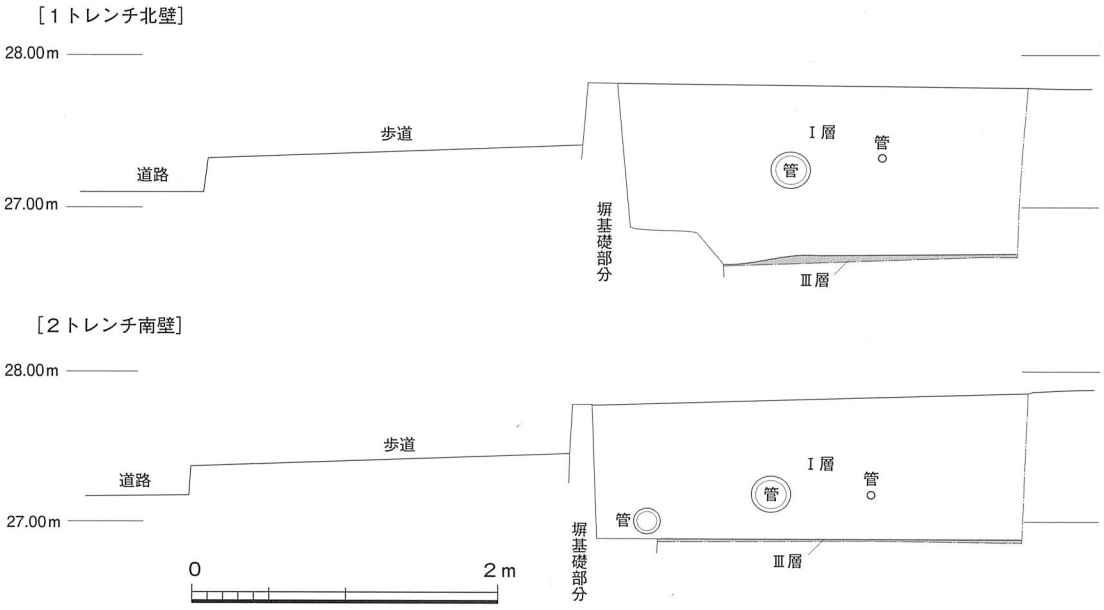


図35　00613調査１・２トレンチ土層断面実測図（縮尺 1/50）

00613 （城北団地）屋外施設等取設工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地
調 査 面 積　８㎡
調 査 期 間　2007年２月19日～２月20日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年１月29日付）

１　調査にいたる経緯

平成19年１月、施設基盤部から城北団地内グラウンドの駐車場アスファルト舗装による掘削工事ならびに駐車場設置に伴う交通規制遮断機基礎による掘削工事の計画が提示された。周辺における既往の調査成果（調査番号99501、99715）から埋蔵文化財への影響が考えられる西側門塀取設工事について、立会調査を実施した。

２　調査の記録

工事地点は２ヶ所で、調査順に南側を１トレンチ、北側を２トレンチとした（図34・35、写真95～97）。

［１トレンチ］

近現代の造成土であるⅠ層が、現地表下0.95mまでつづき、標高26.468mで城北団地全域にわたって設定している基本層序Ⅲ層があらわれた。

［２トレンチ］

１トレンチの北約７mの地点に設けた調査区である。近現代の造成土であるⅠ層が現地表下93cmまでつづき、標高26.845mでⅢ層が出土した。

３　調査後の対応

今回の調査では、城北団地全域で設定している基本層序Ⅲ層の上面を確認できた。Ⅲ層は、調査区西端のブロック塀の基礎部分周辺では破壊されているが、比較的良好な状態で残っている。今後とも、周辺で掘削工事を行う場合には、掘削深度の調整や調査の実施などによって埋蔵文化財の保護に努める必要がある。

（三吉）

00614 （樽味団地）総合研究棟改修機械設備工事に伴う調査

調査地点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地
調査面積　21.6㎡
調査期間　2006年２月26日～３月２日
調査種別　立会調査
調査担当　吉田　広
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年２月21日付）

１　調査にいたる経緯

樽味団地総合研究棟改修工事の計画策定にあたっては、埋蔵文化財調査室と施設基盤部が事前に協議を行い、埋蔵文化財への影響を最小限にとどめ、その上で工事による影響が及ぶ範囲について事前に樽味遺跡８次（調査番号：00608）調査を行った。ところが、その後の工事実施段階で、新たな管路埋設工事等を行う必要が生じ、工事内容が報告された。

新規工事は10ヶ所におよび、それぞれについて周辺の既往調査成果から埋蔵文化財への影響を検討した結果、７ヶ所は埋蔵文化財に影響が及ばない深度にとどまること、あるいは既設管路の再掘削であることが確認でき、残る３ヶ所では工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断でき、発掘調査を実施することとした。

２　調査の記録

調査地点は、樽味遺跡８次調査１区の北東側、同２区の東側、同５区の西側の計３ヶ所である（図９）。調査順に１～３トレンチとした。

［１トレンチ］

農学部本館南側の中庭南西部に位置する（図36、写真98・99）。樽味遺跡８次調査１区の北東に接する南

北幅約1.2m・東西約３mのトレンチである。現地表下約70cmで樽味団地基本層序のⅡ層があらわれた。Ⅱ層は20cm前後の厚さがあり、４層に細分できる。Ⅱ-①層は暗灰黄色砂質土。上部は粘性がやや強いが、下部ほど１～２㎜大の砂粒が多く、砂質が強い。Ⅱ-②層は、灰黄褐色粘質シルト。１～２㎜大の砂粒をやや多く含む。Ⅱ-③層はにぶい黄褐色粘質シルト。Ⅱ-②層より灰色みが強く、きめが細かい。また土器片を含む。Ⅱ-④層は、褐色粘質土。きめが細かくしまりがある。

Ⅱ層の下、現地表下約90cmでⅢ層となる。ただし、このⅢ層は、Ⅰ層下部に含まれた黒褐色土でなく、色調が薄くよりシルト質の強い暗褐色粘質土である。とくに下部はⅣ層との漸移層あるいはⅣ層上部に含めるべきかもしれない。３～５㎜大の角張った砂礫を少量含み、黒褐色シルトの５㎜大の丸いブロックがやや多く混じる。中世土師器細片が出土している。

このⅢ層を掘り下げる途中で、遺構が出土した。径約20cm、深さ約28cmを測る小穴SP-１である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、褐色砂質シルトの大小ブロックが混在し、黒褐色シルトの５㎜大ブロックが多く混じる。中世土師器の細片が出土している。

トレンチ東半部では、一部範囲をさらに掘り下げた。その結果、Ⅲ層は厚さ約20cm、標高41.10mでⅣ層があらわれた。Ⅳ層は褐色砂質シルトで、砂礫をほとんど含まず、きめが細かく、しまりがある。厚さは14cm前後（Ⅳ-①層）。以下、やや茶色みが強く、砂質の強い褐色砂質土（Ⅳ-②層）がつづく。

［２トレンチ］

１トレンチと同じ中庭の北西部に位置する（図36、写真98・100・101）。樽味遺跡８次調査２区東側に設定した東西幅0.6m・南北2.6mのトレンチである。表土のⅠ層は約30cmで、その下層にⅡ層が30cm前後の厚さで堆積する。Ⅱ層は、グライ化の強いオリーブ褐色粘質土（Ⅱ-①層）、灰黄褐色粘質土（Ⅱ-②層）、褐色粘質土（Ⅱ-③層）に分層でき、Ⅱ-②・③層の下面には鉄分が沈着する。現地表下60cm、標高41.38mでⅣ層があらわれるが、部分的にⅢ層が残る。Ⅲ層は暗褐色粘質土で、２～３㎜大の角の取れた砂礫を少量、５㎜大の黒褐色シルトの円形ブロックを少量含む。Ⅳ層は１㎜前後の砂粒を多く含み砂質の強い褐色シルトで、５㎜大のマンガンの沈着がある。２トレンチでは、Ⅲ層から中世土師器細片が出土し、攪乱土層からではあるが青磁片も出土した。

［３トレンチ］

３トレンチは、農学部本館の西南隅部の西側、団地西縁の植栽内に設定した（図37）。南北幅1.5m前後・東西約11mを測る「く」字形のトレンチである（写真102）。調査区中央部には、東西幅約４mの旧廃水槽があり、現地表下200cmまで掘り下げたが、なお攪乱埋

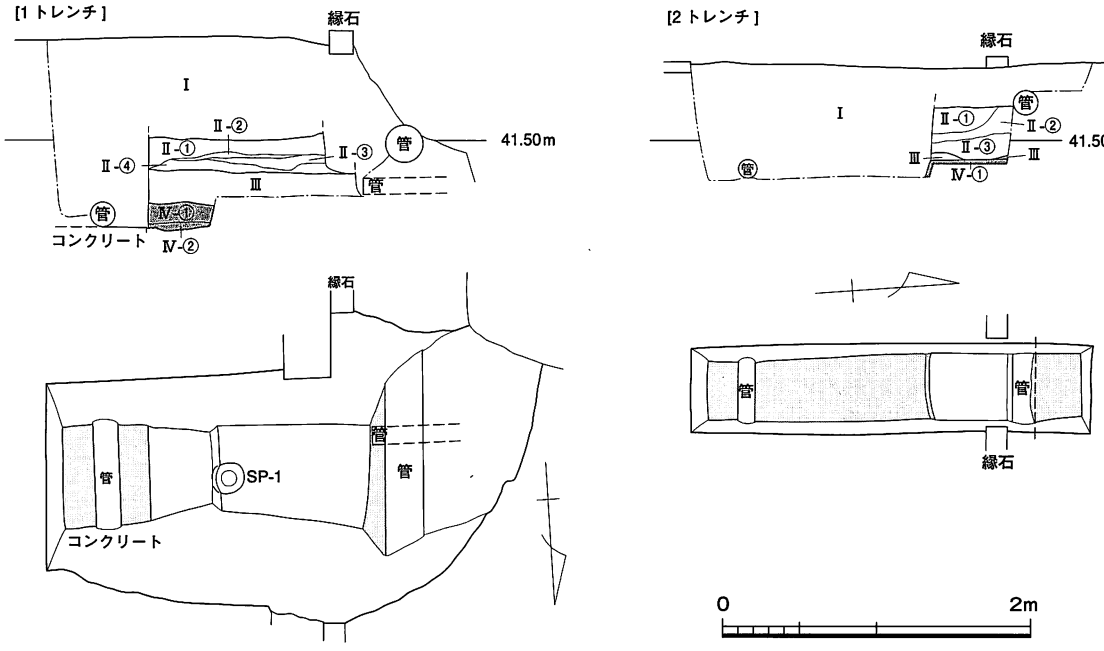


図36　00614調査１・２トレンチ実測図（縮尺 1/50）

写真98　00614調査１・２トレンチ遠景（南から）

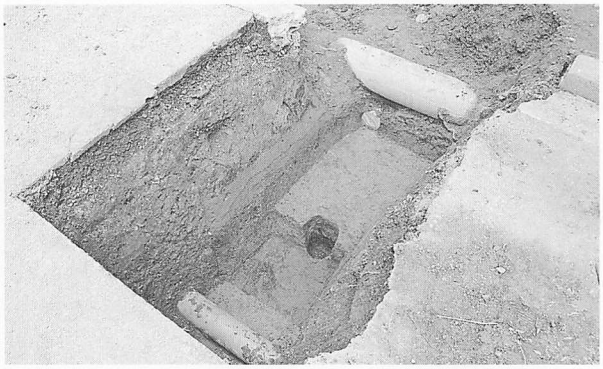


写真99　00614調査１トレンチ（北東から）

写真100　00614調査２トレンチ（北東から）

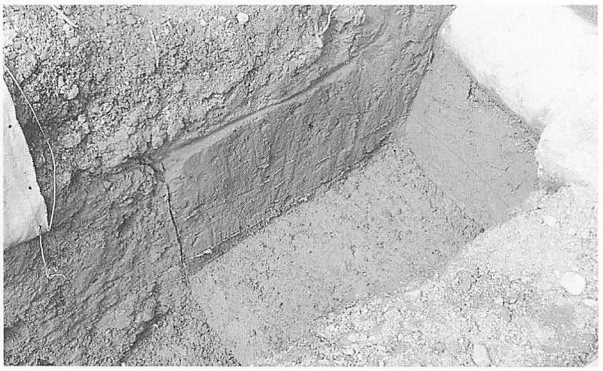


写真101　00614調査２トレンチ西壁土層（北東から）

写真102　00614調査３トレンチ全景（東から）

写真103　00614調査３トレンチ西半部（東から）

写真104　00614調査３トレンチ東半部（西から）

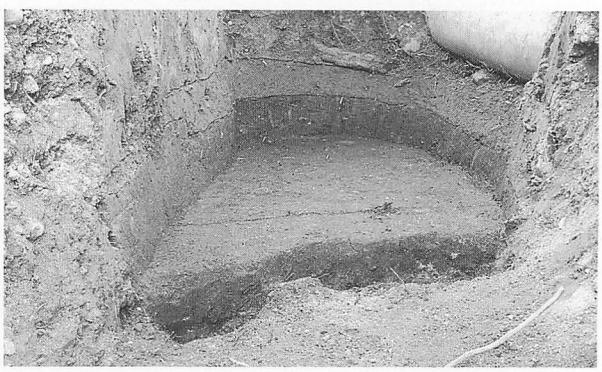


写真105　00614調査３トレンチ東端部のⅢ層出土状況（東から）

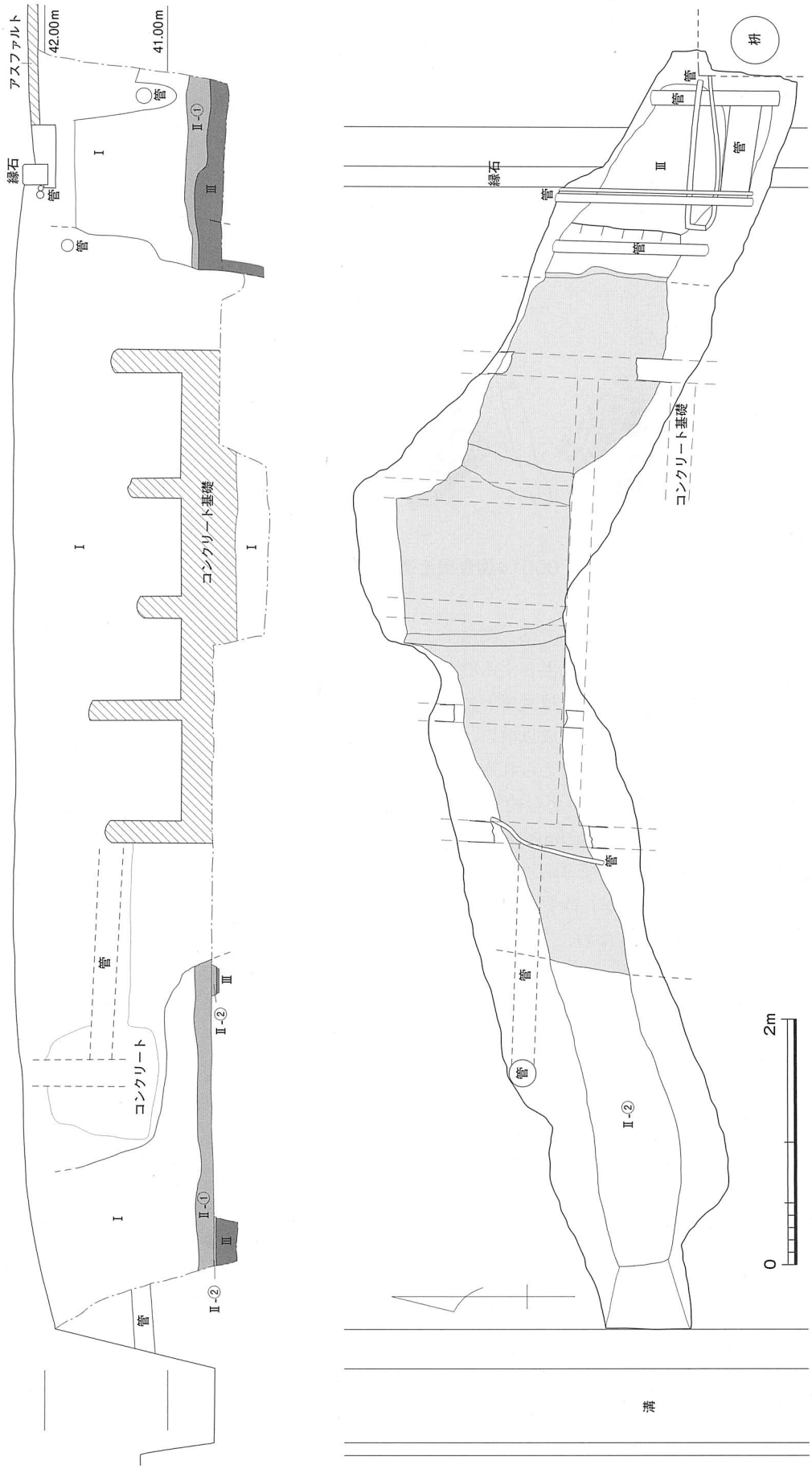


図37　00614調査３トレンチ実測図（縮尺 1/50）

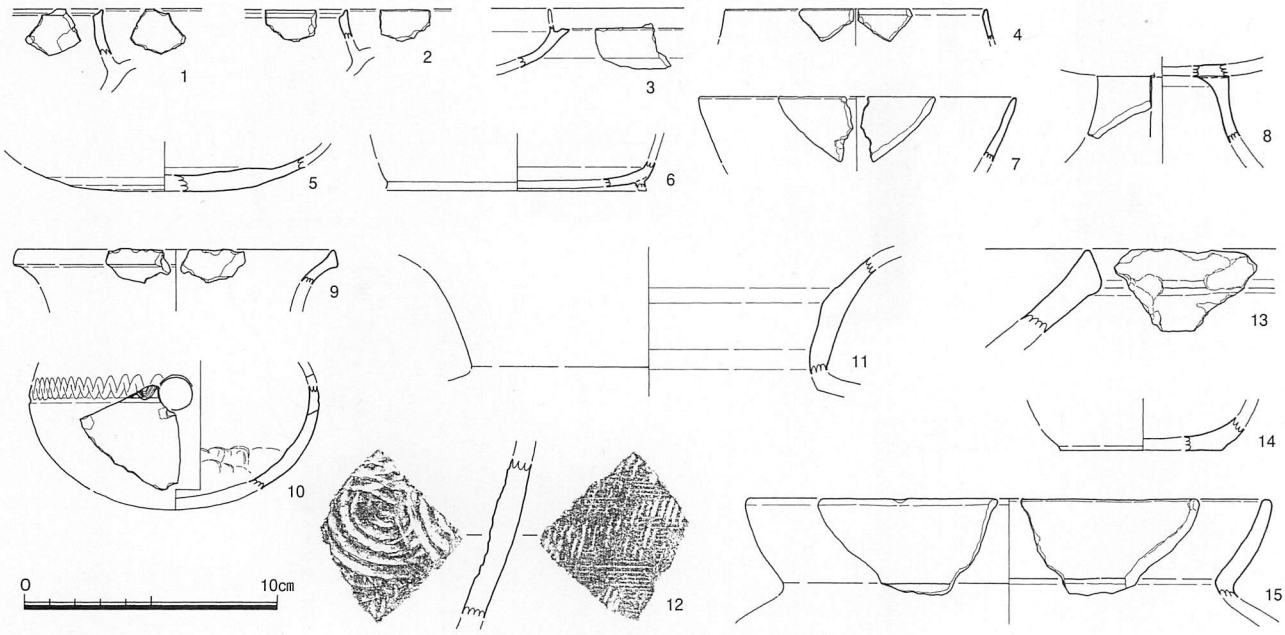


図38　00614調査出土遺物実測図（縮尺 1/3）

め戻し土がつづく。旧廃水槽の掘り形外では、腐植土層以下に、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層がブロック状に混在する層が約80cmあり、一部にはⅣ層が集中して未攪乱層と誤認するような部位もあった。農学部団地造成以前に、大規模な天地返しが行われていることが考えられる。

旧廃水槽の西側では、トレンチ西端から約2.5mの範囲で、現地表下120～150cm、標高40.8m弱でⅡ-①層が出土した。灰黄褐色砂質土で、径３㎜以下の円礫を多く含み、シルト質を若干含むが、砂質が強い。Ⅱ-①層以下の堆積土層を確認するため、Ⅱ-①層の一部を東西で掘り下げた。いずれも、薄いⅡ-②層を挟んで、Ⅲ層が現れた。Ⅱ-②層は黄褐色シルト質土で、砂粒はわずかに含む程度で、粘性がややあり、鉄・マンガン分が少し沈着する。Ⅱ-①層の床土とみられる。Ⅲ層は暗褐色シルト質土で、砂質を少し含み、５㎜前後のマンガン粒が少し沈着する。西端の断割で20cm弱掘り下げたが、下部はⅣ層のにぶい褐色シルトが斑状に多く混在するものの、なおⅢ層が続く（写真103）。

旧廃水槽の東側では、既設の枡や配管のため、調査できた範囲は1.3㎡程度に過ぎない（写真104）。縁石上端から約130cm、標高40.85m前後でⅡ層が出土した。この地点のⅡ層は灰黄褐色砂質土で、トレンチ西側より砂質が強い。その下、標高約40.75mでⅢ層があらわれた。Ⅲ層は暗褐色砂質土で、径３㎜以下の砂礫・砂粒をやや多く含み、しまりと粘性がある。上面には上層からの影響で鉄・マンガン分が沈着する。また、５㎜前後の炭化物粒や古墳後期～中世の遺物が出土している。Ⅲ層を標高40.50mまで、約20cm前後掘り下げたが、なおⅢ層がつづく（写真105）。

３トレンチでは、旧廃水槽の東側から遺物が出土している（図38）。３・６・10・11・13・14はⅠ・Ⅱ層、他はⅢ層から出土。小片で図示していないが、Ⅲ層出土遺物にも古墳時代から古代末・中世初の幅があり、一括して説明する。１～13は須恵器。１～４は坏身口縁部で、５が坏身底部。５世紀末から６世紀代の幅がある。６は坏底部で７世紀後半。７は坏口縁部であるが、８世紀以降に降るとみられる。８は短脚１段高坏で、３方向透かし。６世紀代か。９は壺口縁部。10は胴体部片。孔の一端と、それに切られる沈線１条とクシ描波状文がある。底部は内面に上からの突き出し痕が残り、外面は丁寧なナデが施される。５世紀代に遡る。11は甕頸部、12は甕体部下半片。13は東播系の片口鉢口縁部。11世紀後半。14は土師器坏底部。摩滅により底面の調整は確認できない。15は６世紀代の土師器甕口縁部である。

３　調査の成果

今回の調査では、農学部中庭の１・２トレンチでは、Ⅲ層は土壌化が顕著でなく遺物の包含も少なかったが、SP-１を出土した。一方、団地西縁部の３トレ

ンチでは、中央部に大きく攪乱が及んでいたものの、その東西で安定的なⅢ層が認められ、古墳時代後期から中世に及ぶ遺物が出土した。周辺では、樽味遺跡３次（調査番号：99304）調査で古墳時代中後期の竪穴式住居跡などが出土しており、同様の遺構は、松山市教育委員会の調査により、愛媛大学樽味団地の西側一帯にも広がっていることがわかっている。今回の調査地点付近にも、古墳時代後期を中心として中世に及ぶ遺構が存在するものとみられる。

ただし、３トレンチ東端と、道路を挟んで約４ｍ東の８次調査５トレンチの状況が大きく異なる。報告したように、３トレンチ東端では、Ⅱ層下でⅢ層が出土し、その標高は約40.8ｍを測る。一部で遺構の立ち上がりを確認し、40.4ｍまでⅢ層あるいは遺構埋土が続くが、Ⅳ層は確認していない。対して、８次調査５トレンチでは、現地表下65cm、標高約41.5ｍでⅣ層があらわれ、今回の３トレンチとはⅣ層の検出高に１ｍ以上の差がある。周辺の状況を確認すると、北側約15ｍの３次調査南西隅部ではⅡ層下の標高約40.9ｍでⅢ層とⅣ層が出土し、東側約50ｍの７次調査４トレンチではⅡ層下の標高約40.7ｍでⅢ層、標高約40.3ｍでⅣ層ないしⅤ層が出土している。そして、北東約40ｍの今回の１トレンチでも、Ⅱ層下の標高約41.3ｍでⅢ層、標高約41.1ｍでⅣ層が出土している。つまり、８次調査５トレンチのⅣ層検出高は、周辺旧地形の中でも、かなり突出していることになる。今回の調査と８次調査５トレンチは、調査範囲が狭いので確定はできないが、

①今回の調査区が極端に深い遺構内にある
②８次調査５トレンチ周辺だけが局所的にⅣ層が削平を免れている
③８次調査５トレンチで検出されたⅣ層が、今回の３トレンチの旧廃水槽の掘り形外で確認されたⅣ層が集中する天地返し部分である

などの可能性が考えられる。今後、周辺で調査が行われる際には確認が必要である。（吉田）

00615　（城北団地）理学部総合研究棟等改修（Ⅱ期）電気設備工事に伴う調査

調 査 地 点　松山市文京町２番５号
　　城北団地
調 査 面 積　5.4㎡
調 査 期 間　2007年２月19日～２月20日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成19年２月21日付）

１　調査にいたる経緯

平成19年２月、施設基盤部から理学部本館付近における外灯設置に伴う外灯基礎工事計画が報告され、周辺の既往調査の結果から、埋蔵文化財への影響が考えられる城北団地理学部構内北東部の２ヶ所について立会調査を実施した。

２　調査の記録

調査地点は理学部本館北東角付近の１トレンチと本館北側東半の東屋の西側の２トレンチである（図39）。

［１トレンチ］

理学部本館北東角付近に位置する。現地表下1.39ｍ、標高28.81ｍまで掘り下げを行ったが、真砂土からなる造成土のⅠ層がつづく（図39）。

［２トレンチ］

理学部本館北側、廃棄施設の西に設けたトレンチである。現地表下0.37ｍまでⅠ層と団地造成直前の水田層であるⅡ－１層がつづく。標高29.81ｍ以下にも洪水砂礫層を挟む２枚の水田層を確認でき、上部の洪水砂礫層と水田層をⅡ－２層、下部をⅡ－３層とした（図39）。

Ⅱ－２層は、Ⅱ－２－①～③層からなる。Ⅱ－２－①層は、径２㎜未満の砂礫からなり、小指先大の円礫を含むオリーブ灰色砂礫層である。約30cmの堆積で、水田層を覆う洪水砂層および水田耕作土の一部と考えられる。Ⅱ－２－②層は、オリーブ灰色シルト質土の水田耕作土層で、径２～３㎜の砂礫が混じる。Ⅱ－２－③層は径２～３㎜の砂礫が多く混じる褐色シルト質土層で、鉄分・マンガンの沈着により赤褐色を呈する。床土層にあたる。Ⅱ－３層は、径１～２㎜の砂礫を含む灰褐色シルト質土の水田耕作土層のⅡ－３－①層と、

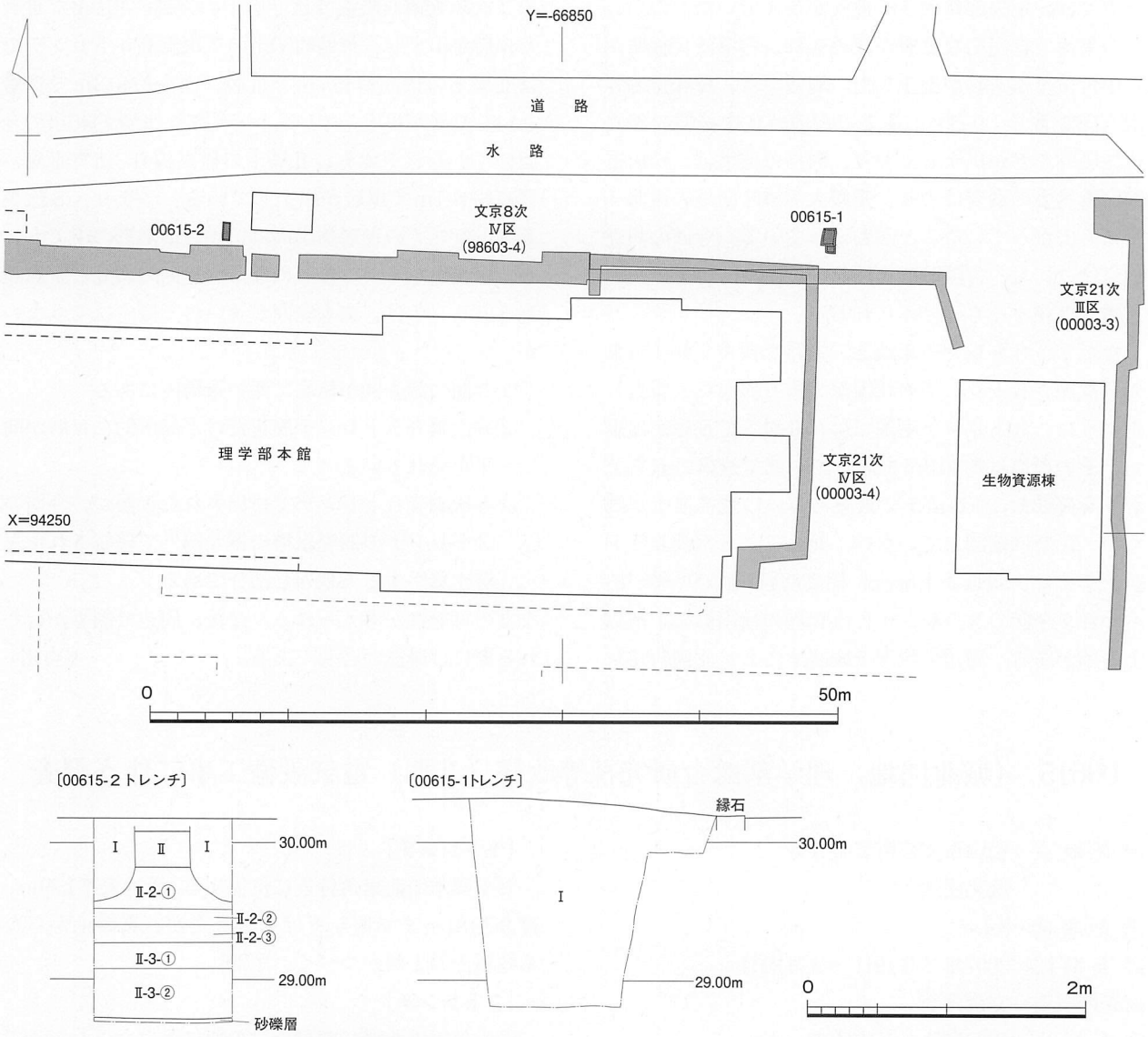


図39　00615調査位置および１・２トレンチ土層柱状図（縮尺 1/500、1/50）

褐色シルト質土のⅡ-３-②層から構成される。

Ⅱ-３層を掘り抜くと、現地表下1.45mで径１～３㎜の灰褐色砂礫層があらわれた。ラミナが発達する河川堆積物である。

いずれの層からも出土遺物は出土しておらず、水田の時期は確定できないが、文京遺跡における基本層序Ⅱ層以下の堆積であることから、近世以前のものと推定される。

３　調査のまとめ

今回の調査では、２トレンチで近世以前の水田層を確認できた。これまで理学部構内南東部で行われた文京遺跡21・24次調査では古代～中世の水田層が出土している。土層の堆積関係から、２トレンチで出土した水田層は、同時期の水田層である可能性が高い。今後周辺における調査で、時期を特定していく必要がある。

（三吉）

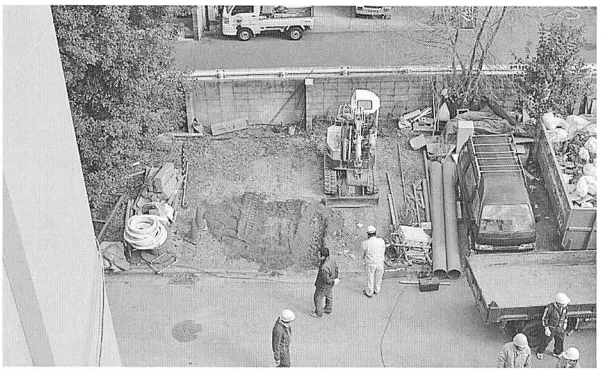


写真106　00615調査１トレンチ遠景（南から）

写真107　00615調査１トレンチ西壁土層

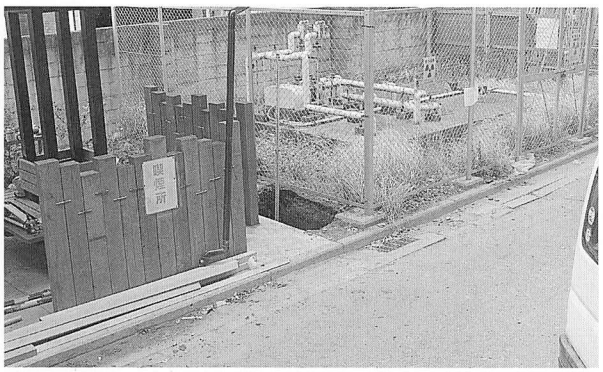


写真108　00615調査２トレンチ近景（南西から）

写真109　00615調査２トレンチ東壁土層

表６　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧（2007年12月現在）

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積（㎡）	報告・備考
97501	城北	文京	１次	本格	工学部海洋工学科校舎新営工事	19750801～19750824	750	松山市教育委員会調査。松山市報11
98001	城北	文京	２次	本格	工学部資源化学科新営工事	19800708～19800930	600	松山市教育委員会調査。松山市報28
98101	城北	文京	３次	本格	法文学部校舎新営工事	19820110～19820325	800	松山市教育委員会調査。松山市報28
98201	城北	文京	４次	本格	松山市東中学校校舎建設工事	19820803～19820826	750	松山市教育委員会調査。松山市報30
98301	城北	文京		立会	雨水管・汚水管・ガス管埋設		1,374	
98302	城北	文京		立会	教育学部校舎建設			
98401	城北	文京	５次	本格	工学部危険物貯蔵庫新営工事	19841026～19841028	18	松山市教育委員会調査。松山市報28
98601	城北	文京	６次	本格	城北団地基幹整備	19860100～	99	人類考古学教室調査。
98602	城北	文京	７次	本格	法文学部校舎新営工事	19860800～19860900	142	人類考古学教室調査。
98603	城北	文京	８次	本格	基幹整備事業	19861125～19870218	854	人類考古学教室調査。愛大埋文報Ⅱ
98604	樽味	樽味		試掘	連合農学研究科校舎新営計画	19870109	5	愛大埋文報Ⅰ
98605	鷹子	鷹子		試掘	国際交流会館新営計画	19870116	47	愛大埋文報Ⅴ
98701	鷹子	鷹子	１次	本格	国際交流会館新営工事	19870720～19870920	962	愛大埋文報Ⅰ
98702	樽味	樽味		試掘	連合農学研究科校舎新営計画	19870820～19870821	18	愛大埋文報Ⅴ
98703	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校課外活動施設新営計画	19870820	6	愛大埋文報Ⅴ
98704	樽味	樽味	１次	本格	連合農学研究科校舎新営工事	19871028～19871217	684	愛大埋文報Ⅴ
98705	城北	文京		試掘	プール廻り浄化装置増設計画	19871113	2	愛大埋文報Ⅴ
98706	城北	文京	９次	本格	プール浄化装置増設工事	19880111～19880129	62	愛大埋文報Ⅱ
98801	城北	文京	10次	本格	工学部情報工学科校舎新営工事	19880919～19890303	1,075	愛大埋文報Ⅲ
98802	城北	文京		試掘	基準点等設置計画	19881013	5	愛大埋文報Ⅴ
98803	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画（その１）	19881208	2	愛大埋文報Ⅴ
98804	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設計画（その２）	19881212	1	愛大埋文報Ⅴ
98805	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎排水施設取設工事	19890207	6	愛大埋文報Ⅴ
98806	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎給水施設取設工事	19890209～19890210	3	愛大埋文報Ⅴ
98901	城北	文京	11次	本格	法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事	19890801～19890829	85	愛大埋文報Ⅱ
98902	城北	文京		立会	電波障害用の外線工事	19900303	2	愛大埋文報Ⅴ
99001	城北	文京		試掘	囲障工事及び教育学部自転車置場新設計画	19900808	3	愛大埋文報Ⅴ
99101	樽味	樽味	２次	本格	農学部研究実験棟新営工事	19920107～19920228	506	愛大埋文報Ⅳ
99102	津田山			試掘	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設計画	19910608	13	愛大埋文報Ⅴ
99103	城北	文京		試掘	囲障（Ⅱ期）改修及び外灯改修計画	19910821	36	愛大埋文報Ⅴ
99201	樽味	樽味		立会	農学部屋外ガス本管改修工事	19920526	6	愛大埋文報Ⅴ
99202	城北	文京		試掘	東側囲障改修計画	19920730	3	愛大埋文報Ⅴ
99203	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営工事に伴う電気工事計画	19920826	1	愛大埋文報Ⅴ
99204	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営計画（その１）	19920826	3	愛大埋文報Ⅴ
99205	山越			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その１）	19920828	57	愛大埋文報Ⅴ
99206	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事（その１）	19920921	3	愛大埋文報Ⅴ
99207	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事（その２）	19920921	2	愛大埋文報Ⅴ
99208	城北	文京		立会	外灯設備改修工事	19921026	2	愛大埋文報Ⅴ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99209	持田	持田団地構内		立会	教育学部附属小学校給水設備工事	19921026	11	愛大埋文報Ⅴ
99210	重信			試掘	医学部附属病院駐車場取設計画	19921027	40	愛大埋文報Ⅴ
99211	重信			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その２）	19930120～19930121	54.6	愛大埋文報Ⅴ
99212	城北	文京		立会	情報通信設備工事	19930308～19930309	11.8	愛大埋文報Ⅴ
99213	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営計画（その２）	19930322	6.8	愛大埋文報Ⅴ
99214	樽味	樽味		立会	自転車置場取設その他工事	19930323	3.3	愛大埋文報Ⅴ
99215	城北	文京		立会	交通規制遮断機取設工事	19930324	2	愛大埋文報Ⅴ
99301	重信			試掘	医学部看護学科校舎新営計画	19930524	20	愛大埋文報Ⅴ
99302	樽味	樽味		立会	附属図書館農学部分館新営（樹木移植）工事	19930624～19930625	14	愛大埋文報Ⅴ
99303	樽味	樽味		試掘	農学部自転車置場取設計画	19930627	80.8	愛大埋文報Ⅴ
99304	樽味	樽味	３次	本格	附属図書館農学部分館新営工事	19930823～19931006	258.5	愛大埋文報Ⅵ
99305	城北	文京		立会	大学会館廻り道路整備に伴う（樹木移植）工事	19931109	2	愛大埋文報Ⅴ
99306	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営（外灯設備管路）計画	19931124	3	愛大埋文報Ⅴ
99307	樽味	樽味		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その１）	19931124	7	愛大埋文報Ⅴ
99308	城北	文京		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その２）	19931125	7.9	愛大埋文報Ⅴ
99309	持田	持田団地構内		確認	1993年度構内遺跡確認調査（その１）	19931224～19931225	39	愛大埋文報Ⅴ
99310	城北	文京		立会	情報機器更新電源容量増設工事	19940118	3.7	愛大埋文報Ⅴ
99311	樽味	樽味		立会	農学部附属図書館新営（配水管埋設）工事	19940208～19940215	19.8	愛大埋文報Ⅴ
99312	樽味	樽味		立会	農学部自転車置場排水管路工事	19940208	29.7	愛大埋文報Ⅴ
99313	城北	文京		試掘	基幹整備（屋外環境）計画	19940209～19940216	14.8	愛大埋文報Ⅴ
99314	城北	文京		試掘	工学部研究実験棟新営計画	19940329	37.9	愛大埋文報Ⅴ
99401	北吉井	桑原西稲葉	３次	立会	東長戸団地他環境整備（駐車場整備、配管設置）工事（その１）	19940510～19940518	54.5	愛大埋文報Ⅸ
99402	東長戸			立会	東長戸団地他環境整備（駐車場整備、配管設置）工事（その２）	19940517	9	愛大埋文報Ⅴ
99403	樽味	樽味		試掘	環境整備（附属農業高等学校他自転車置場取設）計画	19940524	7.8	愛大埋文報Ⅴ
99404	城北	文京		立会	城北団地他環境整備（単車置場整備）工事	19940607	1.4	愛大埋文報Ⅴ
99405	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（自転車置場設置）計画	19940608	81.3	愛大埋文報Ⅴ
99406	城北	文京		立会	城北団地他環境整備（自転車置場・配水管設置）工事	19940610	5.3	愛大埋文報Ⅴ
99407	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（排水枡及び管路取設）計画	19940801	5.9	愛大埋文報Ⅴ
99408	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（電気配管路取設）計画	19940801	3.2	愛大埋文報Ⅴ
99409	城北	文京		立会	工学部岩盤切削試験機設置工事	19940927	1.1	愛大埋文報Ⅴ
99410	城北	文京	12次	本格	工学部校舎新営（Ⅰ期）工事	19941110～19950726	1,183	愛大埋文報Ⅴ
99411	津田山			試掘	教育学部附属養護学校野外施設（東屋）設置計画	19950127	33	愛大埋文報Ⅴ
99501	城北	文京		立会	教育学部運動場内鉄棒移設工事	19950411～19950412	48	愛大埋文報Ⅶ
99502	城北	文京		試掘	教養部テニスコート（事務局北側）改修計画	19950801	9	愛大埋文報Ⅶ
99503	城北	文京		立会	工学部南側囲障工事	19950801	3	愛大埋文報Ⅶ
99504	城北	文京		試掘	理学部構内井戸工事計画	19950802	4	愛大埋文報Ⅶ
99505	山越	山越		試掘	防球ネット取設計画	19950802	7	愛大埋文報Ⅶ
99506	城北	文京	13次	本格	地域共同研究センター新営工事	19951017～19960412	890	愛大埋文報Ⅻ
99507	樽味	樽味		立会	公共下水道桝取設工事	19951114	2	愛大埋文報Ⅶ
99508	北吉井	桑原西稲葉		立会	公共下水道設置工事	19951115	1.6	愛大埋文報Ⅶ
99509	城北	文京		立会	北西通用門改修工事	19951116	3	愛大埋文報Ⅶ
99510	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室改修工事	19960131	1	愛大埋文報Ⅶ
99511	城北	文京		立会	基幹整備（電線管等）工事	19960213～19960220	34	愛大埋文報Ⅶ
99512	城北	文京		立会	事務局ガス管改修工事	19960311	2	愛大埋文報Ⅶ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99601	城北	文京	14次	本格	工学部校舎新営（Ⅱ期）工事	19960520～19970331	1,349	愛大埋文報Ⅶ
99602	城北	文京	15次	確認	1996年度構内遺跡確認調査	19961113～19961209	252.9	愛大埋文報Ⅶ
99603	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校校舎新営計画	19961128～19961212	21.7	愛大埋文報Ⅶ
99604	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校温室新営計画	19961129	5.1	愛大埋文報Ⅶ
99605	樽味	樽味		試掘	農学部構内光ケーブル敷設計画	19961129	1	愛大埋文報Ⅶ
99606	持田	持田団地構内		立会	教育学部附属中学校プール改修その他工事	19970204	3.6	愛大埋文報Ⅶ
99701	城北	文京	16次A区	本格	工学部校舎新営第Ⅲ期工事（その１）	19970428～19971222	1,384	愛大埋文報Ⅷ
99702	城北	文京	16次B区	本格	工学部校舎新営第Ⅲ期工事（その２）	19970409～19970729	627	愛大埋文報Ⅷ
99703	樽味	樽味		本格	ＡＴＭ－ＬＡＮ整備工事に伴う調査	19970414～19970417	131	愛大埋文報Ⅷ
99704	城北	文京		立会	事務局案内板取設工事に伴う調査	19970804	2.7	愛大埋文報Ⅷ
99705	持田	持田団地構内		立会	構内光ケーブル布設工事に伴う調査	19970804	4.5	愛大埋文報Ⅷ
99706	持田	持田団地構内		試掘	北側囲障改修計画	19970805～19970806	6.1	愛大埋文報Ⅷ
99707	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校校舎新営計画	19970806～19970807	12.2	愛大埋文報Ⅷ
99708	樽味	樽味		立会	排水工事	19970807	2.4	愛大埋文報Ⅷ
99709	城北	文京		立会	工学部校舎新営電気設備工事（その２）	19970818～19970918	12.2	愛大埋文報Ⅷ
99710	北吉井	桑原西稲葉	４次	本格	屋外排水管改修工事	19971008～19971201	100.4	愛大埋文報Ⅸ
99711	北吉井	桑原西稲葉	５次	立会	屋外ガス管改修工事	19971112～19971118	32	愛大埋文報Ⅸ
99712	樽味	樽味	４次	本格	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19971125～19980204	1,168	愛大埋文報Ⅸ
99713	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校運動場東側防護ネット及び第３棟東側フェンス増設計画	19971218	6.1	愛大埋文報Ⅷ
99714	樽味	樽味		立会	附属農業高等学校校舎埋蔵文化財調査に伴う支障建物（農機舎及び車庫）整備工事	19980204～19980206	186.5	愛大埋文報Ⅷ
99715	城北	文京	17次	確認	1997年度構内遺跡確認調査	19980302～19980310	154	愛大埋文報Ⅷ
99716	樽味	樽味		立会	附属農業高等学校運動場東側防護ネット及び第３棟東側フェンス増設工事	19970311～19970312	21.2	愛大埋文報Ⅷ
99717	城北	文京		緊急	工学部校舎新営に伴う外表施設整備工事	19980217		愛大埋文報Ⅷ
99801	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	19981108	1	愛大埋文報Ⅷ
99802	城北	文京	18次	本格	総合情報処理センター新営工事	19981215～19990802	1,192	愛大埋文報XVI
99803	城北	文京		立会	工学部本館等事務室改修機械設備工事	19981214	0.7	愛大埋文報Ⅷ
99804	樽味	樽味		試掘	遺伝子実験施設新営その他工事計画	19990128～19990129	21.8	愛大埋文報Ⅷ
99805	城北	文京		立会	教育学部２号館南消火用水漏れ改修工事	19990311	3	愛大埋文報Ⅷ
99806	城北	文京		立会	理学部本館南消火栓管路改修工事	19990316	1	愛大埋文報Ⅷ
99807	樽味	樽味	５次	本格	遺伝子実験施設新営その他工事	19990316～19990721	979	愛大埋文報Ⅸ
99808	重信			試掘	医学部附属病院病棟建設計画	19990331～19990401	2.5	愛大埋文報Ⅷ
99809	城北	文京		立会	学生会館ガス管改修工事に伴う調査	19990603	1	愛大埋文報Ⅷ
99901	城北	文京	19次Ⅰ区	本格	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事（１期）	19990907～19990913	31	愛大埋文報Ⅹ
99902	城北	文京	19次Ⅱ区	本格	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事（２期）	19991201～19991217	43	愛大埋文報Ⅹ
99903	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（１期）	19991006	1.4	愛大埋文報Ⅹ
99904	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（２期）	19991025～19991029	25	愛大埋文報Ⅹ
99905	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（３期）	19991124～19991128	31	愛大埋文報Ⅹ
99906	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（４期）	20000128	2.5	愛大埋文報Ⅹ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
99907	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	20000125	20	愛大埋文報X
99908	城北	文京		立会	理工学等総合実験棟新営電気設備工事（その２）	20000201	8	愛大埋文報X
99909	城北	文京		立会	総合情報処理センター新営電気設備工事	20000208	8	愛大埋文報X
99910	城北	文京	20次	本格	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（Ｓ．Ｖ．Ｂ．Ｌ．）新営工事	20000214～20000620	588	愛大埋文報XIV
99911	城北	文京		試掘	大学会館改修計画	20000216	9	愛大埋文報X
99912	城北	文京		立会	外灯移設工事	20000216	1	愛大埋文報X
99913	樽味	樽味		確認	農学部生態観察実験のための水田設置工事	20000310	1	愛大埋文報X
99914	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室情報通信設備工事	20000313	19	愛大埋文報X
99915	城北	文京		立会	法文学部講義棟空調電源工事	20000313	1	愛大埋文報X
99916	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19990507	－	愛大埋文報X
00001	城北	文京		立会	大学会館改修工事	20000829～20000830	9	愛大埋文報X
00002	城北	文京		試掘	教育学部クレイテニスコート改修計画	20000913	2.2	愛大埋文報X
00003	城北	文京	21次	本格	基礎科学総合研究棟新営工事（Ⅰ期）	20010115～20010909	1,644	愛大埋文報X
00004	山越	山越		立会	山越運動場上水管改修工事	20010115	7	愛大埋文報X
00005	城北	文京	22次	確認	2000年度遺跡範囲確認調査	20010123～20010124	33	愛大埋文報X
00006	城北	文京		立会	教育学部クレイテニスコート改修工事	20010123～20010124	1	愛大埋文報X
00007	城北	文京		立会	法文学部掲示板設置工事	20010315	5	愛大埋文報X
00008	御幸			立会	外灯設備改修その他工事	20010316	3	愛大埋文報X
00101	城北	文京			同窓会連合会による五葉松移植工事	20010509	3	愛大埋文報XI
00102	樽味	樽味		試掘	農学部寄附建物新営計画	20010607	16	愛大埋文報XI
00103	城北	文京	23次	本格	四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	20010626～20010709	17.3	愛大埋文報XIV
00104	城北	文京		立会	工学部屋外給水管布設替工事	20010801	0.6	愛大埋文報XI
00105	城北	文京	24次	本格	総合研究棟新営（Ⅱ期）工事	20011001～20020326	640	愛大埋文報XI
00106	樽味	樽味	6次	本格	農学部寄付建物新営工事	20011115～20020206	1,205	愛大埋文報XI
00107	城北	文京		立会	事務局構内外灯設備移設工事	20011121～20011127	6	愛大埋文報XI
00108	城北	文京		立会	教育学部４号館便所改修電気設備工事	20020326	1.5	愛大埋文報XI
00201	樽味	樽味	7次	本格	農学部２号館改修工事	20020403～20020523	170	愛大埋文報XI
00202	城北	文京	25次	本格	情報教育棟新営工事	20020601～20021218	1,022	愛大埋文報XI
00203	城北	文京		立会	情報教育棟用地埋蔵文化財調査に伴う土木工事	20020515～20020517	1	愛大埋文報XI
00204	城北	文京	26次	本格	総合研究棟等改修工事	20020719～20020809	144.7	愛大埋文報XI
00205	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20021021	3	愛大埋文報XI
00206	城北	文京		試掘	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事計画（その２）	20021127	0.5	愛大埋文報XI
00207	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気設備工事	20021129	1.5	愛大埋文報XI
00208	山越	山越		確認	2002年度構内遺跡確認調査	20021225～20021226	65	愛大埋文報XI
00209	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気・機械設備工事	20030123～20030129	22.6	愛大埋文報XI
00210	城北	文京		立会	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	20030115	1.3	愛大埋文報XI
00211	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20030303～20030304	1.9	愛大埋文報XI
00301	城北	文京	27次	本格	総合研究実験棟新営工事	20030529～20031024	703	愛大埋文報XIII
00302	城北	文京		立会	総合研究実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	20030527	39	愛大埋文報XIII
00303	城北	文京		立会	放送大学愛媛学習センターサイン取設工事	20030905	3.1	愛大埋文報XIII
00304	城北	文京	28次	本格	理学部総合研究棟改修工事	20031201～20031216	45.1	愛大埋文報XIII
00305	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040209～20040210	12	愛大埋文報XIII
00306	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事	20040304～20040305	1.4	愛大埋文報XIII
00307	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040304	2.6	愛大埋文報XIII
00401	城北	文京		立会	事務局敷地内看板基礎工事	20040716	2.5	愛大埋文報XV

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
00402	樽味・城北	樽味・文京		立会	避難標識整備事業関連工事	20050124・20050131	2.6	愛大埋文報XV
00403	城北	文京		立会	工学部講義棟便所改修電気設備工事	20050301	8.7	愛大埋文報XV
00404	城北	文京		立会	給与福利課事務室新営電気・機械設備工事	20050324～20050329	3.5	愛大埋文報XV
00405	御幸			立会	寄付物件取付工事	20050223	2	愛大埋文報XV
00501	城北	文京		立会	生物環境試料バンク改修工事	20050621～20050707	78.5	愛大埋文報XVII
00502	城北	文京		立会	基幹整備（舗装等）工事	20050824～20050826	38.6	愛大埋文報XVII
00503	城北	文京		試掘	共通教育講義棟避雷設備設置工事	20050824～20050825	12.4	愛大埋文報XVII
00504	東長戸			立会	東長戸宿舎内電柱改修工事	20050831	0.3	愛大埋文報XVII
00505	東長戸			立会	東長戸宿舎内電柱撤去工事	20051028	0.25	愛大埋文報XVII
00506	城北	文京		立会	事務局構内電柱建替工事（その１）	20051104	0.9	愛大埋文報XVII
00507	城北	文京		立会	事務局構内電柱建替工事（その２）	20051114	0.3	愛大埋文報XVII
00508	城北	文京		試掘	法文学部屋根付駐輪場設置計画	20051115	9.8	愛大埋文報XVII
00509	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校暖房蒸気漏修理工事	20051221	7.8	愛大埋文報XVII
00510	城北	文京		立会	法文学部講義棟周辺環境整備に伴う樹木移植工事	20060130	3.2	愛大埋文報XVII
00511	重信			試掘	医学部附属病院院内保育所設置計画	20060207	5	愛大埋文報XVII
00512	城北	文京		試掘	法文学部講義棟周辺環境整備計画	20060221	4.3	愛大埋文報XVII
00513	城北	文京		試掘	教育学部２号館等空調設備電源工事	20060228	2.7	愛大埋文報XVII
00514	城北	文京		試掘	工学部２号館２階女子便所改修電気設備工事	20060228	1.5	愛大埋文報XVII
00515	城北	文京		立会	法文学部屋根付駐輪場設置工事	20060302～20060303	24.2	愛大埋文報XVII
00601	持田	持田団地構内		試掘	教育学部附属中学校校舎新営工事	20060403～20060407	46.5	本書
00602	樽味	樽味		立会	農学部上水道水漏れ修繕工事	20060513	0.5	本書
00603	樽味	樽味		立会	農学部敷地内の電柱建て替え工事	20060821	0.7	本書
00604	持田	持田団地構内	1次	本格	教育学部附属中学校校舎新営工事	20060823～20060929	292	本書
00605	畑寺			試掘	附属農業高等学校果実収納庫新営工事	20060929	35	本書
00606	畑寺			確認		20060929	2750	本書
00607	重信			立会	医学部及び附属病院敷地内の電柱建て替え工事	20061109～20061110	18	本書
00608	樽味	樽味	8次	本格	総合研究棟改修工事	20061204～20070126	42	本書
00609	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校ボイラー室新設工事	20061221～	2.9	本書
00610	城北	文京		立会	教育学部４号館耐震補強工事	20070126～	12	本書
00611	城北	文京	30次	本格	宮前川架橋取設他工事	20070205～20070208	17.7	本書
00612	城北	文京	31次	立会	法文学部２号館非常階段取設工事	20070208～20070226	25	本書
00613	城北	文京		立会	屋外施設等取設工事	20070219～20070220	8	本書
00614	樽味	樽味		立会	総合研究棟改修機械設備工事	20070226～20070302	21.6	本書
00615	城北	文京		立会	理学部総合研究棟（Ⅱ期）等改修電気設備工事	20070307	5.4	本書
00701	城北	文京		試掘	共通教育講義棟耐震補強工事計画	20070427	9.2	
00702	持田	持田団地構内		試掘	教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事計画	20070515	9.4	
00703	城北	文京		試掘	法文学部講義棟耐震改修その他工事計画	20070521	3	
00704	城北	文京		試掘	工学部２号館耐震改修その他工事計画	20070521	1.5	
00705	城北	文京		試掘	教育学部２号館耐震改修その他工事計画	20070522～20070523	11.8	
00706	城北	文京		試掘	附属図書館耐震改修その他工事計画	20070523～20070528	18	
00707	城北	文京		試掘	共通教育管理棟耐震改修その他工事計画	20070521～20070530	27.8	
00708	城北	文京		立会	弓道場的場防矢ネット取設工事	20070612～20070613	13.2	
00709	持田	持田団地構内	2次	本格	教育学部附属小学校本館等耐震改修その他工事	20070724～20070810		
00710	城北	文京	32次	本格	附属図書館耐震改修その他工事	20070801～20070821	23	ただし、20070907に追加調査

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積(㎡)	報告・備考
00711	城北	文京	33次	本格	法文学部講義棟耐震改修その他工事	20070820～20071024	161.5	
00712	城北	文京	34次	本格	共通教育管理棟耐震改修その他工事	20070820～		
00713	樽味	樽味		試掘	農学部制御化農業実験実習棟外上水道引込工事	20071102～20071102	0.6	
00714	樽味	樽味		立会	育成ハウス設置工事	20071102	2.1	
00715	御幸			確認		20071217		

[関連文献]
松山市文化財調査報告書11. 文京遺跡. 1976
松山市文化財調査報告書28. 文京遺跡－第２・３・５次調査－. 1992
松山市文化財調査報告書30. 道後城北遺跡群. 1992
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅰ. 鷹子・樽味遺跡の調査. 1989
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ. 文京遺跡第８・９・11次調査. 1990
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ. 文京遺跡第10次調査. 1991
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ. 樽味遺跡Ⅱ－樽味遺跡２次調査報告－. 1993
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅴ. 愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ－1987～1994年度における立会・試掘確認調査成果の報告－. 1997
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅵ. 樽味遺跡Ⅲ－樽味遺跡３次調査報告－. 1997
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅶ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1995･1996年度－. 2001
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅷ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997･1998年度－. 2002
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅸ. 樽味遺跡Ⅳ－樽味遺跡４次調査・樽味遺跡５次調査・桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査－. 2003
愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅹ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1999･2000年度－. 2003
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅠ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2001･2002年度－. 2004
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅡ. 文京遺跡Ⅲ－文京遺跡13次調査報告－. 2004
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅢ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2003年度－. 2005
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅣ. 文京遺跡Ⅳ－文京遺跡20次調査・文京遺跡23次調査－. 2005
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅤ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2004年度－. 2006
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅥ. 文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査－. 2007
愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅦ. 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2005年度－. 2007

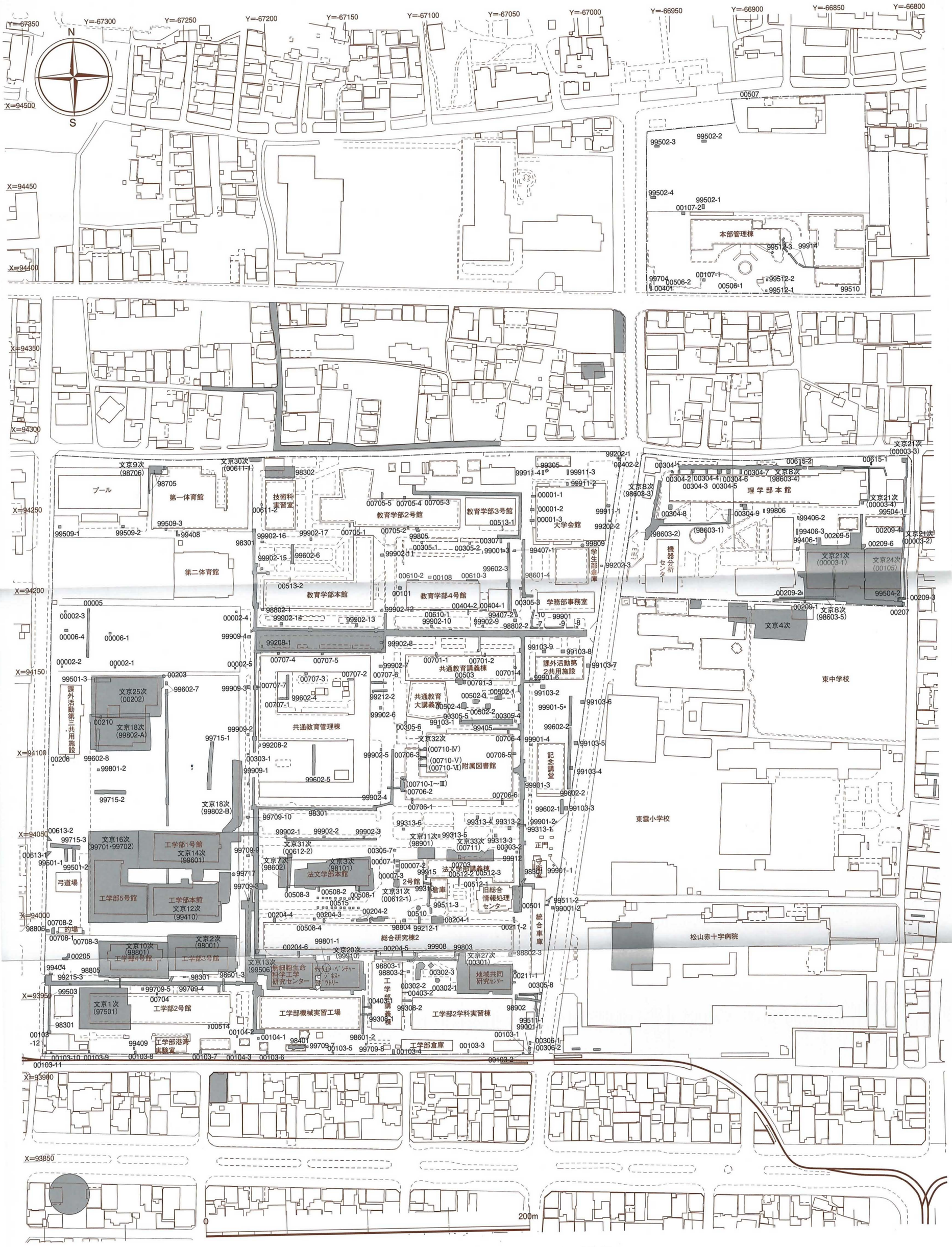


図40　城北団地（文京遺跡）における既往調査地点

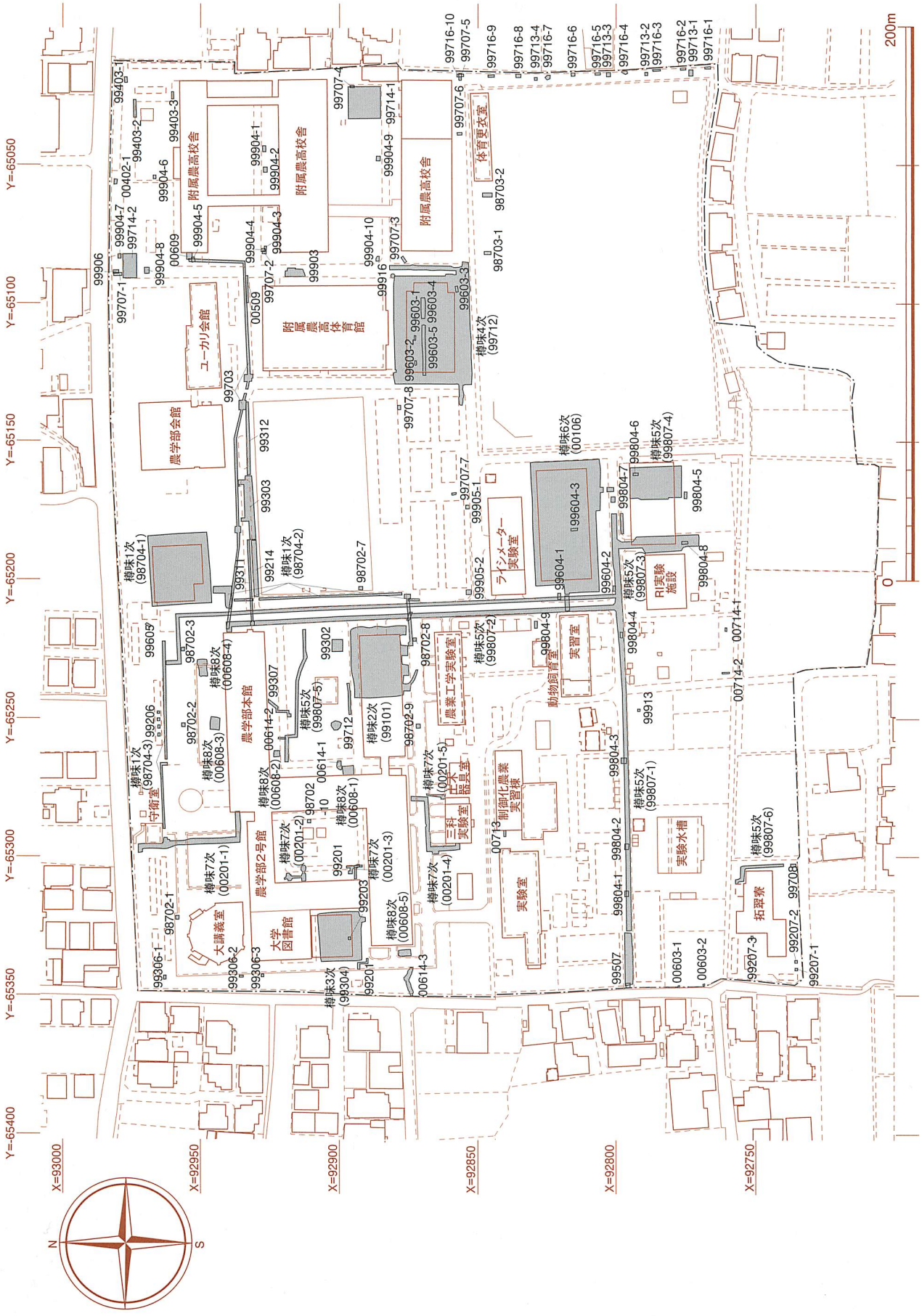


図41　樽味団地（樽味遺跡）における既往調査地点

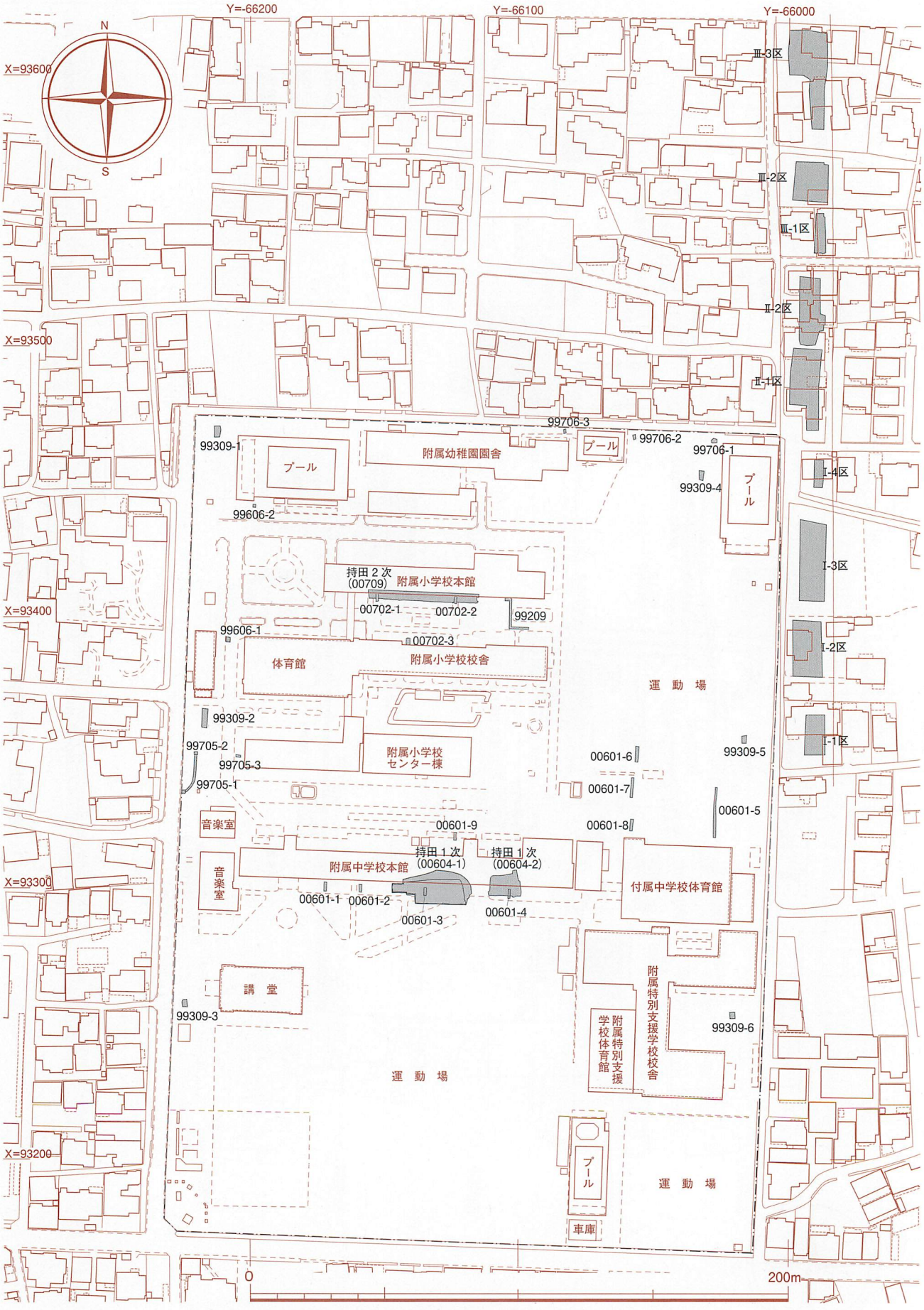


図42　持田団地（持田団地構内遺跡）における既往調査地点

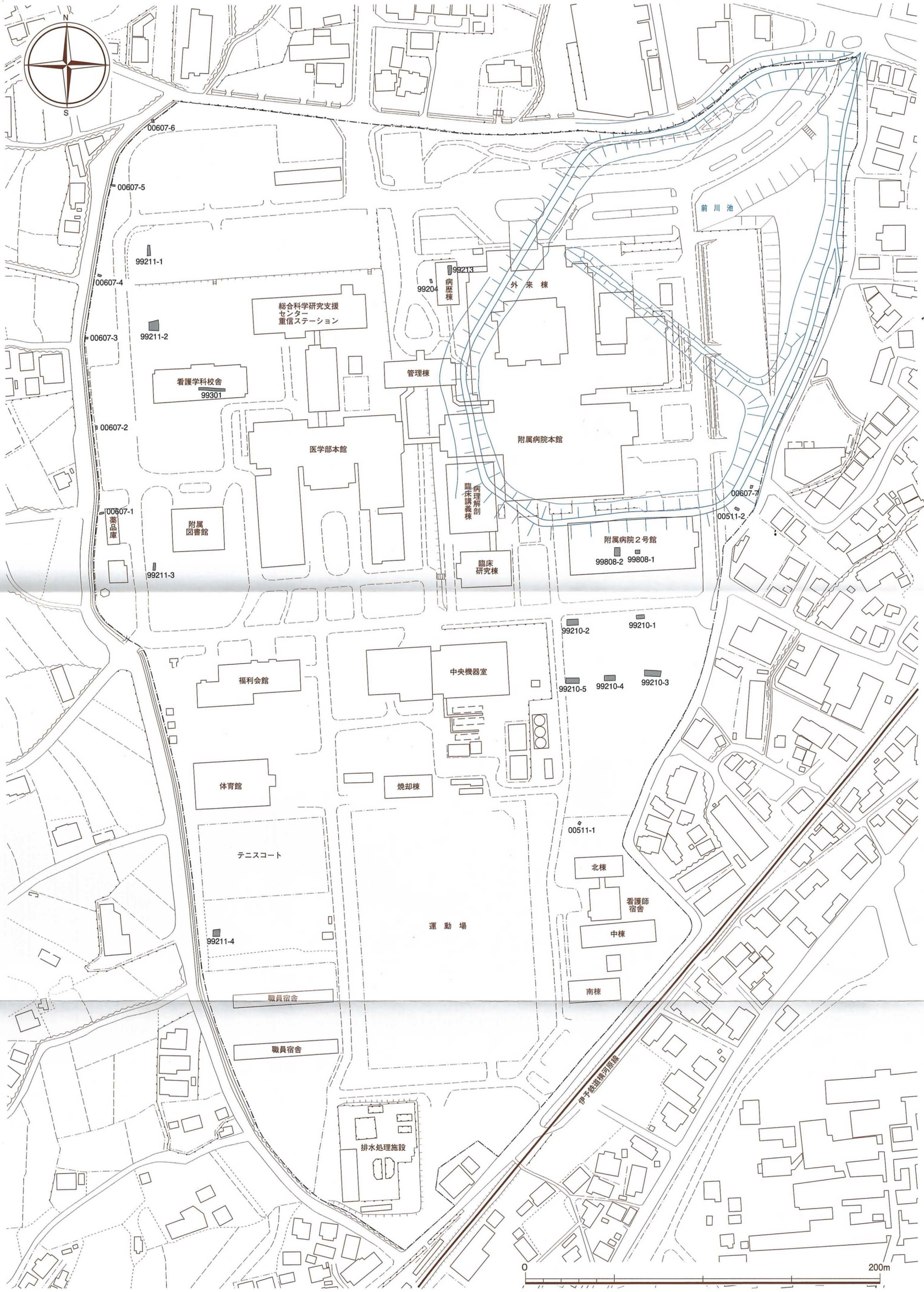


図43　重信団地における既往調査地点

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

—2006年度—

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XVIII

2008年３月31日

発　行　愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577　松山市道後樋又10−13
TEL 089-927-9127

印　刷　セ　キ　株　式　会　社
〒790-8686　松山市湊町７－７−1
TEL 089-945-0112

本文には再生紙を使用しています。